

アニュアル
レポート

2020 【公表版】

国立大学法人
東京学芸大学

目 次

I. 教育活動

(1) 学部入試状況	2
(2) 入学者の都道府県別選抜経過表	4
(3) 退学・休学別の状況	5
(4) 学部進路状況	7
(5) 大学院教育学研究科・特別専攻科入試状況	8
(6) 大学院教育学研究科・特別専攻科進路状況	9
(7) 大学院連合学校教育学研究科	10
(8) 附属学校入学者選抜状況	12
(9) 教員免許取得状況	13
(10) 諸資格取得者数	14
(11) 附属学校の教育実習生受入状況	14
(12) F D研修会	15
(13) 単位互換制度	16
(14) 学生支援	17
(15) キャリア支援	19

II. 研究活動

(1) 文部科学省機能強化経費事業	22
(2) 文部科学省等受託研究	23
(3) 文部科学省等補助金事業	23
(4) 科学研究費助成事業	24
(5) 産学連携研究	26
(6) 特別開発研究プロジェクト	30
(7) センターの研究活動	31
(8) 附属学校の研修活動	35
(9) 附属学校研究会	36
(10) 研究活動受賞者	37

III. 社会貢献活動

(1) 地域連携事業	39
(2) 免許状更新講習	40
(3) 受託事業	41
(4) 公開講座	42
(5) 附属学校現職教員研修講座	44

IV. 国際交流活動

(1) 大学間交流協定校	46
(2) 協定校派遣留学状況	48
(3) 短期留学状況	48
(4) 外国人留学生受入状況	49
(5) 教員・研究者の派遣受入状況	49
(6) 留学生センター事業	50

V. 大学運営

(1) 役員会 議題一覧	52
(2) 経営協議会 議題一覧	54
(3) 教育研究評議会 議題一覧	55
(4) 委員会等一覧	57
(5) 令和元年度収入・支出予算額	61
(6) 男女共同参画の現状	62
(7) 教職員の年齢構成	65

付：関係資料

(1) 令和2年度機構図	67
(2) 役職員	68
(3) 第3期中期目標・中期計画工程及び令和2年度計画	69
(4) 大学の目的	81
(5) ミッションの再定義	81
(6) 行動規範	84
(7) 点検評価規程	85

I . 教育活動

I - (1) 学部入試状況

①一般選抜(令和2年度)

類	選修・専攻	入学定員	募集人員	日程	日程別募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数		
										男	女	計
A類	国語	80	65	前	55	124	2.3	121	57	55	25	30
				後	10	107	10.7	41	12	12	3	9
	社会	70	70	前	50	112	2.2	110	53	52	35	17
				後	20	113	5.7	39	22	20	14	6
	数学	65	65	前	50	140	2.8	137	53	52	35	17
				後	15	83	5.5	33	17	16	9	7
	理科	85	85	前	60	98	1.6	96	63	61	34	27
				後	25	110	4.4	34	27	26	11	15
	音楽	25	25	前	17	36	2.1	36	17	17	0	17
				後	8	46	5.8	24	8	8	0	8
	美術	25	15	前	15	35	2.3	34	17	15	1	14
	保健体育	40	30	前	30	93	3.1	89	33	32	17	15
	家庭	15	12	前	12	40	3.3	40	14	14	1	13
	英語	15	8	前	8	14	1.8	14	9	8	3	5
	学校教育	20	20	前	15	19	1.3	18	16	16	9	7
				後	5	27	5.4	3	2	2	2	0
	学校心理	20	20	前	12	23	1.9	22	12	12	3	9
				後	8	56	7.0	19	10	9	3	6
	国際教育	15	12	前	12	25	2.1	24	14	13	1	12
	情報教育	20	20	前	15	48	3.2	46	16	16	13	3
後				5	26	5.2	13	6	6	4	2	
環境教育	20	20	前	15	24	1.6	24	16	14	8	6	
			後	5	39	7.8	12	7	6	1	5	
ものづくり技術	10	7	前	7	32	4.6	30	8	7	4	3	
幼児教育	20	16	前	16	37	2.3	37	18	18	1	17	
計	545	490	前	389	900	2.3	878	416	402	190	212	
			後	101	607	6.0	218	111	105	47	58	
B類	国語	20	15	前	15	63	4.2	62	17	17	9	8
	社会	25	25	前	20	40	2.0	36	23	21	1	
				後	5	42	8.4	11	5	2	3	
	数学	25	25	前	20	66	3.3	63	22	20	18	2
				後	5	34	6.8	12	6	5	1	
	理科	45	45	前	30	63	2.1	63	33	31	26	5
				後	15	54	3.6	11	14	13	10	3
	音楽	20	20	前	12	36	3.0	35	12	12	3	9
				後	8	29	3.6	21	8	8	1	7
	美術	20	15	前	15	26	1.7	25	17	17	3	14
	保健体育	20	10	前	10	34	3.4	32	12	10	8	2
	家庭	10	8	前	8	14	1.8	13	9	8	0	8
	技術	10	8	前	8	16	2.0	15	9	8	8	0
	英語	15	8	前	8	19	2.4	19	9	8	6	2
書道	20	16	前	16	69	4.3	67	18	18	2	16	
計	230	195	前	162	446	2.8	430	181	171	104	67	
			後	33	159	4.8	55	33	32	18	14	
C類	特別支援教育	40	35	前	30	68	2.3	66	31	30	9	21
				後	5	85	17.0	31	6	6	0	6
D類	養護教育	10	10	前	6	17	2.8	17	6	6	0	6
				後	4	39	9.8	15	5	5	0	5
学校教育系合計	825	730	前	587	1,431	2.4	1,391	634	609	303	306	
			後	143	890	6.2	319	155	148	65	83	
			計	730	2,321	3.2	1,710	789	757	368	389	

類	コース	入学定員	募集人員	日程	日程別募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数		
										男	女	計
E類	生涯学習	35	35	前	30	79	2.6	77	32	29	10	19
				後	5	65	13.0	24	8	6	1	5
	カウンセリング	20	13	前	13	39	3.0	39	15	13	0	13
	ソーシャルワーク	20	18	前	18	44	2.4	43	21	19	1	18
	多文化共生教育	40	40	前	30	85	2.8	83	32	29	10	19
				後	10	93	9.3	25	11	10	3	7
	情報教育	15	15	前	10	35	3.5	35	12	10	6	4
後				5	37	7.4	21	6	5	4	1	
表現教育	20	15	前	15	56	3.7	56	17	16	4	12	
生涯スポーツ	35	18	前	18	40	2.2	38	20	18	14	4	
教育支援系合計	185	154	前	134	378	2.8	371	149	134	45	89	
			後	20	195	9.8	70	25	21	8	13	
			計	154	573	3.7	441	174	155	53	102	

総計	1,010	884	前	721	1,809	2.5	1,762	783	743	348	395
			後	163	1,085	6.7	389	180	169	73	96
			計	884	2,894	3.3	2,151	963	912	421	491

②特別選抜(令和2年度)

類	選修・専攻・コース	入学定員	推薦入学					高大接続プログラム特別入試					帰国生				私費外国人留学生			
			募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
A類	国語	80	15	43	43	15	15	2	2	2	2					1	1	0	0	
	社会	70																		
	数学	65																		
	理科	85						1	1	1	1				1	0	0	0		
	音楽	25																		
	美術	25	10	19	19	10	10	1	1	1	1									
	保健体育	40	10	30	29	10	10													
	家庭	15	3	8	8	3	3													
	英語	15	7	16	16	7	7	1	1	1	1									
	学校教育	20																		
	学校心理	20													2	2	0	0		
	国際教育	15	3	13	13	3	3								1	1	0	0		
	情報教育	20																		
	環境教育	20																		
	ものづくり技術	10	3	9	9	3	3													
幼児教育	20	4	20	20	4	4														
計	545	55	158	157	55	55	5	5	5	5	0	0	0	0	5	4	0	0		
B類	国語	20	5	16	16	5	5	1	1	1	1									
	社会	25													3	0	0	0		
	数学	25									1	1	0	0						
	理科	45						1	1	1	1									
	音楽	20									1	1	0	0						
	美術	20	5	19	19	5	5							3	1	1	1			
	保健体育	20	10	16	15	10	10													
	家庭	10	2	6	6	2	2								1	0	0	0		
	技術	10	2	5	5	2	2													
	英語	15	7	22	22	7	7	1	1	1	1	1	1	0	0					
	書道	20	4	16	16	4	4													
計	230	35	100	99	35	35	3	3	3	3	3	3	0	0	7	1	1	1		
C類	特別支援教育	40	5	28	28	5	5								1	1	0	0		
D類	養護教育	10										1	1	1	1					
学校教育系合計		825	95	286	284	95	95	8	8	8	8	4	4	1	1	13	6	1	1	
E類	生涯学習	35													3	0	0	0		
	カウンセリング	20	7	28	28	7	7					1	1	0	0	4	3	0	0	
	ソーシャルワーク	20	2	8	8	2	2								4	4	0	0		
	多文化共生教育	40						1	1	1	1	4	4	2	2	15	11	1	1	
	情報教育	15																		
	表現教育	20	5	23	23	5	5								3	3	1	1		
	生涯スポーツ	35	7	22	21	8	8													
	※SA	10	10	10	10	10	10													
教育支援系合計		185	31	91	90	32	32	1	1	1	1	5	5	2	2	29	21	2	2	
総計		1,010	126	377	374	127	127	9	9	9	9	9	9	3	3	42	27	3	3	

③編入学(令和2年度) 募集なし

※ SAはスーパーアスリート推薦入試。

I - (2) 入学者の都道府県別選抜経過表

(令和2年度)

都道府県	学校教育系						教育支援系					
	志願者			入学者			志願者			入学者		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
01 北海道	22	12	34	8	10	18	8	11	19	3	1	4
02 青森県	7	6	13	3	2	5	2	2	4	1	0	1
03 岩手県	8	8	16	5	3	8	1	0	1	1	0	1
04 宮城県	12	8	20	5	4	9	4	7	11	1	1	2
05 秋田県	9	1	10	5	1	6	0	2	2	0	1	1
06 山形県	6	8	14	3	3	6	3	2	5	2	2	4
07 福島県	25	16	41	11	8	19	4	2	6	1	1	2
08 茨城県	41	45	86	14	14	28	13	23	36	3	7	10
09 栃木県	21	14	35	5	9	14	3	11	14	0	5	5
10 群馬県	29	26	55	11	13	24	8	9	17	3	3	6
11 埼玉県	127	122	249	33	38	71	16	45	61	4	15	19
12 千葉県	52	54	106	16	10	26	8	11	19	0	3	3
13 東京都	388	456	844	107	136	243	58	95	153	11	19	30
14 神奈川県	155	114	269	46	31	77	20	20	40	5	4	9
15 新潟県	30	17	47	16	9	25	3	4	7	0	3	3
16 富山県	8	19	27	1	9	10	3	12	15	1	3	4
17 石川県	9	8	17	4	2	6	0	2	2	0	1	1
18 福井県	3	5	8	0	4	4	3	2	5	2	0	2
19 山梨県	13	13	26	7	7	14	0	2	2	0	2	2
20 長野県	37	28	65	17	11	28	9	6	15	4	5	9
21 岐阜県	3	7	10	0	4	4	8	3	11	2	1	3
22 静岡県	38	34	72	12	14	26	4	14	18	1	6	7
23 愛知県	17	17	34	5	6	11	4	9	13	1	2	3
24 三重県	7	5	12	1	1	2	1	2	3	1	1	2
25 滋賀県	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
26 京都府	1	2	3	1	1	2	2	1	3	0	0	0
27 大阪府	4	8	12	1	2	3	2	0	2	1	0	1
28 兵庫県	0	5	5	0	2	2	0	1	1	0	1	1
29 奈良県	1	3	4	0	0	0	1	1	2	0	0	0
30 和歌山県	3	3	6	1	1	2	2	1	3	0	0	0
31 鳥取県	4	6	10	2	2	4	1	1	2	0	0	0
32 島根県	4	2	6	1	1	2	3	3	6	1	1	2
33 岡山県	3	4	7	0	1	1	3	4	7	1	0	1
34 広島県	14	9	23	3	4	7	2	7	9	0	1	1
35 山口県	2	4	6	0	0	0	0	1	1	0	0	0
36 徳島県	2	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0
37 香川県	1	7	8	0	2	2	0	2	2	0	1	1
38 愛媛県	4	5	9	3	1	4	0	3	3	0	2	2
39 高知県	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0
40 福岡県	7	14	21	4	4	8	4	5	9	0	3	3
41 佐賀県	3	5	8	0	2	2	2	2	4	1	0	1
42 長崎県	1	4	5	0	3	3	2	2	4	0	0	0
43 熊本県	4	11	15	1	5	6	3	7	10	1	2	3
44 大分県	1	2	3	0	1	1	3	4	7	1	2	3
45 宮崎県	6	5	11	2	2	4	2	2	4	0	1	1
46 鹿児島県	13	6	19	7	2	9	1	6	7	0	2	2
47 沖縄県	14	2	16	6	1	7	1	1	2	0	0	0
検定	8	3	11	1	2	3	1	1	2	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
計	1,167	1,154	2,321	368	389	757	220	353	573	53	102	155

推薦入学、高大接続プログラム特別入試、帰国生、私費外国人留学生は含まない。

I - (3) 退学・休学別の状況

①教育学部(令和元年度)

類	選修・専攻	学生数	退学者数					休学者数				
			1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
A類	国語	339				1 (1) [1]	1 (1) [1]		2	2 (2)	4 (3) (1)	8 (3) (3)
	社会	301	1			1 (1)	2 (1)			3 (1) (1)	3 (1) (1)	
	数学	293			1	2 (1) [2]	3 (1) [2]			6 (3) (1)	6 (3) (1)	
	理科	354				1 [1]	1 [1]			2 (1)	2 (1)	
	音楽	109				1 (1) [1]	1 (1) [1]			1 (1)	1 (1)	
	美術	112			1 [1]	2 (2) [1]	3 (2) [2]		2	1 (1)	3 (1)	
	保健体育	174				1 (1)	1 (1)			1 (1) (1)	1 (1) (1)	
	家庭	69								1 (1) (1)	1 (1) (1)	
	英語	65	1 [1]				1 [1]		1			1
	学校教育	95									3 (3)	3 (3)
	学校心理	95								1 (1)	2 (2)	3 (2) (1)
	国際教育	77								1 (1)	2 (2)	3 (3)
	日本語教育	0										
	情報教育	89										
	環境教育	87	1				1				1 (1)	1 (1)
ものづくり教育	0											
ものづくり技術	48				1	1				1 (1)	1 (1)	
幼児教育	89				2 (2) [1]	2 (2) [1]				1 (1)	1 (1)	
B類	国語	86							2		2	
	社会	115								3 (2)	3 (2)	
	数学	114				1	1			1	1 (1)	
	理科	193				2 (1) [1]	2 (1) [1]			3 (2)	5 (3)	
	音楽	86								1	1	
	美術	96								2	1 (1) (1)	
	保健体育	95				2 (2) [1]	2 (2) [1]			4 (3)	4 (3)	
	家庭	49								1	2 (2)	
	技術	48									3 (2)	
	英語	69	1				1			1 (1)	1 (1)	
書道	94							1	1	1 (1)		
C類	特別支援教育	180				2 [2]	2 [2]	1			4 (1) (1)	
D類	養護教育	44	1 [1]				1 [1]		1		1	
教育系 /学校教育系・計		3,665	5 [2]	2 [1]	19 (12) [11]	26 (12) [14]		1	5	18 (7)	53 (34) (11)	77 (34) (18)
E類	生涯学習	149	1			2	3			1 (1)	2 (1) (1)	3 (1) (2)
	カウンセリング	89	1				1				1	1
	ソーシャルワーク	83									2 (1) (1)	2 (1) (1)
	多文化共生教育	186				1	1	2 (1)	1	1 (1)	6 (3)	10 (5)
	情報教育	65										
	表現教育	91									1	1
	生涯スポーツ	147						1	1		2 (1)	4 (1)
N類	生涯学習	2										
	カウンセリング	0										
	総合社会システム	2				1 (1)	1 (1)					
K類	多言語多文化	1										
	日本語教育	0										
	日本研究	0										
	アジア研究	0										
F類	環境教育	3				1 (1) [1]	1 (1) [1]				1 (1)	1 (1)
	自然環境科学	2				1 (1)	1 (1)					
	文化財科学	0										
J類	情報教育	1									1 (1)	1 (1)
G類	音楽	1										
	美術	0										
	書道	1										
	表現コミュニケーション	3									1 (1)	1 (1)
	生涯スポーツ	0										
教養系 /教育支援系・計		827	2			6 (3) [1]	8 (3) [1]	3 (1)	2	3 (2)	16 (5) (6)	24 (5) (9)
総計		4,492	2	5 [2]	2 [1]	25 (15) [12]	34 (15) [15]	4 (1)	7	21 (9)	69 (39) (17)	101 (39) (27)

令和元年5月1日現在の学生数。
 () は卒業延期者で内数。休学は重複カウントしない。退学者には除籍者を含む。
 [] は休学中に退学した者で内数。
 <> は語学研修等のため休学した者で内数。

②修士課程(令和元年度)

専攻	学生数	退学者数			休学者数		
		1年	2年	計	1年	2年	計
学校教育	24 (9)	-	2	2	-	3	3
学校心理	32 (1)	-	0	0	-	1	1
特別支援教育	17 (0)	-	1	1	-	0	0
家政教育	6 (1)	-	0	0	-	0	0
国語教育	40 (7)	-	0	0	-	2	2
英語教育	22 (7)	0	0	0	1 ※	2	3
社会科教育	35 (12)	0	1	1	0	5	5
数学教育	11 (1)	-	1 【1】	1 【1】	-	3	3
理科教育	32 (6)	-	2 【1】	2 【1】	-	3	3
技術教育	3 (0)	-	0	0	-	0	0
音楽教育	27 (1)	-	0	0	-	1	1
美術教育	22 (5)	-	0	0	-	5	5
保健体育	31 (9)	-	4 【1】	4 【1】	-	6	6
養護教育	11 (6)	-	0	0	-	4	4
総合教育開発	42 (11)	-	3 【2】	3 【2】	-	5	5
次世代日本型教育システム研究開発	22 (0)	0	-	0	1	0	1
教育支援協働実践開発	87 (0)	2	-	2	4	0	4
計	464 (76)	2	14 【5】	16 【5】	6	40	46

令和元年5月1日現在の学生数。

()は修了延期者及び在籍3年目以上の長期履修学生で内数。休学は重複カウントしない。
退学者には除籍者を含む。【 】は休学中に退学した者で内数。

※「短期特別コース」の学生のため1年に記載。

③教職大学院(令和元年度)

専攻	学生数	退学者数			休学者数		
		1年	2年	計	1年	2年	計
教育実践専門職高度化専攻	190	0	—	0	2	—	2
教育実践創成	32	—	0	0	—	1	1

令和元年5月1日現在の学生数。

④特別支援教育特別専攻科(令和元年度)

	学生数	退学者数	休学者数
特別支援教育	21	0	0

令和元年5月1日現在の学生数。

I - (4) 学部進路状況

<課程別進路状況(学校教育系・旧教育系)>

令和元年9月30日現在

(人)

課程 進路先		初等教育 教員養成 課程 (A類)	中等教育 教員養成 課程 (B類)	特別支援 教育教員 養成課程 (C類)	養護教育 教員養成 課程 (D類)	合計
教員 (非常勤含む)	幼稚園	13	0	0	0	13
	小学校・義務教育学校	233	13	13	3	262
	中学校・中等教育学校	40	55	0	2	97
	高等学校	24	36	0	0	60
	特別支援学校	2	0	17	1	20
	教員小計	312	104	30	6	452
日本人学校		9	1	0	0	10
保育園等		4	0	0	0	4
企業・団体		111	55	5	1	172
公務員		20	11	0	0	31
進学		75	53	2	1	131
その他		24	14	2	1	41
	小計	243	134	9	3	389
計		555	238	39	9	841

*留学生及び前年9月卒業生は除く

<課程別進路状況(教育支援系・旧教養系)>

(人)

課程 進路先	生涯学習 コース (E類)	カウンセリング コース (E類)	ソーシャル ワーク コース (E類)	多文化共 生教育 コース (E類)	情報教育 コース (E類)	表現教育 コース (E類)	生涯ス ポーツ コース (E類)	旧教養系	合計
教員(非常 勤含む)	0	0	0	5	0	0	3	5	13
保育園等	1	0	0	0	0	0	0	0	1
企業・団体	16	7	7	15	10	12	21	31	119
公務員	6	0	7	1	0	0	2	5	21
進学	4	13	0	5	3	0	7	3	35
その他	0	0	1	0	1	5	5	12	24
計	27	20	15	26	14	17	38	56	213

I - (5) 大学院教育学研究科・特別専攻科入試状況

①修士課程(令和2年度) 令和2年10月1日現在

専攻	プログラム	募集人員	志願者							受験者														
			一般	現職教員	派遣教員	社会人	教育支援人材	留学生等 外国教育を受けた者	一般(第2次募集)	北京DP	ソウルDP	10月入学	合計	一般	現職教員	派遣教員	社会人	教育支援人材	留学生等 外国教育を受けた者	一般(第2次募集)	北京DP	ソウルDP	10月入学	合計
次世代日本型教育システム研究開発		20	11			1	32	1			1		45	10			1	30	1		1			42
	計	20	11			1	32	1			1		45	10			1	30	1		1			42
教育支援協働実践開発	教育AI研究	35	22			3	13	1	10				48	19			3	12	1	9				43
	臨床心理学	20	40	2		1						43	33	1		1								35
	教育協働研究	34	27			4	13		20			64	25			4	9		18				56	
	計	89	89	2		8	26	1	30			155	77	1		8	21	1	27				134	
合計		109	100	2		9	58	2	30	1		200	87	1		9	51	2	27	1			176	

教育

専攻	プログラム	募集人員	合格者							入学者														
			一般	現職教員	派遣教員	社会人	教育支援人材	留学生等 外国教育を受けた者	一般(第2次募集)	北京DP	ソウルDP	10月入学	合計	一般	現職教員	派遣教員	社会人	教育支援人材	留学生等 外国教育を受けた者	一般(第2次募集)	北京DP	ソウルDP	10月入学	合計
次世代日本型教育システム研究開発		20	9				13				1		23	7			12				0			19
	計	20	9				13				1		23	7			12				0			19
教育支援協働実践開発	教育AI研究	35	17			3	11	1	6			37	16			3	10	1	4				33	
	臨床心理学	20	23									23	22										22	
	教育協働研究	34	21			4	2		6			33	19			4	2		6			31		
	計	89	61			7	13	0	12			93	57			7	12	1	10	0		86		
合計		109	70			7	26	0	12	1		116	64			7	24	1	10	0		105		

②教職大学院(教育実践専門職高度化専攻)(令和2年度) 令和2年4月1日現在

入学定員:210名

選抜試験日程	募集人員	志願者					受験者					合格者					入学者					
		特別	一般	現職教員	派遣教員	計	特別	一般	現職教員	派遣教員	計	特別	一般	現職教員	派遣教員	計	特別	一般	現職教員	派遣教員	計	
A日程	205	37	178	26	21	262	37	154	25	21	237	37	120	22	21	200	37	107	20	21	185	
B日程	5				12	12				12	12				12	12					12	12
計	210	37	178	26	33	274	37	154	25	33	249	37	120	22	33	212	37	107	20	33	197	

③教職大学院・入学者の状況

出身大学	人数
東京学芸大学	68
その他国公立大学	15
私立大学	61
計	144

出身大学の人数は現職教員を含まない。

派遣元機関	人数
東京都教育委員会	22
神奈川県教育委員会	1
埼玉県教育委員会	1
栃木県教育委員会	1
静岡県教育委員会	2
広島県教育委員会	2
高知県教育委員会	1
さいたま市教育委員会	1
川崎市教育委員会	1
附属学校	1
計	33

④教職大学院・入学者の教員免許取得状況(学生数197名)

	のべ人数
幼稚園	21
小学校	87
中学校	171
高等学校	221
特別支援学校	10
養護教諭	5
計	515

のべ人数には2種免許状取得者を含まない

⑥特別支援教育特別専攻科(令和2年度)

⑤修士課程・10月入学(令和2年度)

なし

入学定員(募集人員)	志願者	受験者	合格者	入学者
30	32(3)	29(3)	23(1)	21(1)

()の数字は現職教員等の特例措置適用者を内数で示す。

I - (6) 大学院教育学研究科・特別専攻科進路状況

① 大学院修士課程(教職大学院を除く)進路状況(平成31年3月修了生) (令和元年9月30日現在)

専攻 進路先	学校教育専攻	学校心理専攻	特別支援教育専攻	家政教育専攻	国語教育専攻	英語教育専攻	社会科教育専攻	数学教育専攻	理科教育専攻	技術教育専攻	音楽教育専攻	美術教育専攻	保健体育専攻	養護教育専攻	総合教育開発専攻	合計
教員	3	5	8	3	13	3	12	5	18	0	15	8	10	1	7	111
企業・団体	1	8	1	2	2	1	4	0	5	1	7	6	8	0	13	59
公務員(スクールカウンセラー等を含む)	0	11	1	0	2	0	2	0	1	0	0	1	1	0	4	23
進学等	0	0	1	0	1	1	0	2	1	0	1	0	0	1	0	8
その他	1	3	2	0	1	1	0	0	1	0	4	0	0	0	1	14
計(卒業者数)	5	27	13	5	19	6	18	7	26	1	27	15	19	2	25	215

※※現職教員及び留学生は含まない

② 教職大学院進路状況(平成31年3月修了生) (令和元年9月30日現在)

教育実践創成専攻		現職	一般	計
教員 (非常勤含む)	小学校	11	7	18
	中学校・中等教育学校	3	11	14
	高等学校	4	8	12
	特別支援学校	0	0	0
	教員小計	18	26	44
教育委員会		4	0	4
進学		0	0	0
その他		0	2	2
合計		22	28	50

③ 特別支援教育特別専攻科(平成31年3月修了者) (令和元年9月30日現在)

専攻科		計
教員 (非常勤含む)	小学校	2
	中学校	1
	特別支援学校	10
	教員 小計	13
企業・団体		3
進学		1
その他		1
合計		18

I - (7) 大学院連合学校教育学研究科

①指導教員有資格者数および入学者選抜経過(令和2年度)

入学定員:30名

講座名	指導教員 有資格者数 [主指導/副指導]	志願者	受験者数	合格者数	入学者数	配置大学			
						学芸	埼玉	千葉	横国
教育構造論	17 [15 /2]	5 (0・0)	4 (0・0)	2 (0・0)	2 (0・0)	1 (0・0)	0 (0・0)	1 (0・0)	0 (0・0)
教育方法論	19 [19 /0]	14 (3・2)	11 (1・2)	5 (0・1)	5 (0・1)	4 (0・1)	0 (0・0)	0 (0・0)	1 (0・0)
発達支援	14 [14 /0]	7 (0・3)	4 (0・3)	3 (0・3)	3 (0・3)	2 (0・2)	1 (0・1)	0 (0・0)	0 (0・0)
言語文化系教育	35 [35 /0]	14 (4・5)	13 (4・5)	6 (0・4)	6 (0・4)	4 (0・3)	0 (0・0)	1 (0・1)	1 (0・0)
社会系教育	29 [28 /1]	6 (3・1)	5 (2・1)	1 (0・0)	1 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)	1 (0・0)
自然系教育	43 [39 /4]	4 (0・3)	4 (0・3)	3 (0・2)	3 (0・2)	3 (0・2)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)
芸術系教育	42 [42 /0]	11 (2・0)	10 (2・0)	5 (1・0)	4 (1・0)	1 (0・0)	0 (0・0)	1 (0・0)	2 (1・0)
健康・スポーツ系教育	19 [19 /0]	4 (1・0)	4 (1・0)	3 (1・0)	3 (1・0)	2 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)	1 (1・0)
生活・技術系教育	33 [33 /0]	6 (1・2)	6 (1・2)	4 (1・1)	4 (1・1)	1 (1・0)	2 (0・1)	1 (0・0)	0 (0・0)
計	251 [244 /7]	71 (14・16)	61 (11・16)	32 (3・11)	31 (3・11)	18 (1・8)	3 (0・2)	4 (0・1)	6 (2・0)

()内の左側は外国人留学生、右側は現職教員で内数。

②学位授与率

講座名	平成8~29年度 までの 入学者数	令和元年度 までの学位 授与者数	学位授与率 (%)	令和元年度 学位授与者数	令和元年度 標準修業年 限修了者数	令和元年度 標準修業年 限修了者率 (%)	平成26~令和元 年度 学位授与者数	平成26~令和元 年度 学位授与者 平均在学年数 (休学期間を含む)
	(A)	(B)	(B)/(A)	(C)	(D)	(D)/(C)		
教育構造論	60 (9)	34 (5)	56.7 (55.6)	1	0	0.0	10	4.6
教育方法論	66 (7)	45 (5)	68.2 (71.4)	3 (2)	2 (1)	66.7	19	4.4
発達支援	64 (4)	58 (3)	90.6 (75.0)	2	2	100.0	21	3.6
言語文化系教育	72 (22)	48 (15)	66.7 (68.2)	2	0	0.0	15	4.1
社会系教育	50 (10)	13 (3)	26.0 (30.0)	0	0	0.0	1	9.0
自然系教育	59 (3)	42 (2)	71.2 (66.7)	2	1	50.0	11	3.6
芸術系教育	73 (9)	38 (7)	52.1 (77.8)	3	1	33.3	11	5.0
健康・スポーツ系教育	62 (1)	32 (1)	51.6 (100.0)	0	0	0.0	11	4.7
生活・技術系教育	72 (11)	38 (7)	52.8 (63.6)	1 (1)	0	0.0	12	4.4
計	578 (76)	348 (48)	60.2 (63.2)	14 (3)	6 (1)	42.9 (33.3)	111	4.3

()内は外国人留学生で内数。

③ 修了生の就職先・就職率(開設～令和2年3月)

講座名	種別	修了・退学者数	大学教員	短大教員	研究員、教員 以外の研究職	小・中・高校 教員	非常勤講師	進学	その他	未定	常勤就職率 (%)	研究職就職率 (%)
教育構造論	修了	34	21 (1)	2	0	2	4	0	2	3	79.4	67.6
	単位修得満期退学	18	7	1	2	2	3	0	2	1	77.8	55.6
	退学	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0.0	0.0
	計	53	28 (1)	3	2	4	8	0	4	4	77.4	62.3
教育方法論	修了	45	27	1	4	1	8 (3)	0	1	3	75.6	71.1
	単位修得満期退学	15	6 (2)	2	2	2	1	0	1	1	86.7	66.7
	退学	3	2	0	0	1	0	0	0	0	100.0	66.7
	計	63	35 (2)	3	6	4	9 (3)	0	2	4	79.4	69.8
発達支援	修了	58	36 (1)	1	3	7	5 (1)	0	5	1	89.7	69.0
	単位修得満期退学	4	1	0	1	1	0	0	0	1	75.0	50.0
	退学	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0	0.0
	計	63	37 (1)	1	4	8	5 (1)	0	5	3	87.3	66.7
言語文化系教育	修了	48	22 (2)	0	1	6	14	0	1	4	62.5	47.9
	単位修得満期退学	14	7 (1)	0	0	1	4 (1)	0	0	2	57.1	50.0
	退学	4	0	0	0	1	1	0	1	1 (1)	50.0	0.0
	計	66	29 (3)	0	1	8	19 (1)	0	2	7 (1)	60.6	45.5
社会系教育	修了	13	7	0	0	1	3	0	1	1	69.2	53.8
	単位修得満期退学	26	8	0	2	5	2	0	3	6	69.2	38.5
	退学	3	0	0	0	0	0	0	1	2	33.3	0.0
	計	42	15	0	2	6	5	0	5	9	66.7	40.5
自然系教育	修了	42	25 (1)	0	2	11	3	0	1 (1)	0	92.9	64.3
	単位修得満期退学	9	2	0	2	3 (1)	1	1	0	0	77.8	44.4
	退学	2	0	0	0	1	0	0	0	1	50.0	0.0
	計	53	27 (1)	0	4	15 (1)	4	1	1 (1)	1	88.7	58.5
芸術系教育	修了	38	22 (2)	0	1	3	6 (1)	0	2	4	73.7	60.5
	単位修得満期退学	23	9	1	2	1	3	1	3	3 (1)	69.6	52.2
	退学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	---
	計	61	31 (2)	1	3	4	9 (1)	1	5	7 (1)	72.1	57.4
健康・スポーツ系教育	修了	32	27	2	0	1	1	0	0	1	93.8	90.6
	単位修得満期退学	17	11	1	0	3	1	0	1	0	94.1	70.6
	退学	2	0	0	0	0	0	0	1	1	50.0	0.0
	計	51	38	3	0	4	2	0	2	2	92.2	80.4
生活・技術系教育	修了	38	27	0	0	4	2	0	3 (1)	2	89.5	71.1
	単位修得満期退学	17	7	0	1	3	1 (1)	0	2	3	76.5	47.1
	退学	4	0	0	1	2	0	0	1	0	100.0	25.0
	計	59	34	0	2	9	3 (1)	0	6 (1)	5	86.4	61.0
総計	修了	348	214 (7)	6	11	36	46 (5)	0	16 (2)	19	81.3	66.4
	単位修得満期退学	143	58 (3)	5	12	21 (1)	16	2	12	17 (1)	75.5	52.4
	退学	20	2	0	1	5	2	0	4	6 (1)	60.0	15.0
	計	511	274 (10)	11	24	62 (1)	64 (7)	2	32 (2)	42 (2)	78.9	60.5

1. ()内は令和元年度中に新たに決まった人数で内数。

2. 常勤就職率は、「大学教員」から「小・中・高校教員」までの合計に「その他」を加えた就職者数を「修了・退学者数」で割った数値。

3. 研究職就職率は、「大学教員」から「研究員・教員以外の研究職」までの合計就職者数を「修了・退学者数」で割った数値。

I - (8) 附属学校入学者選抜状況

(令和2年度)

学校名	入学定員		募集人員	入学志願者			受験者(A)			合格者(B)			受験倍率(A/B)			入学者			
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	全体	男	女	計	
幼稚園	小金井	3才	50	男女計約50	26	27	53	26	27	53	24	26	50	1.1	1.0	1.1	20	21	41
				障 若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1.0	/	1.0	1	/	1
	竹早	4才	30	男15 女15	241	210	451	211	183	394	15	15	30	14.1	12.2	13.1	15	15	30
小学校	世田谷		105	男女各52~53	619	556	1,175	517	401	918	53	52	105	9.8	7.7	8.7	53	51	104
	小金井	内	105	男女各52~53	13	7	20	13	7	20	3	4	7	4.3	1.8	2.9	3	4	7
		外			496	489	985	360	333	693	67	56	123	5.4	5.9	5.6	50	48	98
	大泉		90	男女各45	643	596	1,239	643	596	1,239	45	45	90	14.3	13.2	13.8	45	44	89
	竹早	内	70		13	14	27	13	14	27	13	14	27	1.0	1.0	1.0	13	14	27
外		男女各20程度		1,248	1,163	2,411	1,248	1,163	2,411	23	21	44	54.3	55.4	54.8	22	21	43	
中学校	世田谷	内	140		47	41	88	47	40	87	45	38	83	1.0	1.1	1.0	44	38	82
		外		男女あわせて約60	134	127	261	106	80	186	35	45	80	3.0	1.8	2.3	24	37	61
	小金井	内	140	男36 女45	36	45	81	36	45	81	36	45	81	1.0	1.0	1.0	36	45	81
		外		男34 女25	69	54	123	56	38	94	34	25	59	1.6	1.5	1.6	34	25	59
	国際中等教育学校	内	105	45	25	28	53	25	28	53	19	26	45	1.3	1.1	1.2	19	26	45
				約60	136	201	337	121	190	311	9	57	66	13.4	3.3	4.7	9	52	61
		帰	編入	2年 数名	10	14	24	10	13	23	2	3	5	5.0	4.3	4.6	2	2	4
		帰	編入	3年 数名	9	9	18	8	9	17	1	1	2	8.0	9.0	8.5	1	1	2
		帰		4年 数名	8	11	19	3	5	8	0	3	3	/	1.7	2.7	/	3	3
		帰	編入	5年 数名	6	2	8	5	2	7	0	1	1	/	2.0	7.0	/	1	1
	帰		6年 数名	0	1	1	0	1	1	0	1	1	/	1.0	1.0	/	1	1	
竹早	内	140		36	36	72	36	36	72	36	36	72	1.0	1.0	1.0	36	36	72	
	外		男43 女43	198	185	383	140	137	277	43	43	86	3.3	3.2	3.2	35	37	72	
高等学校	高等学校	留	320	男女各107	138	152	290	137	152	289	107	107	214	1.3	1.4	1.4	107	107	214
				男女計106	479	379	858	434	347	781	110	90	200	3.9	3.9	3.9	44	42	86
				若干名	0	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	帰	15	男女計15	38	28	66	22	20	42	13	13	26	1.7	1.5	1.6	7	6	13	
特別支援学校	幼稚部		5	4才児男女あわせて若干名	5	0	5	5	0	5	2	0	2	2.5	/	2.5	2	/	2
				5才児なし	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	小	3	内		1	1	2	1	1	2	1	1	2	1.0	1.0	1.0	1	1	2
			外	男女あわせて若干名	3	1	4	3	1	4	0	1	1	/	1.0	4.0	/	1	1
	中	6	内		3	0	3	3	0	3	3	0	3	1.0	/	1.0	3	/	3
			外	男女あわせて若干名	6	7	13	6	7	13	1	3	4	6.0	2.3	3.3	1	3	4
	高	8	内		4	3	7	4	3	7	4	3	7	1.0	1.0	1.0	4	3	7
外			男女あわせて若干名	3	0	3	3	0	3	2	0	2	1.5	/	1.5	2	/	2	

I - (9) 教員免許取得状況

(令和2年3月卒業者)

類	選修・専攻	卒業 者数	免許取 得者数	免許種							一人当たり免許状取得数					平均 取得数
				小学校	中学校	高校	幼稚園	特別支援	養護	計	1枚	2枚	3枚	4枚	5枚	
A類	国語	77	73	73	64	65	13	3	0	218	6	2	52	13	0	3.0
	社会	68	66	66	55	100	14	0	0	235	12	2	2	38	※ 12	3.6
	数学	64	61	61	56	54	5	0	0	176	5	2	49	5	0	2.9
	理科	79	77	77	57	56	13	2	0	205	17	4	44	12	0	2.7
	音楽	27	27	27	26	26	12	0	0	91	1	0	14	12	0	3.4
	美術	29	29	29	22	19	8	0	0	78	6	6	9	7	1	2.7
	保健体育	43	42	42	21	29	8	0	0	100	11	9	17	5	0	2.4
	家庭	17	16	16	16	16	6	0	0	54	1	1	7	5	2	3.4
	英語	17	17	17	15	15	2	1	0	50	2	0	12	3	0	2.9
	学校教育	26	25	25	16	14	7	0	0	62	5	6	11	3	0	2.5
	学校心理	27	25	25	14	13	7	0	0	59	6	6	11	2	0	2.4
	幼児教育	21	21	19	0	0	21	1	0	41	2	18	1	0	0	2.0
	国際教育	15	14	14	6	6	3	0	0	29	5	3	6	0	0	2.1
	情報教育	21	20	20	8	8	0	0	0	36	12	0	8	0	0	1.8
	環境教育	21	20	20	13	21	1	1	0	56	5	2	5	8	0	2.8
ものづくり技術	8	8	8	4	4	4	0	0	20	1	3	3	1	0	2.5	
B類	国語	19	18	6	18	18	0	0	0	42	0	12	6	0	0	2.3
	社会	26	24	0	24	45	0	0	0	69	0	3	21	0	0	2.9
	数学	23	23	0	23	23	0	0	0	46	0	23	0	0	0	2.0
	理科	42	41	6	41	41	0	0	0	88	0	35	6	0	0	2.1
	音楽	21	21	1	21	21	0	0	0	43	0	20	1	0	0	2.0
	美術	21	21	1	21	30	0	0	0	52	0	12	8	1	0	2.5
	保健体育	24	24	5	25	24	0	0	0	54	0	18	6	0	0	2.3
	家庭	14	12	3	13	13	2	0	0	31	0	9	1	1	※ 1	2.6
	技術	11	10	2	15	15	0	0	0	32	0	4	1	4	1	3.2
	英語	14	13	3	13	13	1	0	0	30	0	10	2	1	0	2.3
	書道	22	22	11	22	43	0	0	0	76	0	0	12	10	0	3.5
C類	特別支援教育	40	37	37	19	17	23	37	0	133	0	6	13	8	10	3.6
D類	養護教育	12	12	0	9	9	0	0	12	30	3	0	9	0	0	2.5
教育系・学校教育系/計		849	819	614	657	758	150	45	12	2,236	100	216	337	139	27	2.7
E類	生涯学習	36														
	カウンセリング	19														
	ソーシャルワーク	21														
	多文化共生教育 多言語多文化サブコース	30	18	0	18	18	0	0	0	36	0	18	0	0	0	2.0
	多文化共生教育 地域研究サブコース	8	6	0	6	8	0	0	0	14	0	4	2	0	0	2.3
	情報教育	12	5	0	0	5	0	0	0	5	5	0	0	0	0	1.0
	表現教育	20														
	生涯スポーツ	34	30	0	15	28	0	0	0	43	18	12	0	0	0	1.4
N類	生涯学習	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	総合社会システム	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
K類	多言語多文化	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	欧米研究	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
J類	情報教育	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
G類	書道	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1.0
	表現コミュニケーション	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
教養系・教育支援系/計		188	60	0	39	60	0	0	0	99	24	34	2	0	0	1.7
総計		1,037	879	614	696	818	150	45	12	2,335	124	250	339	139	27	2.7

免許取得者数等は一括申請分(大学で卒業年次の学生の免許申請をとりまとめ、東京都教育委員会へ申請したもの)のみ。

※A類社会は、5枚取得者が11人と、6枚取得者が1人。

※B類家庭は、6枚取得者が1人。

教育

I - (10) 諸資格取得者数

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	令和元年度の内訳	
									教育系・学校教育系	教養系・教育支援系
司書教諭	225	146	125	165	118	84	122	150	148	2
司書	53	29	39	24	27	27	18	29	7	22
社会教育主事	54	36	36	34	38	42	36	34	5	29
学芸員	45	43	30	28	32	32	26	35	12	23
社会福祉士 (受験資格)	13	13	13	15	18	20	16	19	0	19
スクールソーシャルワーカー		2	3	5	2	2	3	6	0	6
保育士 (幼児教育選修のみ)	22	20	22	25	21	22	21	19	19	

学部学生のみの数。

I - (11) 附属学校の教育実習生受入状況

(令和元年度)

学校名	教員数	学級数	園児・児童・ 生徒数	教育実習生配当数					
				必修前半	必修後半	必修合計	選択	教養系	計
幼稚園小金井園舎	9	6	141	11	9	20			20
幼稚園竹早園舎	4	2	59	0	2	2			2
世田谷小学校	27	18	617	83	81	164	10		174
小金井小学校	28	18	618	83	82	165	10		175
大泉小学校	30	22 <4>	580 (22)	84	81	165	10		175
竹早小学校	19	12	410	57	49	106	7		113
世田谷中学校	21	12	434	55		55	66		121
小金井中学校	23	12	439	54		54	65		119
竹早中学校	23	12	448	53		53	65		118
高等学校	56	24	980 (34)	66		66	143		209
国際中等教育学校	51	24	729 (34)	73		73	117		190
特別支援学校	32	11	67	28		28	14		42
計	323	173 <4>	5,522 (90)			951	507	0	1,458

< >内は、帰国児童学級の数で内数。()内は、海外帰国児童・生徒の数で内数。

I - (12) FD研修会

(令和元年度)

NO	日時	場所	研修会名	担当部局
1	6月19日(水) 14:30~16:00	N410	東京学芸大学FD研修会(第1回) 『教職大学院の認証評価を知る』	PD推進本部
2	6月26日(水) 15:00~16:10	C201 C204 C301 C303	令和元年度附属学校研究会全体会	附属学校研究会
3	11月20日(水) 14:30~15:45	N410	東京学芸大学FD研修会(第2回) 『修士課程教育AI研究プログラムを知る』	PD推進本部
4	11月26日(火) 13:10~14:20	S103	『学校教育系学生の教職志望度を考える』 ~IRデータを基に~	次世代教育研究センター
5	12月5日(木) 17:15~18:45	第一会議室	第38回 東京学芸大学教育実習研究シンポジウム	次世代教育研究センター
6	1月17日(金) 15:30~16:30	S410	東京学芸大学PD研修会(第3回) 『フラッグシップ大学とは?』	PD推進本部
7	1月29日(水) 14:30~15:30	S304	コンピテンシー育成のための授業動画配信システム21 CoDOMoSのすすめ—教員養成での活用事例の紹介—	次世代型教育研究推進機構
8	2月20日(木) 14:00~16:30	S203	特別開発研究プロジェクト報告会	教育実践研究推進本部

I - (13) 単位互換制度

①多摩地区国立5大学単位互換に伴う派遣・受入学生数(学部)

年 度		28年度		29年度		30年度		令和元年度	
協定校	派遣・受入	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数
一橋大学	派遣	20	21	2	4	1	1	6	9
	受入	0	0	1	1	0	0	1	2
東京外国語大学	派遣	19	29	1	1	4	8	5	7
	受入	7	10	1	2	0	0	0	0
電気通信大学	派遣	0	0	0	0	0	0	0	0
	受入	3	7	1	1	0	0	1	1
東京農工大学	派遣	8	16	0	0	2	3	3	6
	受入	5	9	2	5	0	0	0	0
計	派遣	47	66	3	5	7	12	17	25
	受入	15	26	5	9	0	0	4	8

「多摩地区国立5大学単位互換に関する協定書」及び「多摩地区国立5大学単位互換に関する実施要項」に基づく単位互換。

②多摩地区国立大学大学院単位互換に伴う派遣・受入学生数(大学院)

年 度		28年度		29年度		30年度		令和元年度	
協定校	派遣・受入	人数	科目	人数	科目	人数	科目	人数	科目
東京外国語大学	派遣	1	1	3	5	4	4	1	1
	受入	0	0	2	2	0	0	0	0
電気通信大学	派遣	0	0	0	0	0	0	0	0
	受入	0	0	0	0	1	1	0	0
東京農工大学	派遣	0	0	0	0	0	0	0	0
	受入	0	0	1	1	0	0	0	0
計	派遣	1	1	3	5	4	4	1	1
	受入	0	0	3	3	1	1	0	0

「多摩地区国立5大学単位互換に関する協定書」及び「多摩地区国立大学大学院単位互換に関する実施要項」に基づく単位互換。

③その他の単位互換(大学院)

年 度		28年度		29年度		30年度		令和元年度	
協定校	派遣・受入	人数	科目	人数	科目	人数	科目	人数	科目
東京女子大学	派遣	0	0	1	2	0	0	0	0
	受入	0	0	0	0	0	0	0	0
日本女子大学	派遣	0	0	0	0	0	0	0	0
	受入	0	0	0	0	0	0	0	0
計	派遣	0	0	1	2	0	0	0	0
	受入	0	0	0	0	0	0	0	0

東京女子大学及び日本女子大学とは、それぞれに単位互換の協定を締結している。

東京女子大学は、同大学院人間科学研究科人間文化科学専攻日本文学文化分野及び現代日本語・日本語教育分野と本学大学院教育学研究科国語教育専攻との単位互換である。

I - (14) 学生支援

①教職特待生

年度	29年度		30年度		31年度	
区分	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数
学部	24	11	10	7	12	6

* 特待生は更新ありません。(令和2年度は募集停止)

②むさしの奨学金

年度	29年度		30年度		31年度	
区分	緊急支援	学資支援	緊急支援	学資支援	緊急支援	学資支援
学部	2	18	6	56	3	49
修士課程	0	9	0	12	1	6
教職大学院	0	0	0	0	0	5
特別専攻科	0	0	0	0	0	0

③日本学生支援機構奨学金

年度	29年度				30年度				31年度			
区分	申請者数	1種	2種	併用	申請者数	1種	2種	併用	申請者数	1種	2種	併用
学部	285	119	124	28	314	129	141	34	264	112	113	32
修士課程	80	59	12	6	66	52	10	2	21	16	3	2
教職大学院	5	3	2	0	4	2	2	0	34	24	6	2
博士課程	8	7	0	1	6	6	0	0	7	6	1	0
特別専攻科	2	1	0	0	3	1	2	0	0	0	0	0

予約採用者も申請者数と各採用者数に含む。

併用は重複カウントせず1名と数える。

④入学料免除及び徴収猶予

年度	29年度			30年度			31年度			
区分	申請者数	全額	半額	申請者数	全額	半額	申請者数	全額	半額	
入学料免除	学部	5 (4)	2 (2)	2 (1)	2 (2)	2 (2)	0	5 (5)	2 (2)	0
	修士課程	61	7	12	57 (3)	4	17 (1)	31	3	8
	教職大学院	2	0	1	0	0	0	21 (1)	4 (1)	4
	博士課程	2	0	0	6	1	1	5	1	1
	特別専攻科	0	0	0	1	0	1	1	0	0
徴収猶予	学部	12	11	/	15	14	/	9	6	/
	修士課程	2	0	/	1	0	/	2	2	/
	教職大学院	0	0	/	0	0	/	0	0	/
	博士課程	0	0	/	0	0	/	0	0	/
	特別専攻科	0	0	/	0	0	/	0	0	/

教職特待生の免除分は含まない。

()は被災学生に係る免除枠で内数。

⑤授業料免除

年度	29年度				30年度				31年度			
区分	申請者数	全額	半額	不許可	申請者数	全額	半額	不許可	申請者数	全額	半額	不許可
学部	935 (33)	527 (13)	272 (14)	136 (6)	972 (28)	585 (16)	201 (8)	186 (4)	981 (29)	503 (14)	296 (10)	182 (5)
修士課程	292	145	79	68	323 (5)	187 (2)	64	72 (3)	242 (7)	115 (4)	95	32 (3)
教職大学院	10	6	1	3	9	6	2	1	50 (2)	21 (2)	12	17
博士課程	69	45	17	7	82 (2)	42 (2)	27	13	69 (2)	29 (2)	23	17
特別専攻科	3	2	0	1	2	2	0	0	3	0	2	1

教職特待生の免除分は含まない。卓越した学生に対する免除分を含む。

()は被災学生に係る免除枠で内数。

⑥-1 保健管理センターの利用状況

年度	29年度	30年度	31年度
保健管理センター	2,759	2,947	2,656

診察・相談・処置等の延べ人数で、定期健康診断・教職員の利用を除く。

⑦-1 学生相談室の利用状況

年度	29年度	30年度	31年度
学生相談室	1,766 (249)	1,699 (265)	1,750 (263)

延べ人数。()は実人数。

⑧-1 障がい学生支援室月別利用状況

年度	30年度	31年度
障がい学生支援室	1,607	875

延べ人数。

⑥-2 保健管理センター月別利用状況(平成31年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成31年度	104	326	321	275	103	40	105	957	256	97	26	46

診察・相談・処置等の延べ人数で、定期健康診断・教職員の利用を除く。(※ワクチン接種含む)。

⑦-2 学生相談室月別利用状況(平成31年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成31年度	136	146	169	185	97	86	143	172	164	183	129	140

延べ人数。

⑧-2 障がい学生支援室月別利用状況(平成31年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和元年度	216	83	83	83	33	9	54	90	84	51	61	28

延べ人数。

I - (15) キャリア支援

キャリア支援行事

(平成31年度)

教育

	行事名	対象
ナ キ ャ リ ア 支 援 セ ミ ナ ー ・ ガ イ ダ ン ス 等	3年生キャリア支援セミナー	3年生(教員就職志望者) 3年生(企業・公務員就職志望者)
	4年生キャリア支援セミナー	4年生(教員就職志望者) 新4年生(企業就職志望者:R3.3卒予定)
	教育支援ボランティア・学校インターンシップ説明会	学年等不問
	企業・官公庁等インターンシップガイダンス	〃
	職務適性検査	〃
教 員 関 係 説 明 会	東京都教員採用試験説明会	学部3年生以上
	茨城県教員採用試験説明会	学年等不問
	栃木県教員採用試験説明会	〃
	さいたま市教員採用試験説明会	〃
	千葉県・千葉市教員採用試験説明会	〃
	神奈川県教員採用試験説明会	〃
	横浜市教員採用試験説明会	〃
	川崎市教員採用試験説明会	〃
	相模原市教員採用試験説明会	〃
	富山県教員採用試験説明会	〃
	石川県教員採用試験説明会	〃
	福井県教員採用試験説明会	〃
	特別区幼稚園教諭採用説明会	〃
	全国教育委員会教員採用試験説明会	〃
横浜市臨任・非常勤講師登録会	学部4年生以上(教員志望者)	
日 本 人 学 校	日本人学校等学校採用教員第1期募集説明会	学年等不問
	日本人学校等学校採用教員第2期募集説明会	〃
東 京 教 師 養 成 塾 等 説 明 会	東京教師養成塾説明会	学部3年生以下, 大学院1年生
	埼玉教員養成セミナー説明会	〃
	かながわティーチャーズカレッジ説明会	学年等不問
教 採 対 策 講 座 等	論作文の書き方講座	学部4年生以上(教員志望者)
	教員採用試験対策講座	学部4年生以上(教員志望者)
	私学教員採用対策ガイダンス	学年等不問
	面接試験特別講座	東京都教員採用試験1次合格者
	教採合格者等に対する教育委員会等面接対策講座	公立学校第二次試験合格者・補欠合格者
	教員採用試験対策説明会(先輩の合格体験談含む)	R2年度実施教採受験予定者
	教員採用一次試験対策学内模試	〃
	人物試験対策講座	〃
教採1次試験対策(教職教養対策)講座	〃	
教 師 力 養 成 特 別 講 座	第27回 教師力養成特別講座(有料・全15回)	H31年度実施教採受験予定者
	第28回 教師力養成特別講座(有料・全15回・予定)	R2年度実施教採受験予定者(R2.3現在)
小 学 校 英 語	小学校英語特別準備講座	教採合格者等
辟 雍 会 共 催 事 業	近県学校等訪問事業(埼玉県・東京都・神奈川県)	学年等不問

	行 事 名	対 象
企業・公務員就職対策講座	企業・公務員就職対策講座 「エントリーシート対策～インターンシップも意識して～」	学年等不問(大学院含む)
	企業・公務員就職対策講座 「就職活動準備講座」(職務適性テスト結果解説付き)	〃
	企業・公務員就職対策講座「就活に備える自己分析・自己PRの仕方」	〃
	企業・公務員就職対策講座 「労働法制セミナー」－安心して働ける企業の探し方－	〃
	企業・公務員就職対策講座「夏休みから始めよう！ 業界・企業研究」	〃
	企業・公務員就職対策講座「就活本番スタートアップ講座」	〃
	企業・公務員就職対策講座 「元人事部採用責任者が説き明かす－面接突破への秘策(準備を含む)を伝授！！」	〃
	企業・公務員就職対策講座「自己分析ステップアップ講座」	
	企業・公務員就職対策講座「業界研究ステップアップ講座」	〃
	企業・公務員就職対策講座「業界研究～実践編(学内業界説明会)」	〃
	企業・公務員就職対策講座「内定者報告会」	
	企業・公務員就職対策講座「エントリーシート対策」	〃
	企業・公務員就職対策講座「グループディスカッション対策」	〃
	企業・公務員就職対策講座「面接対策～基礎編」	〃
	企業・公務員就職対策講座「面接対策～実践編」	〃
企業・公務員就職対策講座「3.1解禁 企業エントリー直前対策」	〃	
公務員説明会等	企業・公務員就職対策講座「公務員就職ガイダンス」	学年等不問(大学院含む)
	企業・公務員就職対策講座「公務員試験対策勉強法」	〃
	国家公務員採用試験説明会	〃
	東京都職員採用試験説明会	〃
	特別区職員採用試験説明会	〃
合同説明会	「企業・官公庁」合同学内説明会	学年等不問(大学院含む)

Ⅱ. 研究活動

Ⅱ－（１）文部科学省機能強化経費事業

（令和元年度）

研究題目	期間
① 外国人留学生の受入れによるグローバルキャンパス構築と世界に通用する人材育成に資するグローバル人材の養成 -TGU International Student Step Up Program-	R1～R3
② 教育内容構成学の導入による新たな教員養成教育の研究・開発—教員養成大学における教科専門科学と教育学研究科修士課程のあり方の抜本的改革のために—	H29～R1
③ 特別支援教育に関わる大学発信型現職教員研修システムの開発	R1～R3
④ 附属学校と協働した教員養成系大学による「経済的に困難な家庭状況にある児童・生徒」へのパッケージ型支援に関する調査研究プロジェクト	H27～R1
⑤ 学校・地域が両者一体となった次世代型教育のための「協働教育支援学」の構築と教育支援人材養成の高度化ならびに教員養成における「拡張型カリキュラム」のモデル開発研究	H29～R1
⑥ 国際バカロレア(IB)教育に基づく次世代育成教育の総合的開発研究及びその発信	H29～R1
⑦ 次世代型コンピテンシー育成のための教育方法開発とその国内外への発信 — 新学習指導要領への対応とOECD・Education2030事業の枠組に基づくカリキュラム内容の提案を中心に —	H30～R2

- ・氏名に※がついている者は、平成31年4月の組織再編により教職大学院へ移籍した者である。
- ・平成27年度までは特別経費であったが、平成28年度以降機能強化経費に名称変更。
- ・令和元年度は「教育研究組織整備に係る人件費(新規(拡充)分)」として、11,794千円が予算措置された。

Ⅱ－（２）文部科学省等受託研究

区分	委託機関名(契約締結時の名称)	事業名	事業期間
文部科学省	総合教育政策局	2019年度学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究	R1.5.14 ~ R2.3.27
	初等中等教育局	いじめ対策・不登校支援等推進事業(調査研究)	R1.5.7 ~ R2.3.31
	初等中等教育局	スーパーグローバルハイスクール	H31.4.1 ~ R2.3.31
	初等中等教育局	教育研究開発事業	H31.4.2 ~ R2.3.31
	初等中等教育局	教育研究開発事業	H31.4.2 ~ R2.3.31
	総合教育政策局	教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業	R1.9.2 ~ R2.3.31
	初等中等教育局	「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム」(グループ)推進事業(中央センター)	R1.9.12 ~ R2.3.31
	初等中等教育局	2019年度 学習上の支援機器等教材活用評価研究事業	H31.4.1 ~ R2.3.31
	初等中等教育局	2019年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業 「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」 (発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)	H31.4.1 ~ R2.3.31
	初等中等教育局	平成31年度「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」	R1.11.22 ~ R2.3.13
	国立教育政策研究所	教育課程研究指定校事業	R1.6.3 ~ R2.3.20
地方公共団体	調布市教育委員会	不登校支援事業業務委託 (SWITCHプロジェクト)	H31.4.1 ~ R2.3.31
	東京都教育委員会	令和元年度 地域交流拠点(コミュニティハウス)の運営効果に関する調査研究事業	R1.10.1 ~ R2.3.31
独立行政法人等	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所	発達障害児の聞き取りの困難さの要因を探る実証研究	H31.4.1 ~ R2.2.28
	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター	ラオスにおけるエコヘルスと社会的健康を推進する学校保健に関する研究	H31.4.1 ~ R2.3.31
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	戦略的創造研究推進事業 (マルチビーム光学素子およびその制御系の開発)	H29.10.1 ~ R3.3.31
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	戦略的創造研究推進事業 (あまみず社会の普及啓発教育のためのデザイン・サイン計画の検討および実践)	H28.4.1 ~ R2.3.31
	国立大学法人千葉大学	メタン発生量評価のための南アジア域メタン濃度連続観測	H30.4.1 ~ R2.3.31
	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター	バイオバンクの活動に関わる諸権利の問題についての研究	H31.4.1 ~ R2.3.31
	学校法人近畿大学	奈良の木ライフスタイル向上検証事業におけるアンケート及び測定データの整理・解析に関わる研究	R1.6.12 ~ R2.3.23
国立大学法人東京大学 国立大学法人北海道大学 国立研究開発法人海洋研究開発機構	上部対流圏および成層圏循環と日本周辺域の異常天候との関連についての解析	H31.4.1 ~ R3.3.31	

研究

Ⅱ－（３）文部科学省等補助金事業

区分	委託機関名(契約締結時の名称)	事業名	事業期間
文部科学省	高等教育局	平成31年度国際化拠点整備事業費補助金(大学の世界展開力強化事業) 東アジア教員養成国際大学院プログラム	R1.4.1 ~ R2.3.31
	高等教育局	令和元年度年度研究拠点形成費等補助金(Society5.0に対応した高度技術人材育成事業) 成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPIT)	R1.4.1 ~ R2.3.31

Ⅱ－（４）科学研究費助成事業

①新規採択研究課題

（令和元年度）

	研究種目	研究課題名
総合教育 科学系	基盤研究(C)	食物繊維による健康長寿への可能性
	基盤研究(C)	デジタル時代のディスコース理解と思考に関する実証的検討およびカリキュラムの提案
人文社会 科学系	基盤研究(A)	現代若者の再帰的ライフスタイルの諸類型とその成立条件の解明
	基盤研究(C)	在日コリアンの「民族教育」における排他的構造の変化
	若手研究	地方分権化の進行にともなう新しい景気安定化政策の動学的実証分析
	若手研究	フランス絶対王政末期における身分社会への包摂をめぐるポリスの実践
	研究スタート支援	近世における能書資料及び入木道資料の表記に関する基礎的研究
自然科学系	新学術領域研究 (研究領域提案型)	ガイアによるガス・ダスト比の3次元計測と星・星団形成との関係
	基盤研究(B)	児童・生徒の科学的思考力を育成する理科の教員研修法の構築
	基盤研究(B)	概念形成過程の実践的研究と一体化した物理概念調査紙群の開発
	基盤研究(C)	初等教育における人間と機械の共生教育のための知能機械の情意表出の研究
	基盤研究(C)	河川環境の科学的探求によるグローバル・コンピテンス育成に関する実証的研究
	基盤研究(C)	相互作用型物理授業を有効にするファシリテーションの検証と自己学習能力の育成
	基盤研究(C)	「対象／視点」の意識化による空間の想像力育成
	基盤研究(C)	出芽酵母カルシウムチャネルの制御サブユニットの翻訳開始コドン選択機構と膜輸送機構
	基盤研究(C)	学習者の積極性を促す教師教育用実験学習(化学)のプログラムの開発
	挑戦的研究(萌芽)	規格準拠状況に対する柔軟性と横断性を備えた潜在教材リポジトリ自動生成メカニズム
	若手研究	変異による傾理論の一般化と新展開
芸術・スポーツ 科学系	基盤研究(C)	自己編集性・相互編集性を軸とする発想・構想力の概念的枠組みの構築
	基盤研究(C)	体育科におけるICTを活用した評価システムの開発
	基盤研究(C)	対人競技のフェイント動作における偽装の重要点
教職大学院	基盤研究(C)	家庭科における乳幼児への関わり方の評価項目および系統的なカリキュラムの開発研究
	基盤研究(C)	中学校保健の授業における生活習慣病予防行動の意欲と自信を高める教材開発
	基盤研究(C)	自然災害に対する市民の防災・減災リテラシーを獲得・形成する中学校理科授業の開発
	若手研究	高校数学における数学的な見方・考え方を育成する教材開発と教科書紙面化に関する研究
センター等	基盤研究(B)	重度重複障害児(者)等の視覚認知発達を促す情報システムの開発・活用に関する研究
	基盤研究(B)	自閉スペクトラム症児の「聞き取り」と「読み取り」の困難さの要因を探る実証研究
	基盤研究(C)	ワーク・ライフ・バランスの視点を踏まえたドイツの教員研修改革の比較制度論的探究
	基盤研究(C)	不登校と発達障害に関する実態把握と支援プログラムの開発
	基盤研究(C)	特別支援教育における初等教育での重要語彙の体系化と語彙指導法の構築
	若手研究	日本手話の文法概説とその映像ドキュメンテーションの作成
	研究スタート支援	アビトゥーア試験問題における能力観とコンピテンスに関する研究
	研究スタート支援	音楽授業デザインへ適用可能な身体技法習得課程モデルの構築
	奨励研究	地下水中のラドンとその子孫核種を用いた放射線教育の研究
附属学校	奨励研究	実践的な知識・技能への変容を促す教材と評価の研究
	奨励研究	ICTを活用して通常学級におけるインクルーシブ教育を実現する授業設計の研究
	奨励研究	小学校理科物理分野における現代テスト理論・古典テスト理論による概念分析と授業改善
	奨励研究	空間図形における投影的な見方を育成するための教材研究

「研究成果公開促進費」「特別研究員奨励費」は含まない。

本学で「交付決定通知」を受けた研究課題の他、令和元年度中の他大学等からの転入者分を含む。転出者は含まない。

戦略的配置教員はセンター等に記載している。

交付決定額には研究期間全体(複数年度)の額を含む。

②採択件数

	平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数
総合教育科学系	24	15	23	18	10	25	21	13	24	22	6	29
人文社会科学系	28	9	11	30	11	18	31	12	22	23	5	25
自然科学系	38	17	35	40	12	38	47	9	33	53	14	22
芸術・スポーツ科学系	12	5	9	15	6	9	18	7	10	7	3	15
センター等	10	3	21	20	11	17	20	14	14	15	9	22
附属学校等	17	4		16	4		14	2		22	4	
計	129	53	99	139	54	107	151	57	103	142	41	113

上記の件数に「研究成果公開促進費」「特別研究員奨励費」は含まない。

新規採択件数は本学で「交付内定通知」を受けた分に限り(4月1日付の他大学等への転出者分を含み、4月1日付の転入者分は含まない)。

助成事業期間延長承認を受けた研究課題は含まない。

戦略的配置教員はセンター等に算入している。

附属学校等については「奨励研究」の件数を記載している。

継続は転出入を考慮した数(令和元年度在籍者+転入者の継続課題数)

Ⅱ－(5) 産学連携研究

(令和元年度)

題 目	契約相手方
1 学校行事における効果測定	株式会社JTBコーポレートセールス
2 子どものSOSをインターネットで拾うことの有効性について	株式会社マモル
3 ポータルとして機能し教育の情報化を支援する学校図書館の研究	株式会社角川アスキー総合研究所
4 総合的な学習の時間と特別活動における映像利用のアクティブラーニング共同研究	株式会社 新宿スタジオ
5 未来の教員の職能感、働き方のビジョンの構築、それ等を実現するためのソリューションの開発	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 株式会社チェンジウェブ 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
6 小学校現場でのプログラミング教育の調査研究	株式会社日本教育新聞社
7 学校プリンター活用実践研究	エプソン販売株式会社
8 学校情報システムによる学校経営支援に関する研究	日本ユニシス株式会社
9 新学習指導要領に対応した教材開発	株式会社教育同人社
10 生徒一人一台PC環境における学習支援システムの研究	チエル株式会社
11 ICT教材を活用した「主体的・対話的で深い学び」に関する研究	ブリタニカジャパン株式会社
12 学習意欲の向上と継続に対する、劇やICT教材などを活用した教材パッケージの開発と効果検証	ファンファンラーニング株式会社 ミントフラッグ株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
13 AIに関する教員向け、大学生向けカリキュラムの共同研究	株式会社エクサウィザーズ 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
14 超小型テラヘルツ探査機の開発	国立研究開発法人情報通信研究機構
15 低GWP冷媒の反応および抑制要因に関する研究	パナソニック株式会社アプライアンス社
16 算数・数学教育における自己向上機能を備えた授業研究推進者の育成プログラム開発研究	Lesson Study Alliance
17 リラクサー強誘電体のドメイン形成に関する研究	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
18 鉛含有物の新規処理技術の開発	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
19 子どもの遊びと子育て支援に関する産学連携研究	株式会社おもちゃ王国
20 玩具のアフォーダンスに着目した積み木遊びに関する研究	株式会社バンダイ 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
21 音声玩具を用いた子どもの学びと親子の遊びやコミュニケーションに関する研究	株式会社博報堂 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
22 教育と人工知能等に関する研究	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
23 アスリートのランニングフォームに関する研究	日本郵政株式会社
24 森永リトルエンゼル育成事業(社会貢献事業)における教育的効果の研究 2019	森永乳業株式会社 森永製菓株式会社

共同研究

	題 目	契約相手方
共同研究	25 公園がもつ教育的意義に関する調査研究	公益財団法人東京都公園協会 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	26 身近なアウトドア体験に対する学びの効果	カンオ計算機株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	27 学校教員を主な対象とする外部と連携した業務活動支援に関する研究	ジブラルタ生命保険株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大学こども未来研究所
	28 スポーツ好きの子どもを育てる教育パッケージの効果検証	野村不動産ライフ&スポーツ株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	29 クリエイティブな人材に関する評価及び発生・育成に関する研究	株式会社FIREBUG 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	30 新しい学校外教育のモデル(環境、教育支援人材、学校教育と連動した学習カリキュラム)開発	株式会社パソナフォスター 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	31 放課後活動における活動の質的向上に寄与するための教材開発	株式会社朝日新聞社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	32 スポーツを通して創造的で、協働的な問題解決能力を伸ばす教育プログラムの開発	野村不動産ライフ&スポーツ株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	33 競泳選手の発育発達段階に応じた泳ぎの変化	野村不動産ライフ&スポーツ株式会社
	34 最先端のSTEAM教育を取り入れた学校教育・地域教育・家庭教育支援方法の実践研究	特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所 株式会社ヴェットハート 株式会社おもちゃ王国
	35 天候観測に関わる技術を活用したSTEM教育プログラムの研究開発	株式会社ウェザーニューズ 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	36 トライボ化学反応を誘発するロールプレス加工法の開発	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
	37 子どもの学力や学習観に応じた学習方略の指導方法とその評価について	株式会社ビーコン

	題 目	契約相手方
共同研究	38 産学連携によるプログラミング教育の普及スキームに関する研究	株式会社NTTドコモ
	39 「P+」の信頼性および妥当性検証のための実証研究の実施と分析	特定非営利活動法人教育テスト研究センター(CRET)
	40 東京都公立小中学校におけるICT利活用モデル検証	NTTラーニングシステムズ株式会社
	41 教員志望の鍵盤初学者への演奏指導に関する研究	ヤマハ株式会社
	42 STEAM教育における学習内容・目標マップと指導者の資質・能力マップの開発	アルー株式会社
	43 拡張型学習と学生のキャリア形成	株式会社ノヴィータ 一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構
	44 VRを利活用した教育プログラムの実践検証	株式会社NHKエデュケーショナル
	45 ワークーションにおける教育に関わる課題解決	株式会社日本能率協会マネジメントセンター 一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構
	46 魚類硬組織における元素分布・局在に関する研究	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
	47 国立科学博物館常設展示場における展示評価	独立行政法人国立科学博物館
	48 水環境における環境遺伝子計測技術の確立	株式会社日立製作所
	49 教育・学習クラウドを活用した、ラーニングアナリティクスのための学習記録・履歴データの蓄積のあり方および利活用の研究	Dynabook株式会社
	50 初等中等教育におけるe-ポートフォリオを用いた学習・評価の共同研究	株式会社ベネッセコーポレーション Classi株式会社
	51 旅行行事におけるe-ポートフォリオを用いた学習活動の共同研究	株式会社JTBコーポレートセールス
	52 大学教育向け次世代eラーニングシステムの開発	日本データパシフィック株式会社
	53 学習者用端末での利用を想定したデジタル教材の開発研究	大日本図書株式会社
	54 プログラミング教材「プロロ」を用いた小学校向けカリキュラムの研究開発	富士ソフト株式会社
	55 インクルーシブ教育に対する学習者用デジタル教科書・教材の実践研究	光村図書出版株式会社
56 Webブラウザベースデジタル教科書の活用に関する研究	富士ソフト株式会社	
57 言語、コミュニケーション能力の発達に関わる諸要因	国立研究開発法人理化学研究所	
58 究極的自己形成学の理論と方法にもとづく、教員の授業力向上についての実証的研究	生涯学習セルフ・カウンセリング学会	

受託研究	1	奈良の木ライフスタイル向上検証事業におけるアンケート及び測定データの整理・解析に関わる研究	学校法人近畿大学
	2	University Special Interest Tour for Activation of Hydrophilic Land-Use and Environmental Education at Watersheds in Tokyo (大学生による水辺の賑わいの創出と学びの場のデザイン ～関東エリアをフィールドにしたSIT(Special Interest Tour)による検討～)	コカ・コーラ財団
	3	幼児教育における子どものアート活動を媒介とした多様性の涵養と親の学習支援プログラムの構築	公益財団法人日本生命財団
	4	ことばと社会をアクティブに学ぶ素材開発プロジェクト	株式会社ラーンズ

寄附講義等	題 目		契約相手方
		みずほフィナンシャルグループ寄附講義	株式会社みずほフィナンシャルグループ

Ⅱ－（６）特別開発研究プロジェクト

研究題目	期間
① 深い学びの実現を目指した小学校家庭科における授業開発～住生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育むための清掃学習～	元～2
② 書写・書道の有為な教員養成のための実践的研究プロジェクトー教職大学院の教職専門実習との連関を図り、教育実習において実践力を高めるカリキュラムの構築ー	元～2
③ 体育授業における動きのリアルタイムフィードバックは学力の三要素を高めるか？ ：水泳授業を題材とした検討	元～2
④ 大学で附属学校の教員が学生に支援する、基礎実習における実験授業の検討と指導	元～2
⑤ 性の多様性に応じる学校に関する研究ー授業作りから環境整備までー	元
⑥ 在外教育施設（日本人学校小学部）における教育実習プログラムの開発研究	元～2
⑦ 公立学校等に還元できる“生徒の学びと評価・成果をシームレスにつなぐ「学びのポートフォリオ」”プロジェクト	元～2
⑧ AIを活用したインクルーシブ教育の研究～コミュニケーションに困難を抱えた児童への支援を中心に～	元～2
⑨ 公立学校等に還元できる“理科と国語科が教科横断的に協同して育む実践的な探究する力”プロジェクト	元～2
⑩ 家庭科における安全で衛生的な指導方法の開発 ～調理室の使用に関するガイドブックの作成を通して～	30～31
⑪ 国語科教育における作文評価の項目設定と手法の設計	30～31
⑫ 大学と附属学校の連携による体系的な養護実習モデルプランの作成並びにICT教育コンテンツの作成と検証	30～31
⑬ 体育/保健体育科における現職教員を対象とした研修プログラムの開発	30～31
⑭ 小学校体育学習を支援するシステム開発研究 ー発達障害を持つ児童が楽しめる教材開発を視点としてー	30～31
⑮ 理科におけるプログラミング教育の円滑実施に向けた段階的な指導カリキュラムの開発	30～31
⑯ 特別支援学校幼児・児童、生徒の絵本、見る聞く音読指導の研究	30～31
⑰ 知的障害者の生涯教育に関する研究 ～高等部在学中から成人期における教育内容の検討と、生涯学習のための本人向けテキストの作成～	30～31

Ⅱ－（７）センターの研究活動

（令和元年度）

		事業等名称
環境教育研究センター	研究プロジェクト	・グローブ参加校の教育実践に関する調査
		・グローブにおける国際交流
		・水辺の学びデザインプロジェクトWaSIT
		・環境教育リーダー養成を目的としたフィールドスタディに関する調査研究
		・環境教育リーダー養成講座における学生企画による環境プロジェクトの調査研究
		・教材植物園の利用活用調査
		・教材植物園における生物資源のデータベース化
	公開研究会等	・環境のための地球学習観測プログラム(グローブ)「グローブ連絡協議会・講習会」
		・水辺の学びデザインプロジェクトWaSIT写真展
		・環境教育リーダー養成講座（「かいぼり」、「福島FS」、「正月飾りづくり」などの講義や野外学習）
		・環境教育リーダー養成講座による学校の授業支援(近隣の小学校への環境学習支援)および教育実践プログラム企画(「小平環境フェスティバル」、若者による公民館自主講座)
		・2019年度環境教育セミナー～伝統工法で土壁の小屋を作ろう～第2弾～
		・第11回小金井・国分寺・小平「環境教育実践フォーラム」
		・地域連携に基づく教材植物園の利用
特別支援教育・教育臨床サポートセンター	研究プロジェクト	「特別支援教育に関わる大学発信型現職教員研修システムの開発」プロジェクト＜重点支援②令和元年度教育研究活動(取組)戦略名:現職教員に対する次世代育成教育の研修
		・ダウン症児の認知機能評価スケールと学習支援マニュアルの開発
		・野外教育活動および学校コンサルテーションによる学校不応への総合的支援の一試行
		・対応困難な保護者とのトラブル事例分析と事例分析と紛争化の防止及び解決支援に関する学際研究
		・熊本大震災に伴う被災地の子どもへのケアに関わる総合的な支援の開発研究
		・教育の現代的課題に関わる研修支援事業
		・特別支援教育の教育実習に関する調査研究(6大学協同)
		・不登校と発達障害に関する実態把握と支援プログラムの開発
		・通級指導教室における言語面の支援ニーズに対応した指導方法の体系化と教材の開発
		・モンゴル国障害児のための教育改革システムの構築に関する研究
		・知的障害発達のライフステージに応じた生涯発達支援システムの構築に関する研究
		・重度重複障害児(者)等の視覚認知発達を促す情報システムの開発・活用に関する研究
		・幼児の自己・養育者・他者認知に関する共同研究
	公開研究会等	・特別支援学校スクールカウンセリングマニュアルの開発
		・『特別支援教育』支援事業室の運営
		・『学校教育相談総合窓口システム』に関する研究
		・特別支援教育における言語・コミュニケーション発達のアセスメント法に関する研究
		・両耳性聴覚処理の心理生理学的研究
		・附属学校における読み書き支援の実践研究
		・発達障害児・者の生涯発達支援に関する研究
・2019 特別支援教育「専門セミナー」(『特別支援教育』支援事業室)		
・「3.11後の子どもと学校資料室(仮称)」準備公開研究会		
・公開講座「特別支援教育の知恵を深める:第1部 多言語多文化や剥奪環境にある児童への支援,第2部 言語・コミュニケーション・情動支援の理論と実践」「特別支援教育の基礎と実践(16)」		
次世代教育研究センター	研究プロジェクト	在外教育施設における教育実習プログラムの開発
		教員養成における教科内容学習の相互連関—理科と社会科の間—
		中途入職教員に対する研修と処遇
		学校と外部機関の連携と教育の公共性に関する研究
		教員養成大学・学部における大学教授職の在り方と組織開発
		大学で附属学校の教員が学生に支援する、基礎実習における実験授業の検討と指導
		教員養成大学・学部における教育実習のあり方・運営等に関する研究
		教育実習のカリキュラムと指導に関する研究
		教育実習におけるメンタルヘルス支援
		教員養成における実践的プログラムの運営に関する研究
		教員養成の構造変容に関する研究
		教員養成カリキュラムの検証—創成期の東京学芸大学卒業生に対するインタビュー調査をもとに—
		在外教育施設の地域環境に即した理科教材の開発

研究

次世代教育研究センター	公開研究会等	教育実習研究シンポジウム(38)「教育実習における学級経営に関わる指導～実習生の学びと、実習生への期待～」
		日本教育大学協会 全国教育実習研究部門 研究協議会(33)
		第1回公開セミナー(「『中途入職教員』に対する研修と処遇」、「在外教育施設における教育実習プログラムの開発」)
		外国人客員准教授公開研究会「ASEANの教育改革」
		外国人客員准教授公開研究会「タイの教育系学生の成長」
		外国人客員准教授公開研究会「大学と地域との連携を考える:コンケン大学の取り組みから」
		外国人客員教授公開研究会「教師教育のイノベーション(1):香港教育大学におけるフィールド体験型カリキュラムの開発」
		外国人客員教授公開研究会「教師教育のイノベーション(2):教師教育カリキュラムの近年の発展とフィールド体験カリキュラムの開発」
外国人客員教授公開研究会「よい教師はよい反省的学習者でなければならないか？」		
留学生センター	研究プロジェクト	・日本人学生と留学生の共修授業の方法と効果に関する研究
		・学習者の読解過程に関する研究
		・日本語学習者向けの非外来語のカタカナ表記語の教材開発
		・上級日本語学習者の作文に見る語用論的能力に関する研究
		・機械翻訳に見る翻訳言語と語用論的諸問題に関する調査研究
公開研究会等	・多文化共生教育セミナー「地域の国際交流と今後の課題について」(小金井市生活日本語教室、小金井市国際交流サロン)	
国際教育センター	研究プロジェクト	【海外・帰国児童生徒教育領域】
		・文化間移動をする子どもの発達・学習に関する心理学的研究(就学後の学力を支える多文化保育のあり方を探る)
		・多言語・多文化環境で育つ児童の学習言語の発達と障害(就学前・就学初期にできること、すべきことはなにか)
		・多様化する社会におけるシティズンシップ教育の比較研究
		【国際理解教育領域】
		・多文化共生社会における市民性の教育に関する研究
		・多文化住民の子育てと地域コミュニティへの参加に関する研究
	【外国人児童生徒教育領域】	
	・外国人児童生徒教育研修のための教材作成	
	【特別開発研究プロジェクト】	
	・性の多様性に応じる学校に関する研究—授業作りから環境整備まで—	
	公開研究会等	・第40回海外子女教育セミナー
		・第12回国際教育センターフォーラム(新型コロナウイルス感染症対応のため中止)
		・第9回多文化共生フォーラム
		・令和元年度第1～3回JSLカリキュラムを生かした外国人児童生徒教育指導者研修
・JSLサテライトセミナー—小牧		
・第5回学校のセクシュアル・マイノリティ(LGBT)学校教育支援研修		
・大泉地区附属学校との連携協力		
・小平市国際交流協会・国分寺国際協会との連携協力		
研究プロジェクト	・小学校教員に対する理科の研修内容に関する研究	
	・中・高等学校教員に対する理科の研修内容に関する研究	
	・小学校理科に関する教材開発	
	・中・高等学校理科に関する教材開発	
	・ネクスト・ジェネレーション・サイエンス・スタンダードに関する研究	
	・福井県総合教育研究所との理科教員研修プログラムの開発と実施	
	・現職教員研修(東京都公立学校教員に対する理科研修)	
・学生・教員対象ワークショップ「科学の面白さを伝え、創造性を伸ばす次世代科学教育」		
公開研究会等	・第10回理科教育シンポジウム「新たな社会(Society5.0)において理科教育はどうなるか？」	
	・「青少年のための科学の祭典」東京大会in小金井における公開実験	
	・多摩六都科学館 夏季教員セミナー	
	・東京都小学校理科教育研究会研修	
	・八王子市など中学校の理科授業の実施	
	・沖縄県島尻教育研究所との教員研修の実施 於:八重瀬町立 白川小学校	
	・八王子市教育委員会などの教員研修の実施	
・全国の中学校教員に対する長期研修(冬季理科教員ワークショップ)		

教員養成開発連携センター	研究プロジェクト	IR部門
		・新入生学習調査の実施及び分析
		・大学生学習調査の実施及び分析
		・卒業時調査の実施及び分析
		・教員養成IR活用実践交流会の開催
		・教育実習前CBTの試行
		・教員養成IRコンソーシアム（仮称）の設置に向けた検討
		研修・交流支援部門
		・教員養成系大学・学部における大学教職員の力量構造の見直し
		・教員養成ならではの教職員PD（プロフェッショナル・ディベロップメント）プログラムの開発・運営
		・教員養成ならではの教職員PDプログラムの効果測定方法の開発・試行
		・海外教員研修の地域への普及
		先導的実践プログラム部門
		・教育支援人材養成
		・教育環境支援
		・附属学校間連携
		・放射線教育
		・小学校英語教育の指導力向上（北海道教育大学主催）
	・へき地・小規模校教育（北海道教育大学主催）	
	・演劇的手法による教員養成課程の学生並びに現職教員のコミュニケーション能力育成（北海道教育大学主催）	
・理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進（愛知教育大学主催）		
・特別支援教育の多面的・総合的支援（愛知教育大学主催）		
・外国人児童生徒学習支援（愛知教育大学主催）		
・安全・防災教育のプログラム開発（大阪教育大学主催）		
・教職基礎体力を備え国際感覚に優れた教員の養成充実に向けた改革（大阪教育大学主催）		
特別プロジェクト		
・教員の魅力（愛知教育大学主催）		
・IB教育（東京学芸大学主催）		
公開研究会等	・IR部門 教員養成IR活用実践交流会	
	・研修・交流支援部門 教員養成ならではの大学教職員PD講座（対面式講座及びweb講座）	
	・放射線教育プロジェクト 教員養成系大学における放射線教育研究会	
	・放射線教育プロジェクト 4大学連携合同集中授業	
児童・生徒支援連携センター	研究プロジェクト	パッケージ型支援プロジェクト
		①貧困の「見えにくさ」に対応したプラットフォーム形成モデルの開発
		教員の「貧困」に対する認識－教職員へのインタビュー調査から
		貧困問題に関わる教員・教育支援者の研修プログラム開発
		ダイバーシティ教育プログラムの授業単元開発
		SSWを活用した支援ネットワーク・チーム支援体制の構築
		②経済的困難性の中にある子供を包摂する教育支援方法の開発
		ことばの読み書きに関する調査研究－専門的支援方策の開発
		公園を共育拠点とした学習多様性実践モデルの開発
		ICTを活用した遠隔地支援モデルの開発
	③包摂型社会形成の担い手を育てる教員養成系大学の機能強化	
	附属学校・自治体と連携した学習・進学支援モデルの開発	
	子どもの「支援」と教員養成系学生の「養成」を一体化させたサービスマーケティングの組織化	
	附属学校・地域と連携した放課後実践モデルの開発	
	公開研究会等	日本特別ニーズ教育学会第24回研究大会ラウンドテーブル「特別ニーズ教育と貧困Ⅱ」
		大学内講座「子どもの自立を促す学習支援」
		学芸カフェテリア講座「考えよう子どもの貧困～学校現場で必要な対応力～」
		教員免許状更新講習「子どもの貧困の現状と支援」
6市（小金井市、国分寺市、小平市、国立市、立川市、昭島市）合同教員研修「貧困ケースメソッド」		
6市（小金井市、国分寺市、小平市、国立市、立川市、昭島市）合同教員研修「問題解決型ケース会議」		
関西経済同友会子どもの未来委員会講演会「子ども中心の総合支援」		
日本教育支援協働学会第1回研究大会ラウンドテーブル「子供のニーズと企業・地域連携」		
東京学芸大学パッケージ型支援プロジェクト平成30年度成果報告シンポジウム「貧困社会」に教育はどう立ち向かうか		
東京学芸大学教育インキュベーションセンターイベントトークセッションプログラム「教育支援と教育協働～限られた体験を拓く」		
教材作成	教員・教育支援者養成・研修用テキスト「子どもの貧困とチームアプローチ”助けあう学校”づくりを目指して」プロトタイプ	
	教員・教育支援者養成・研修用映像教材「①校内支援チームによる支援」「②地域学校協働による支援」プロトタイプ	

次世代教育研究 推進機構	研究プロジェクト	「次世代型コンピテンシー育成のための教育方法開発とその国内外への発信」プロジェクト
		【育成部門】
		・コンピテンシー育成の相互作用と関連する要因の明確化
		・コンピテンシーを育成するための手立ての確定
		・コンピテンシー育成の具体的な取組を紹介するビデオ(手立てビデオ)の作成と発信(日本語版と英語版)
		・OECDのLearning Compassモデルを解説するための授業ビデオ公募に応募し4本をOECDのHPIに掲載
		・CMCD(Curriculum Map for Competency Development)データベース構築の準備とコンテンツの収集
		・CMCDを運用するためのInterface設計とその検討
		・高校生徒のコンピテンシー自己評価と授業活動やクラブ活動などとの関係分析
		・Agency概念について多研究領域の比較対照と独自の考え方の提案
		・Agencyについて小学生対象の授業観察研究および中学生を対象にした調査研究とその分析
		・Agencyをわかりやすく伝えるための漫画冊子の作成
		【評価部門】
		・探究科の評価のためのルーブリックおよびポートフォリオの開発
		・特別な教科道徳の評価用語やポートフォリオ評価の検討
		・道徳教育ステップアップセミナーにて調査分析結果報告
		・道徳授業パワーアップセミナーにて実践例を報告
		・特別活動の学芸大版評価システムの運用検討と実際映像の収集
		・道徳および特別活動におけるAgency概念育成のとらえ方の検討
		・コンピテンシー自己評価質問紙の信頼性(再検査法)・妥当性(構成概念妥当性・併存的妥当性)の検討
		【研修・発信部門】
		・動画配信システム21CoDOMoSの機能拡張とコンテンツの充実
		・大学の教員免許更新講習にて21CoDOMoSを活用した講習の実施
		・才能開発財団法人によるe-learning型免許更新講習にてコンピテンシー育成の講習を選択必修科目として実施
		・八王子市教育委員会と連携して21CoDOMoS活用による教員研修を実施
		・八王子市教育委員会にて道徳授業と21CoDOMoS活用を組み合わせた研修を実施
		・埼玉県教育センターと連携して21CoDOMoS活用による教員研修を企画
		・大学教員を対象に学部・大学院教職関連授業にて21CoDOMoS活用の方策を解説(FD研修)
		・附属世田谷中学校公開研究会授業を21CoDOMoSにて全国に公開
		・附属小金井小学校公開研究会授業を21CoDOMoSにて全国に公開するための撮影と編集作業を実施
	・教員研修のあり方に関する小中学校教員対象の調査を実施し分析	
	・21CoDOMoSの教員研修等における活用を促進するためのプロモーションビデオを作成	
	公開研究会等	・第9回OECD_IWG(Informal Working Group)会議(於:カナダ、バンクーバー)における参加と討議
		・第10回OECD_IWG(Informal Working Group)会議(於:韓国、ソウル他)における参加と討議
		・G20での教育関係分科会に参加し、コンピテンシー関連文書の翻訳・配布を担当(東京)
		・第14回東アジア教員養成国際シンポジウムにおける発表(於:中国・西安)(2件)
		・日本学校保健学会大会にてコンピテンシー育成に関する教育講演を実施
		・日本教育大学協会研究集会(岡山大)における発表(4件)
		・広島県立広高等学校、賀茂北高等学校における発表
		・日本心理学会第83回大会にて研究発表(2件)
		・日本教育心理学会第61回総会にて研究発表(3件)
		・日本産業技術教育学会技術教育学会にて研究発表
		・日本教育学会第78回大会にて研究発表
・20th Biennial International ARAHE Congressにて研究発表		
・第3回次世代教育研究推進シンポジウムを参集型でなくWebを活用した開催を企画		
・第3回、第4回ISN(Innovative Schools Network)2.0研究会にて発表とコーディネートを実施		

II - (8) 附属学校の研究活動

(令和元年度)

	公開研究会	文科省特別経費・受託事業・開発指定研究・産学連携事業 等
幼稚園 (小金井園舎)	① 研究協議会「しなやかな心と体をはぐくむ保育」 令和元年11月9日(土)	
幼稚園 (竹早園舎)	① 竹早地区幼小中連携公開研究会 「学びを深める場をつくる～「手立て」に焦点を当てて～」 令和元年11月16日(土)	① 保育実践と統合的に編み上げられる造形活動の実践理論の構築
世田谷小学校	① 授業研究会「学びを自分でデザインする子『本質』に迫る教科学習・教科カリキュラムの実現に向けて」 令和2年1月31日(金)	【文部科学省研究開発学校指定 令和元年度～令和4年度】 ① 未来社会を創造的に生きる「学びを自分でデザインする子」を育成する、個に基づく「じぶんでラボ」と、教科・学年を超えた協働的探究の「みんなdeラボ」の双方で駆動する教育課程及び学習環境デザインの研究開発
小金井小学校	① ICT×インクルーシブ教育セミナーvol.2 令和元年7月13日(土)	① 2019年度学習上の支援機器等教材活用評価研究事業(文部科学省受託事業)
	② 研究発表会「こえる学び」を生む、学習環境デザインの追究 令和2年1月25日(土) ③ 「ICT×インクルーシブ教育成果報告会 - GIGAスクール時代のICT×インクルーシブ教育-」 令和2年2月29日(土)	② 2019年度発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」(発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業) (文部科学省受託事業)
大泉小学校	① 新教科「探究科の創設」 ～国際バカロレア(IB)の理念を取り入れた新しい小学校カリキュラムの開発～ 令和2年2月1日(土)	① 文部科学省研究開発指定校(4年間指定の3年目) ② 国際バカロレア機構PYP候補校(3月末予定) ③ ユネスコスクール
竹早小学校	① 竹早地区幼小中連携公開研究会 「学びを深める場をつくる～「手立て」に焦点を当てて～」 令和元年11月16日(土)	① 教育課程特例校(文部科学省の指定) ② 大学と附属学校の連携における教員養成の実践研究(図画工作)
世田谷中学校	① 世田谷中学校が育てる「21世紀型能力」～各教科が育てる深い学びを通して～ 公開研究会 令和元年6月15日(土)	
小金井中学校	① 教育研究協議会 「『拡張する学び』の実現 ～真正な学びの視点から～」 令和元年11月15日(金)	① 東京学芸大学・教育系ICT企業数社との共同研究プロジェクト ② 東京学芸大学・Explayground・教育インキュベーションセンターとの連携
竹早中学校	① 竹早地区幼小中連携公開研究会 「学びを深める場をつくる～「手立て」に焦点を当てて～」 令和元年11月16日(土)	① 「経済的に困難な家庭状況にある児童・生徒」へのパッケージ型教育支援に関する授業実践と「特別連絡進学」への取り組み ② HATOプロジェクト「教育実習の指導教員対象のFDコンテンツ②③の開発」
高等学校	① 第18回公開教育研究大会「教科等横断的な視点からの教育活動の改善～『学習評価』を軸としたカリキュラム・マネジメント～」 令和元年11月23日(土)	① 平成29年度指定スーパー・サイエンス・ハイスクール研究開発「国際社会で活躍する人材に必要なキー・コンピテンシーを獲得させる授業法の研究開発Ⅱ」
	② 令和元年度スーパー・サイエンス・ハイスクール事業報告会 令和2年3月16日(月):中止	② 文部科学省教育課程研究指定校事業(教科等名:工芸)「『A表現』と『B鑑賞』相互の関連の中で『思考力,判断力,表現力等』が育まれる『B鑑賞』の題材の開発と学習評価の工夫」 ③ HATOプロジェクト附属学校間連携プロジェクト
国際中等教育学校	① 令和元年度 授業研究会 令和元年11月22日(金)	① 教育課程特例校(文部科学省指定) ② 《国際バカロレア機構》MYP/DP(日本語DP)認定校 ③ 国際連合教育科学文化基金・ユネスコスクール加盟「持続可能発展教育(ESD)」実践及び研究 ④ IBAP Regional Workshops in Tokyo Japan(DP)、IBEN training開催 ⑤ SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校 ⑥ SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定校 ⑦ 文部科学省機能強化経費「国際バカロレア日本語デュアルランゲージディプロマプログラム(日本語DP)の導入および導入後に関する実践研究と普及促進活動」
特別支援学校	① 公開授業研究会 授業づくりについての検討 令和2年1月31日(金)	① 魔法のWalletプロジェクト(携帯情報端末を活用した障がい児の学習・生活支援を行う事例研究プロジェクト) ② 東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ金融教育共同研究プロジェクト

研究

II - (9) 附属学校研究会

(令和元年度)

<p><全体会> 令和元年6月26日(水)</p> <p>I 平成30年度プロジェクト研究成果発表分科会</p> <p>①理科授業におけるアクティブラーニングの実現に向けた教員養成のあり方Ⅱ</p> <p>②現代的課題を含む授業の学習形態による効果の違いと児童・生徒の意識変容についての考察 ～ワールドカフェ方式で考える持続可能な社会と自然を意識した授業の効果測定～</p> <p>③文学教材と文学教育の融和に基づく概念化と言葉による見方・考え方の向上 ～文学教材で育む見方・考え方～</p> <p>④有為な書道教員を養成するための教材開発 ～授業実践の成果を踏まえたテキスト作成～</p> <p>⑤特別開発研究プロジェクト成果報告 理科におけるプログラミング教育の円滑実施に向けた段階的な指導カリキュラムの開発</p> <p>⑥特別開発研究プロジェクト成果報告 知的障害者の障害教育に関する研究 ～高等部在学中から成人期における教育内容の検討と、生涯教育のための本人向けテキストの作成～</p> <p>⑦特別開発研究プロジェクト成果報告 体育授業におけるインクルーシブ教育の展開を目指した教材の考察と検証 :多様な特徴を持つ児童・生徒に対する水泳授業を通して</p> <p>⑧特別開発研究プロジェクト成果報告 大学と附属学校の連携による体系的な養護実習モデルプランの作成並びに ICT教育コンテンツの作成と検証</p>		
	全体・地区別	研究テーマ等
国語	全体	国語科の新しい授業づくりの視点 ～縦と横の連携を意識して～
	世田谷地区	学習コミュニケーションを意識した授業づくり ～文学教材を中心に～
	小金井地区	児童・生徒の思考を拓げる国語科の授業(2年次)
	大泉地区	学校ごとの課題に応じたカリキュラムの作成と実践
	竹早地区	豊かな伝え合いをめざして ー国語科における「学びを深める場」とはー
社会	世田谷地区	新学習指導要領の実施に向けた授業と評価の開発(Ⅱ) ～小・中・高で一貫した観点別評価の模索～
	小金井地区	歴史的認識の再構築に向けた授業実践
	大泉地区	新学習指導要領に対応した附属学校における教育実習のありかた
	竹早地区	学びを深める場をつくる手立て
算数・数学	世田谷地区	「科学的な発見のための推論の方法」に目を向けた教材開発の可能性 ～アナロジー・アブダクションに焦点を当てて～
	小金井地区	算数・数学における式の理解に関する研究
	大泉地区	算数・数学科の連携向上を目指した授業実践の研究
	竹早地区	算数・数学科における「学びを深める場」とは
理科	世田谷地区	理科授業におけるアクティブラーニングの実現に向けた教員養成のあり方
	小金井地区	附属小中連携による理科の授業カリキュラムの構築(7年次)
	大泉地区	IBプログラムを核とする探求的な活動を通した初等中等教育の連携研究
	竹早地区	理科における学びを深める場をつくる手立てとは何か
音楽	全体	大学との連携を深める教育実習生指導のあり方
図画工作・美術	全体	大学と附属学校との連携における教員養成の実践研究
保健体育	世田谷地区	子どもの学びから捉えた小中高連携カリキュラムの評価
	小金井地区	ウォーミングアップの検討
	大泉地区	小・中・高等学校を見通した学びにおける学習評価について ～国際バカロレア教育における一貫した学習評価のありかたについての研究(4年次)～
	竹早地区	学びを深める場をつくる ～体育における「学びを深める場」とその手立てとは～
技術	全体	教育実地研究における指導法～大学との連携、新学習指導要領における評価法の検討
家庭	全体	教育実習における指導のあり方の検討、新学習指導要領における小・中・高等学校の系統性の研究
外国語・国際理解教育	全体	小学校英語教科化に伴う評価のあり方
道徳	全体	子どもが自己の生き方を切り拓く学びの創造～次世代につながる道徳教育の在り方を求めて～
学校保健	全体	子どもの育ちを支えるプラットフォーム型教育支援 ー附属学校園と大学の連携を活かしてー
幼児教育	全体	保育現場における実習指導のあり方 ー附属園における指導計画の観点から②ー
書写・書道	全体	書写・書道の有為な教員養成のための実践的研究ー教育実習において実践力を高めるカリキュラムの構築ー
教育と福祉	全体	「障害のある幼児・児童・生徒の日常生活指導」(登下校の安全確保)
学習評価	全体	特別支援教育における学習評価Ⅱ ～学習指導要領における学習評価の変遷～
生活・総合	全体	生活科・総合的な学習の時間
情報教育	全体	情報教育における教育環境について、プログラム学習の可能性と具体例について
食育	全体	子どもの実態に合わせた食育

Ⅱ- (10) 研究活動受賞者

(令和元年度)

所属	受賞者	賞の名称	授与機関	受賞年月
総合教育科学系	北澤 武	優秀発表賞	教育システム情報学会	2020年3月
総合教育科学系	北澤 武	論文賞	日本教育情報学会	2019年8月
人文社会科学系	白勢 彩子	学会活動貢献賞	日本音響学会	2020年3月
自然科学系	樫山 淳雄	第6回 実践的IT教育シンポジウム優秀教育実践賞	日本ソフトウェア科学会	2020年1月
自然科学系	松浦 執	CIEC学会賞論文賞	コンピュータ利用教育学会	2019年8月
芸術・スポーツ科学系	石井 壽郎	ART OLYMPIA International Open Art Competition[Open Category]Excellent Award	Living National Treasure Museum	2019年6月

Ⅲ. 社会貢献活動

Ⅲ－（１）地域連携事業

（令和元年度）

事業名称	連携先機関等	
① 東京都教育職員免許法認定講習(小学校・中学校・養護教諭部門)(R8.16～8.29)	東京都教育委員会	
② 東京都教育職員免許法認定講習（特別支援学校教諭部門)(R8.7～8.29)	東京都教育委員会	
③ 東京都教職員研修センターと国立大学法人東京学芸大学との連携による講座(R8.1～12.27)	東京都教職員研修センター	
④ 現職教員研修(R1.6.17～11.28)	東京都教職員研修センター	
⑤ 東京都小学校理科教育研究会野外学習プログラム(R1.7.25、8.26)	東京都小学校理科教育研究会	
⑥ 多摩六都科学館夏期教員セミナー(R1.7.23～7.25)	多摩六都科学館	
⑦ 理科実技研修会(R1.9.4)	島尻教育研究所	
⑧ 理科教員研修の開発と実践(R2.1.30、1.31)	福井県教育総合研究所	
⑨ 冬期理科教員ワークショップ(小学校教員向け)(R1.12.26～12.28)		
⑩ 八王子市教委「新教育課程教科等検討部会」(R1.17.29)	八王子市理科部会	
⑪ 第1学年 多摩川校外学習(R1.11.9)	八王子市立中山中学校	
⑫ フロントランナーのための算数数学授業研究セミナー(R1.10.23,R2.1.26)	東京都教育委員会 教科等特別部会(算数・数学)	
⑬ 中学校学力向上・組織力向上のための実践研究事業(R1.5.2,9.26,9.27,R2.1.31)	高知県教育委員会西部教育事務所	
⑭ 青少年のための科学の祭典 東京大会 in 小金井(R1.9.22)	小金井市 小金井市教育委員会 国際ソロプチミスト東京ー小金井	
⑮ サテライト学習会&防災教育プログラム(R1.8.5～8.9)	二戸市教育委員会	
⑯ 教育フォーラム2019 いよいよ始まるプログラミング教育と学習者用デジタル教科書活用(R1.11.30)	小金井市教育委員会 国分寺市教育委員会 小平市教育委員会	
⑰ 親子野球教室(R1.8.24)	小金井市教育委員会 読売巨人軍	
⑱ 学長杯サッカー大会(R1.12.8)	小金井市サッカー協会 国分寺市サッカー協会 小平市サッカー協会 FC東京	
学芸大クラブ	⑲ サッカー教室(R1.5.9～7.11,R1.10.10～11.28)	小金井市教育委員会 FC東京
	⑳ ウォーキング・ジョギング教室(R2.2.22)	小金井市教育委員会
	㉑ ジュニア陸上教室(R2.2.22)	小金井市教育委員会

連合学校教育学研究所専任教員は自然科学系に含む。

Ⅲ－（２）免許状更新講習

①講師数（領域別・専攻別）一覧

（令和元年度）

講師所属 専攻・コース・サブコース	必修					選択必修					選択				
	担当 時間数	担当 講習数	講師数	定員数	受講者数	担当 時間数	担当 講習数	講師数	定員数	受講者数	担当 時間数	担当 講習数	講師数	定員数	受講者数
教育実践創成	12	4	4	440	410	12	2	3	220	161	12	2	2	60	40
学校教育	48	16	8	1,760	1,211						24	4	4	150	141
学校心理	48	16	16	1,760	1,204										
特別支援教育	12	4	2	440	417						24	4	4	260	248
家政教育						6	1	1	110	19	12	2	2	58	55
国語教育						6	1	1	110	107	48	8	8	484	451
英語教育						12	2	2	160	109	18	3	3	170	158
社会科教育						6	1	1	110	69	78	13	15	730	487
数学教育						6	1	2	110	84	42	7	8	345	319
理科教育						6	1	2	110	71	108	18	18	462	329
技術教育						6	1	1	110	4	12	2	2	58	11
音楽教育						6	1	2	110	65	36	6	6	220	204
美術教育						6	1	2	110	46	48	8	8	280	266
保健体育						6	1	3	110	97	54	9	9	370	354
養護教育											18	3	3	110	99
総合教育開発・生涯教育											18	3	3	105	100
総合教育開発・国際理解教育・多言語多文化教育											78	13	3	1,010	753
総合教育開発・国際理解教育・地域研究教育											36	6	6	220	183
総合教育開発・情報教育						6	1	1	30	30	18	3	3	65	27
総合教育開発・環境教育・環境教育											12	2	2	40	37
総合教育開発・環境教育・文化遺産教育											6	1	1	20	20
総合教育開発・表現教育											30	5	5	160	152
附属学校教員						54	9	18	990	638					
その他						6	1	3	60	58	6	1	5	40	38
計	120	40	30	4,400	3,242	144	24	42	2,450	1,558	738	123	120	5,417	4,472

②定員充足率

（令和元年度）

	講習数	定員数	受講者数	定員充足率(%)
必修講習	20	2,200	1,621	73.7%
選択必修講習	24	2,450	1,558	63.6%
選択講習	124	5,417	4,472	82.6%
計	168	10,067	7,651	76.0%

【必修講習】

- ・1講習あたりの定員は、110名に設定している。
- ・1講習を複数の専攻にまたがった2～4人の講師が担当しているため、講習数、定員数、受講者数の合計は、のべ数となっている。
- ・1講習6時間で、内容が4つの細目で構成されているので、1細目の担当時間を1.5時間で計算。選択講習は、1講習6時間。
- ・平成28年度より1講習の時間数が12時間から6時間に変更。

【選択必修講習】

- ・平成28年度より新設。1講習6時間。

【選択講習】

- ・同じ講師が複数開講、その他附属学校教員を含め複数名の講師で1講習を開講するものがあるため、担当時間数、担当講習数、講師数、定員数、受講者数の合計は、のべ数となっている。

Ⅲ－（３）受託事業

（令和元年度）

区分	委託機関名	事業名	事業期間
文部科学省	総合教育政策局	平成31年度学校図書館司書教諭講習	R1.5.14～R2.3.31
	初等中等教育局	「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム(グローブ)推進事業」の中央センター事業	R1.9.12～R2.3.31
独立行政法人	教職員支援機構	2019年度幼稚園教員資格認定試験	H31.4.1～R2.3.31
	教職員支援機構	2019年度小学校教員資格認定試験	H31.4.1～R2.3.31
その他	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	発達障害児の聞き取りの困難さの要因を探る実証研究	H31.4.1～R2.2.28
	国立教育政策研究所	教育課程研究指定校事業	R1.6.3～R2.3.20
	公益財団法人 河川財団	「全国河川教育大学間ネットワーク」事業における河川教育推進業務	R1.9.30～R2.3.23
	株式会社Barbara Pool	「ファシリテーションスキル研修の開発・実証」に係る業務	R1.12.23～R2.2.28

Ⅲ－（４）公開講座

（令和元年度）

学系	No.	講座名
総合教育科学系	1	学芸の森を散策して学ぶ緑と生け花Ver.10
	2	学校司書入門講座Ver10;使える学校図書館を作ろう
	3	学校司書応用講座Ver9;授業に活かす学校図書館
	4	学び合いを支える実践力を培う コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座
	5	先天色覚異常の子どもに教師ができること
人文社会科学系	6	「迷子しらべの石」を訪ねて
	7	中国古典文学と女性たち～表現対象として、担い手として～
	8	地球市民を育てる小学校英語の授業1－国際理解教育と小学校英語教育を結ぶ－
芸術・スポーツ科学系	9	地球市民を育てる小学校英語の授業2－国際理解教育と小学校英語教育を結ぶ－
	10	国語の先生のための文法再入門
	11	第3回国語メディアリテラシー講座「想像力のスイッチを入れよう」
	12	ハケの不思議－100年前の「地図」と「双六」でタイムスリッパ
	13	武蔵野台地と「ハケ」再考－大地・水・人がはぐくむ歴史と記憶－
自然科学系	14	合格のための気象予報士試験対策講座【学科一般編(前期)】(5/12)
	15	近年の異常気象と地球温暖化について その原因に迫る！(5/19)
	16	合格のための気象予報士試験対策講座【学科一般編(後期)】(6/23)
	17	気象予報士に挑戦～実技・低気圧編1～
	18	合格のための気象予報士試験対策講座【学科専門編(前期)】(6/30)
	19	夏休み自由研究教室「親子で学ぶ天気図講座」(7/28am)
	20	夏休み自由研究教室「中高生のための天気図講座(夏空編)」(7/28)
	21	夏休み自由研究教室「親子で学ぶ天気図講座」(8/4am)
	22	合格のための気象予報士試験対策講座【学科専門編(後期)】(8/4)
	23	夏休み自由研究教室「親子で学ぶ天気図講座」(8/4pm)
	24	気象予報士に挑戦～実技・前線編～
	25	夏休み自由研究教室「中高生のための天気図講座(台風編)」(8/11)
	26	夏休み自由研究教室「親子で学ぶ天気図講座」(8/11pm)
	27	合格のための気象予報士試験対策講座【学科一般編(前期)】(11/17)
	28	ウィンタースポーツのための天気図講座
	29	気象予報士に挑戦～実技・低気圧編2～
	30	気象予報士に挑戦～実技・台風編～
	31	合格のための気象予報士試験対策講座【学科専門編(前期)】(12/22)
	32	合格のための気象予報士試験対策講座【学科専門編(後期)】(1/11)
	33	ロボット・プログラミング体験講座
34	デジタルファブ리케이션入門講座～3D-CADでオリジナルストラップを作ろう～	
35	ケイソウ観察入門	
芸術・スポーツ科学系	36	健康テニス教室【春】
	37	親子運動スキルアップ教室
	38	健康テニス教室【秋】
	39	大人のトランポリン教室(初級編)
	40	金属工芸の基礎技法～鍛金技法による銅の器(うつわ)制作

学系	No.	講座名
芸術・スポーツ科学系	41	わくわく柔道(夏)
	42	わくわく柔道(冬)
	43	らくらく水泳教室～フラットスイムを楽しもう～①
	44	水泳トレーニング教室①
	45	水泳トレーニング教室②
	46	レベルアップ水泳教室①
	47	市民安全水泳教室①
	48	こども水泳教室～平泳ぎ編①
	49	こども水泳教室～背泳ぎ編
	50	親子で学ぼう！水辺の安全教室①
	51	水泳トレーニング教室③
	52	こども水泳教室～平泳ぎ編②
	53	らくらく水泳教室～フラットスイムを楽しもう～②
	54	こども水泳教室～クロール①
	55	こども水泳教室～バタフライ編
	56	こども水泳教室～クロール編②
	57	こども水泳教室～平泳ぎ編③
	58	透かして描く半透明イラストレーション
	59	発見！生き物新図鑑づくり
	60	未来の吹奏楽教育を考える
	61	インプロ(即興演劇)ワークショップ
	62	楽しい銅版画
	63	楽しい浮世絵木版画
	64	バリ島のガムラン音楽を演奏しよう(初級)Ⅱ
	65	バリ島のガムラン音楽を演奏しよう(初級)Ⅲ
センター	66	小学校でのプログラミング教育入門
	67	特別支援教育の基礎と実践(16) :知的・発達障害の多様性に応じた教育的支援
	68	漢文屋から見た中島敦「山月記」
	69	木簡で『論語』を読んでみよう
	70	中国周代の文字(金文)で年賀状を書いてみよう—金文展参観と共に
	71	特別支援教育の知恵を深める:第1部 多言語多文化や剥奪環境にある児童への支援
	72	特別支援教育の知恵を深める:第2部 言語・コミュニケーション・情動支援の理論と実践
	教職大学院	73
74		第21回「日本伝統音楽入門一尺八を楽しもう」(秋学期)
75		担任が進める外国語活動・外国語の授業 基礎編
76		担任が進める外国語活動・外国語の授業 授業づくり編
77		新学習指導要領に対応した国語科授業づくり
78		健康教育・安全教育でアクティブラーニング！ ～新学習指導要領を踏まえた指導の工夫～

Ⅲ－（５） 附属学校現職教員研修講座

（令和元年度）

学校名	実施日	講座・研修会等名称
世田谷小学校	8月中～下旬	世田谷夏季現職研修会
小金井小学校	5/18,9/7,12/21	小金井算数授業研究会
	7月21日	算数の会授業研究会
	8月24日	現職研修セミナー(国語)
	8月30日	理科おもしろゼミ
	10月9日	府中市教育研究会(算数)
	10月9日	小金井市教育研究会(算数)
	11月8日	東京都小学校国語研究会
	12月22日	国語科授業づくり研究セミナー
	12月26日	冬季道徳授業研究集会
大泉小学校	8月19日	道徳科授業研究会
	8月20日	小学校英語授業研修会
	8月31日	算数授業セミナー(練馬で算数を語る会)
	6月29日	大泉体育授業セミナー
竹早小学校	4/13,9/28,12/21,2/15	教育実践対話の会
	8月1日	日本教育大学協会音楽部全国大会
	8月1日	児童造形教育研究研修会
	12月21日	第11回体育授業研究会 冬の研修会
	1月26日	竹早地区算数数学授業研究会
世田谷中学校	8月14日	理科現職教員研修セミナー
	8月23日	英語科夏季現職教員研修セミナー
	8月24日	数学科夏季現職教員研修セミナー
	3月20日	数学科春季現職教員研修セミナー
	3月27日	社会科現職教員研修セミナー
	3月28日	英語科春季現職教員研修セミナー
小金井中学校	11月15日	渡部竜也先生、南浦涼介先生講演会
竹早中学校	年3回	東京都中学校技術・家庭科研究会生物育成研研修会
	年2回	美術造形教育研究会
	1月	小中数学研究会(授業公開)
高等学校	授業期間中随時	授業公開・訪問受付
	5月31日	地理における野外実習の実際
	7月9日～11日	夏期特別実験講座物理 体験講習会
	7月9日～11日	夏期特別実験講座化学 体験講習会
	7月13日	第3回授業実践研究会「探究活動」
	8月28日	数学的活動を促す授業づくり
	9月28日	第4回授業実践研究会「探究活動」
	10月30日・31日	地学科公開研究会 野外観察講座
	11月19日	第5回授業実践研究会「地理」
	11月20日	高校国語科における演劇の鑑賞指導について
	12月8日	第6回授業実践研究会「英語」×教員ITC
	2月27日	第7回授業実践研究会「公民」
国際中等教育学校	7月29日～8月2日	IBENTレーニング
	7月31日～8月2日	IB教員研修
	11月22日	SGH情報交換会
	11月22日	IB情報交換会
	2月22日	SGH事業成果報告会
特別支援学校	8月2日	東京学芸大学生活支援ネットワークフォーラム 第15回ネットフォーラム
	9月6日	特別なニーズのある幼児を育てる

IV . 国際交流活動

IV－（１）大学間交流協定校

（令和元年度）

	協定大学名	国・地域名	締結年	学術交流	学生交流	受入学生数	派遣学生数
1	新羅大学校	韓国	1995	○	○	2	
2	全南大学校	韓国	1997	○	○	3	
3	公州大学校	韓国	1998	○	○	1	
4	ソウル市立大学校	韓国	1998	○	○	2	2
5	京畿大学校	韓国	2002	○	○	2	
6	ソウル教育大学校	韓国	2003	○	○	4	3
7	忠南大学校	韓国	2004	○	○	0	
8	韓国教員大学校	韓国	2005	○	○	1	
9	京仁教育大学校	韓国	2008	○	○	0	
10	清州教育大学校	韓国	2009	○	○	1	
11	済州大学校	韓国	2009	○	○	0	
12	韓国伝統文化大学校	韓国	2009	○			
13	ソウル大学校師範大学	韓国	2014	○	○		
14	北京師範大学	中国	1995	○	○	6	3
15	東北師範大学	中国	1996	○	○	0	
16	蘇州大学	中国	1999	○	○	2	
17	香港中文大学	中国	1999	○	○	2	3
18	華東師範大学	中国	2002	○	○	2	2
19	上海師範大学	中国	2003	○	○	5	0
20	香港教育大学	中国	2009	○			
21	華中師範大学	中国	2009	○	○	2	
22	南京師範大学	中国	2009	○	○	2	
23	湖南師範大学	中国	2009	○	○	3	
24	北京外国語大学	中国	2016	○	○	1	
25	国立台湾大学	台湾	2002	○	○	2	2
26	国立台湾師範大学	台湾	2005	○	○	2	0
27	国立台中教育大学	台湾	2008	○	○	2	
28	モンゴル国立教育大学	モンゴル	2007	○			
29	モンゴル国立大学	モンゴル	2007	○			
30	ラオス国立大学	ラオス人民民主共和国	2015	○			
31	ベトナム国家大学ハノイ校 人文社会科学大学	ベトナム社会主義共和国	2015	○	○	3	
32	ベトナム国家大学ハノイ校 外国語大学	ベトナム社会主義共和国	2016	○	○	0	
33	ブナコン・ラジャパット大学	タイ	1998	○	○		
34	タマサート大学	タイ	2000	○	○	0	
35	シラパコーン大学	タイ	2000	○	○	11	
36	コンケン大学	タイ	2015	○	○	1	
37	チェンマイ・ラジャパット大学	タイ	2020	○	○		
38	インドネシア教育大学	インドネシア	2006	○	○	3	0
39	フィリピン教育大学	フィリピン	2006	○	○		2
40	キャンベラ大学	オーストラリア	1995	○	○	2	2
41	西シドニー大学	オーストラリア	1997	○	○	1	1
42	ビクトリア大学	オーストラリア	2009	○	○		0
43	モナッシュ大学	オーストラリア	2019	○			
44	カンタベリー大学	ニュージーランド	2015	○	○		0
45	カーセジ大学	アメリカ	1996	○	○	1	5
46	ポールステイト大学	アメリカ	1998	○	○	4	3
47	ハワイ大学ヒロ校	アメリカ	2002	○	○	0	2
48	ブリッジウォーター州立大学	アメリカ	2016	○	○		
49	ミシガン州立大学	アメリカ	2017	○			
50	ニューヨーク州立大学コートランド校	アメリカ	2017	○			
51	セントラル・ワシントン大学	アメリカ	2019	○			
52	チアパス州立芸術科学大学	メキシコ	2013	○	○		
53	トリア大学	ドイツ	1997	○	○	2	0
54	ハイデルベルク大学	ドイツ	1999		○	2	5
55	ミュンヘン音楽・演劇大学	ドイツ	2004	○			

	協定大学名	国・地域名	締結年	学術 交流	学生 交流	受入学 生数	派遣学 生数
56	フリードリッヒアレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク	ドイツ	2005	○	○	1	1
57	ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所	ドイツ	2008	○	○	3	2
58	ヤゲウォ大学	ポーランド	2008	○	○	0	2
59	国立東洋言語文化大学	フランス	1997	○	○	1	1
60	パリ・デイドロ大学	フランス	2016	○	○	0	1
61	オルレアン大学	フランス	2016	○	○		1
62	グルノーブル・アルプ大学	フランス	2017	○	○	2	1
63	ノッティンガム大学	イギリス	2015	○			
64	ヨテボリ大学	スウェーデン	2000	○	○	5	5
65	ウメオ大学教養学部	スウェーデン	2009	○	○		2
66	ダルエスサラーム大学教育学部	タンザニア	2006	○	○		0
67	アグハルカル研究所	インド	2017	○			
68	アスワン大学	エジプト	2018	○	○		
	計					89	51

IV－（２）協定校派遣留学状況

①教育系・学校教育系

類	選修・専攻	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
A類	国語			1	1		1
	社会	1	1	1	3	1	
	数学						
	理科		1				
	音楽		1			2	2
	美術		1		1		
	保健体育		1		1	1	
	家庭			1			1
	英語	3		2	5		2
	学校教育				1	1	
	学校心理	3	1				1
	国際教育			1	1	2	2
	日本語教育	1	1				
	情報教育						
	環境教育						1
	ものづくり教育			1		0	
ものづくり技術					1		
幼児教育	1						
B類	国語						
	社会					1	1
	数学		x			1	
	理科						
	音楽						
	美術				1	2	
	保健体育						
	家庭		1				
	技術						
	英語	3	1	1	2	2	6
書道				1	2		
C類	特別支援教育	1				2	3
D類	養護教育						
計		13	9	8	17	18	20

②教養系・教育支援系

類	専攻	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
E類	生涯学習コース				2	2	
	カウンセリングコース						
	ソーシャルワークコース					1	
	多文化共生教育コース			1	13	16	20
	情報教育コース						
	表現教育コース						1
	生涯スポーツコース					1	
N類	生涯学習	1	2				1
	カウンセリング		1				
	総合社会システム	3	1				
K類	国際教育						
	多言語多文化	8	10	5	1		
	日本語教育				1		
	日本研究						
	アジア研究	10	5	3	1		
	欧米研究	4	6	9	2		
F類	環境教育	2	2		1		
	自然環境科学						
	文化財科学						
J類	情報教育						
G類	音楽	1					
	美術						
	書道				1		
	表現コミュニケーション	1			1	1	
	生涯スポーツ	2					
	計	32	27	19	22	21	22

③修士課程

専攻	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
学校教育						
学校心理		1				
特別支援教育			1		1	
家政教育						
国語教育						
英語教育	1		1		3	2
社会科教育			2	1	1	1
数学教育					1	
理科教育						
技術教育						
音楽教育				1	1	1
美術教育						
保健体育			1	1		1
養護教育						
総合教育開発		1		2		2
計	1	2	5	5	7	7
総計	46	38	32	44	46	49

該当年度派遣留学生数：前年度の選考により該当年度派遣留学生として確定した数（途中辞退者を除く）

IV－（３）短期留学状況

（留学期間別）

（令和元年度）

	1ヶ月未満	1～6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年以上	計
教育系・学校教育系	131	5	17	0	153
教養系・教育支援系	54	8	17	0	79
大学院修士課程	15	0	7	0	22
教職大学院	8	0	0	0	8
計	208	13	41	0	262

（地域別・男女別）

	男	女	計
アジア	33	105	138
（うち中国）	5	31	36
（うち韓国）	6	24	30
北米	12	39	51
中南米	0	0	0
ヨーロッパ	12	30	42
オセアニア	12	19	31
中東・アフリカ	0	0	0
計	69	193	262

IV－（４）外国人留学生受入状況

（令和元年10月1日現在）

国(地域)名	正規生				非正規生											合計		
	大学院生		学部生	小計	研究生			教員研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	日本語予備教育生	特別聴講生			科目等履修生(大学院)	科目等履修生(学部)		小計	
	博士	修士			研究留学生	研究生(大学院)	研究生(学部)				交換留学生(大学院)	一般プログラム	交換留学生(学部)					短期留学プログラム
中国	14	57	13	84		3	24					3	17	3			50	134
韓国	5		2	7				9				1	9				19	26
スウェーデン		1		1	1				1				5				7	8
タイ				0	1			2	1				3				7	7
台湾			2	2								1	3	1			5	7
ベトナム			1	1	1				2				3				6	7
ドイツ				0								1	5				6	6
アメリカ		1		1									1	3			4	5
インドネシア				0				1	1				3				5	5
フランス				0					1				1	2			4	4
トルコ				0					3								3	3
香港				0										2			2	2
アルゼンチン				0				2									2	2
オーストラリア				0									1	1			2	2
ロシア				0					1								1	1
ハンガリー				0	1												1	1
モンゴル				0			1										1	1
ナイジェリア				0				1									1	1
ウズベキスタン		1		1													0	1
コロンビア		1		1													0	1
ネパール	1			1													0	1
イギリス				0	1												1	1
ベルギー			1	1													0	1
クロアチア				0				1									1	1
ジンバブエ				0				1									1	1
計	20	61	19	100	5	3	25	17	10	0	6	51	12	0	0	129	229	
国費留学生内数	1	4	0	5	5	0	0	17	10	0	0	0	0	0	0	0	32	37

国際交流

IV－（５）教員・研究者の派遣受入状況

①学系別教員海外派遣状況(6ヶ月以上)

(令和元年度)

	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	センター
研究専念制度	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0

②外国人研究者受入状況(2週間以上)

	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
協定校	0	0	2	1	1
JICA研修員	0	0	0	0	0
その他	8	8	5	8	8
計	8	8	7	9	9

IV-(6) 留学生センター事業

(令和元年度)

事業名	概要	対象	
特別研修プログラム	日本語日本文化研修プログラム	日本語研修および日本文化理解のためのセミナー・見学・交流活動等の企画・運営、個人研究の指導、研究レポート集の発行等	日本語日本文化研修留学生(日研生)
	教員研修プログラム	日本語研修、教員特別演習、研究発表会、研究報告集の発行、見学・交流等専門研修以外の活動の企画・運営等	教員研修留学生(教研生)
	留学生教育プログラム(ISEP)	英語による日本理解科目の開設(春学期計13枠、秋学期計12枠)、個人研究の指導、日本理解・国際理解のためのワークショップ・セミナー等の企画・運営、研究レポートの発行	留学生教育プログラム生(ISEP生)
	シラパコン大学7+1プログラム	日本語研修、特別演習の実施、見学・体験・交流行事の企画運営、作文集の発行等	シラパコン大学7+1プログラム生
教育支援	日本語教育	日本語科目の開講(春学期計46枠、秋学期計51枠)、日本語プレースメントテスト実施(4月、10月)、授業評価アンケート実施(7月、2月)	全学留学生
	日本理解教育	日本理解科目の開講(春学期計3枠、秋学期計4枠)、多文化共修科目の開講(春学期2枠、秋学期2枠)	全学留学生、全学学生
主な日本理解・国際理解関連行事	和菓子ワークショップ	和菓子作りデモンストレーションと体験:1月29日	全学留学生
	文楽鑑賞教室	国立劇場:12月9日	全学留学生・日本人学生
	歌舞伎鑑賞教室	国立劇場:6月12日	国費研究生・教研生・ISEP生
	華道体験授業	華道についての講習と体験:7月17日	全学留学生
	三鷹の森ジブリ美術館	2月5日	全学留学生
	日本科学未来館	1月8日	国費研究生・教研生・ISEP生
	大相撲見学	国技館:2月9日	全学留学生
学内および地域交流	公立学校との交流授業	都立国際高校:6月8日・1月18日、都立淵江高校:2月14日	全学留学生
	附属小学校との交流授業	小金井小学校:12月12日・2月6日・12月18日、竹早小学校:12月11日	日研生・教研生 ISEP生ほか
	国際交流合宿	御殿場:5月18日～19日	全学学生
	学生交流・地域散策	秋のお散歩(貫井神社～野川)[10月30日]、江戸東京たてもの園見学[11月20日]	全学学生
	留学生カフェ	春学期:毎週木曜日昼休み(計11回) 秋学期:毎週木曜日昼休み(計11回)	全学学生
	海外の学校教育事情(カフェ講座)	春学期:毎週1回開催(計9回)	全学学生
	ホームヴィジット	小平市国際交流協会の協力による。6月26日、29日、7月7日	シラパコン大学7+1プログラム生
生活支援関連行事	全学留学生オリエンテーション	春学期・秋学期各1回実施	全学留学生
	新入生ウエルカムパーティ	4月5日・10月4日[生協共催]	全学留学生
	日本語サポートルーム	春学期:毎週火曜日4限・水曜日4限、木曜日4限(計47回) 秋学期:毎週月曜日4限、火曜日4限・水曜日4限・木曜日3,4限(計41回)	全学留学生
	防災体験学習	立川防災館:11月27日	日研生・教研生ほか
その他	留学生ネットワークの運営	留学生向けのメーリングリストの作成と利用	全学留学生(非正規生)
		ソーシャルメディアを利用した修了生ネットワークの運営	修了留学生
	日本語教育活動の推進と周囲との連携	学部学生(A類国語専修日本語教育コース)の授業見学受け入れ	学部学生
		大学院生(次世代日本型教育システム研究開発専攻日本語教育領域)の授業見学受け入れ	大学院生
	小金井市生活日本語教室のボランティア講師の授業見学受け入れ	地域住民	

V. 大学運営

V - (1) 役員会 議題一覧

第1回 平成31年4月3日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(当初案)について
- 2 寄附講義の更新について

第2回 平成31年4月17日(水)

- 1 クロスアポイントメント制度の適用について
- 2 平成31年度国立大学法人東京学芸大学会計監査人候補者の選定について
- 3 名義使用許可申請について

第3回 平成31年4月24日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第34条に基づく取扱いについて

第4回 令和元年5月8日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(最終案)について
- 2 令和元年度における余裕金の運用管理方針(案)について

第5回 令和元年5月22日(水)

- 1 規程等様式に記載されている元号の表記に関する取扱要項(案)について
- 2 東京学芸大学特命教授等に関する規程の一部改正(案)について
- 3 特命教授等の選考に関する特例規程の一部改正(案)について
- 4 クロスアポイントメント制度に関する協定書(案)について
- 5 名義使用許可申請について

第6回 令和元年6月5日(水)

- 1 平成30年度(第15期事業年度)決算(当初案)について
- 2 令和元年度交通環境整備費執行計画(案)について

第7回 令和元年6月19日(水)

- 1 名義使用許可申請について
- 2 国立大学法人東京学芸大学ウェブサイト広告掲載申請について

第8回 令和元年6月20日(木)

- 1 平成30年度(第15期事業年度)決算(案)について
- 2 令和2年度概算要求事項(案)について
- 3 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

第9回 令和元年7月17日(水)

- 1 大学教員の総合的業績評価結果報告書(平成30年度)(案)について
- 2 附属学校教員・事務系職員の再雇用及び継続雇用について
- 3 名義使用許可申請について
- 4 高木再生プロジェクト(案)について

第10回 令和元年7月23日(火)

- 1 教員の人事凍結の一部解除について

第11回 令和元年7月30日(火)

- 1 一般社団法人SNAILS紫陽会の本学住所使用について

第12回 令和元年8月20日(火)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく取扱いについて

第13回 令和元年9月4日(水)

- 1 ハイム学芸に関する取扱要項の一部改正(当初案)について
- 2 客員教授等候補者の選考について
- 3 早期退職にかかる募集実施要項(案)について
- 4 名義使用許可申請について

第14回 令和元年9月18日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学謝金支給基準の一部改正(案)について
- 2 国立大学法人東京学芸大学におけるサイバーセキュリティ対策基本計画について
- 3 名義使用許可申請について
- 4 国立大学法人東京学芸大学ウェブサイト広告掲載申請について

第15回 令和元年9月19日(木)

- 1 令和元年度収支予算(補正)(案)について
- 2 客員教授等候補者の選考について

第16回 令和元年10月2日(水)

- 1 東京学芸大学基金管理運営規程の一部改正(案)について
- 2 ハイム学芸に関する取扱要項の一部改正(最終案)について

第17回 令和元年10月16日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学受託事業取扱規程の一部改正(案)について
- 2 全学フォーラムの開催に関する要項の一部改正(案)について
- 3 東京学芸大学インソース社会人・生涯教育奨学金制度の設立について

第18回 令和元年11月6日(水)

- 1 現物資産による寄附の受入れ及び管理について
- 2 令和2年度の学長が指定する夏季休暇日について
- 3 名義使用許可申請について

第19回 令和元年11月20日(水)

- 1 令和2年3月末の早期退職制度による退職者について

第20回 令和元年12月4日(水)

- 1 客員教授等候補者の選考について

第21回 令和元年12月18日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(当初案)について
- 2 国立大学法人東京学芸大学におけるウェブサイト等の運営規程の一部改正(案)について
- 3 東京学芸大学教職特待生制度に関する要項の一部改正(案)について
- 4 教員の人事凍結の一部解除について
- 5 Explayground 推進事業の実施に関する協定書について
- 6 名義使用許可申請について
- 7 国立大学法人東京学芸大学ウェブサイト広告掲載申請について

第22回 令和2年1月8日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学役員災害補償規則の制定について

第23回 令和2年2月5日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(最終案)について
- 2 令和元年度収支予算(第2次補正)(案)について
- 3 令和2年度東京学芸大学予算配分の基本方針(案)について
- 4 教員候補者選考委員会開設申請(戦略的配置教員)について
- 5 租税特別措置法第40条の規定による承認申請書及び添付書類の記載事項が事実と相違ない旨の確認書の発行について

第24回 令和2年2月19日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(当初案)について
- 2 国立大学法人東京学芸大学情報セキュリティインシデント対応チーム(TGU-CSIRT)運営規程の制定について
- 3 国立大学法人東京学芸大学情報セキュリティインシデント対応手順書の一部改正(案)について
- 4 国立大学法人東京学芸大学アドミッションオフィス規程の一部改正(案)について
- 5 寄附講義の更新について
- 6 名義使用許可申請について

第25回 令和2年2月28日(金)

- 1 令和2年度学部入試(前期日程)合格予定者数(原案)について

第26回 令和2年3月4日(水)

- 1 大学教員の総合的業績評価実施基準の一部改正(案)について
- 2 令和2年度国立大学法人総合損害保険(国大協保険)の加入について
- 3 令和2年度国立大学法人役員賠償責任保険の更新について

第27回 令和2年3月18日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学組織運営規程の一部改正(案)について
- 2 国立大学法人東京学芸大学の理事及び東京学芸大学の副学長の職務分担等に関する取決めの一部改正(案)について
- 3 国立大学法人東京学芸大学受託事業取扱規程の一部改正(案)について
- 4 国立大学法人東京学芸大学教員資格認定試験実施委員会規程を廃止する規程(案)について
- 5 国立大学法人東京学芸大学情報基盤整備推進本部要項の一部改正(案)について
- 6 国立大学法人東京学芸大学教育実践研究推進本部要項の一部改正(案)について
- 7 事務職員の再雇用について
- 8 役員の退職手当に係る業績勘案分について
- 9 早期退職にかかる募集実施要項(案)について
- 10 令和2年度学部入試(後期日程)合格予定者数(原案)について
- 11 国立大学法人東京学芸大学ウェブサイト広告掲載申請について

第28回 令和2年3月25日(水)

- 1 年度計画(令和2年度)案について
- 2 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(最終案)について
- 3 令和2年度収支予算(案)について
- 4 役員の退職手当に係る業績勘案分について

V - (2) 経営協議会 議題一覧

第1回 令和元年6月20日(木)

- 1 平成30年度(第15期事業年度)決算(案)について
- 2 令和2年度概算要求事項(案)について
- 3 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について
- 4 平成30年度自己点検評価結果(案)について

第2回 令和元年9月19日(木)

- 1 令和元年度収支予算(補正)(案)について

第3回 令和元年11月22日(金)

(報告事項のみ)

第4回 令和2年1月30日(木)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(案)について
- 2 令和元年度収支予算(第2次補正)(案)について
- 3 令和2年度東京学芸大学予算配分の基本方針(案)について
- 4 国立大学法人東京学芸大学の監事候補者の選考について

第5回 令和2年3月16日(月)~3月23日(月)(書面審議)

- 1 年度計画(令和2年度)案について
- 2 役員の退職手当に係る業績勘案分について
- 3 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(案)について
- 4 令和2年度収支予算(案)について
- 5 国立大学法人東京学芸大学の監事候補者の選考について

V - (3) 教育研究評議会 議題一覧

第1回 平成31年4月10日(水)

- 1 クロスアポイントメント制度の適用について
- 2 一般選抜【前期日程】における第2志望を認める選修・専攻の変更(案)について
- 3 ミシガン州立大学(アメリカ)との大学間交流協定締結について
- 4 大学間交流協定更新について

第2回 平成31年4月24日(水)

- 1 東京学芸大学現職教員研修推進機構規程(案)について
- 2 東京学芸大学教育インキュベーションセンター規程の一部改正(案)について
- 3 大学院教育学研究科特別研究学生交流規程に基づく他の大学院等との協議について
- 4 香港日本人学校との連携協力について
- 5 国立大学法人東京学芸大学教育研究経費配分基準に基づく取扱いの一部改正(案)について
- 6 平成31年度「教育研究経費」予算配分(案)等について
- 7 共同研究の受入れについて
- 8 共同研究の変更について
- 9 受託研究の変更について

第3回 令和元年5月15日(水)

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和2年度の教員人事の方針について

第4回 令和元年5月29日(水)

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和2年度の教員人事の方針(追加案)について
- 2 東京学芸大学教員選考規程の一部改正(案)について
- 3 東京学芸大学教職大学院専任教員等選考要項の一部改正(案)について
- 4 東京学芸大学客員教授等選考規程の一部改正(案)について
- 5 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について
- 6 セントラル・ワシントン大学(米国)との大学間交流協定締結について
- 7 大学間交流協定更新について
- 8 令和元年度「教育研究経費」予算配分(案)について
- 9 共同研究の受入れについて

第5回 令和元年6月12日(水)

- 1 東京学芸大学大学院教育学研究科(修士課程)入学者の選抜基準の一部改正(案)について
- 2 東京学芸大学教育学部入学選抜(特別選抜)実施要領の一部改正(案)について
- 3 令和2年度東京学芸大学入学選抜要項(案)について
- 4 「大学入学共通テスト」について
- 5 北京師範大学とのダブルディグリー・プログラムに関する申合せの更新について
- 6 共同研究の受入れについて
- 7 受託研究の受入れについて
- 8 研究員の受入れについて

第6回 令和元年6月26日(水)

- 1 平成30年度自己点検評価結果(案)について
- 2 令和元年度若手教員等研究支援費の配分(案)について

第7回 令和元年7月10日(水)

- 1 教授ポストの取扱いについての一部改正(案)について
- 2 教授ポストの取扱いの適用外とする教員ポストの教授昇任についての一部改正(案)について
- 3 東京学芸大学教員養成高度化プロジェクト登録学生に関する要項の一部改正(案)について
- 4 入学選抜(一般選抜)における欠員補充第2次学生募集実施要項(案)について
- 5 令和4年度(2022年度)入試における大学入学共通テストの受験を要する科目の変更(案)について
- 6 共同研究の受入れについて
- 7 受託研究の受入れについて

第8回 令和元年7月24日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学経営協議会学外委員(補欠委員)の任命について
- 2 東京学芸大学次世代教育研究センター規程の一部改正(案)について
- 3 東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター規程の一部改正(案)について
- 4 東京学芸大学施設の有効活用に関する規程の一部を改正する規程(平成29年規程第17号)の一部改正(案)について
- 5 共同研究の受入れについて
- 6 受託研究の受入れについて

第9回 令和元年9月11日(水)

- 1 東京学芸大学学部学生交流規程の一部改正(案)について
- 2 東京学芸大学大学院教育学研究科科目等履修生規程の一部改正(案)について
- 3 東京学芸大学教職大学院(教育学研究科教育実践専門職高度化専攻)入学選抜基準の一部改正(案)について
- 4 ストラスブール大学(フランス)及びトゥールーズ・ジャン・ジョレス大学(フランス)との大学間交流協定締結について
- 5 共同研究の受入れについて
- 6 受託研究の受入れについて

第10回 令和元年9月25日(水)

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和2年度の教員人事の方針(追加案)について
- 2 共同研究の受入れについて
- 3 共同研究の変更について

第11回 令和元年10月9日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学共同研究取扱規程の一部改正(案)について
- 2 国立大学法人東京学芸大学受託研究取扱規程の一部改正(案)について
- 3 2020年度授業暦について

第12回 令和元年10月23日（水）

- 1 チェンマイ・ラーチャパット大学（タイ）との大学間交流協定締結について
- 2 令和2年度（2020年度）に実施する入学者選抜の募集人員の変更（案）について
- 3 大学入学共通テストにおける英語成績提供システムの利用について
- 4 共同研究の受入れについて

第13回 令和元年11月13日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学の保有する個人情報の保護に関する規程の一部改正（案）について
- 2 共同研究の受入れについて
- 3 共同研究の変更について

第14回 令和元年11月27日（水）

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和2年度の教員人事の方針（追加案）について
- 2 東京学芸大学附属学校運営規程の一部改正（案）について
- 3 「大学入試英語成績提供システム」の導入見送りに伴う本学の対応について

第15回 令和元年12月11日（水）

- 1 東京学芸大学名誉教授称号授与規程の一部改正（案）について
- 2 東京学芸大学名誉教授称号授与規程施行細則の一部改正（案）について
- 3 東京学芸大学教育学部入学者選抜試験（特別選抜）実施要領の一部改正（案）について
- 4 令和元年度教育研究経費（保留分及び残額）の予算配分（案）について
- 5 共同研究の受入れについて

第16回 令和2年1月15日（水）

- 1 東京学芸大学大学院学則の一部改正（案）について
- 2 単位互換制度実施の運用に係る諸規程等の一部改正について
- 3 東京学芸大学教員選考規程の一部改正（案）について
- 4 大学間交流協定更新について
- 5 共同研究の受入れについて
- 6 共同研究の変更について

第17回 令和2年1月29日（水）

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和2年度の教員人事の方針（追加）について
- 2 教員選考結果報告について
- 3 特任教員選考結果報告について
- 4 平成31年3月卒業・修了者の就職状況について
- 5 平成31年3月卒業・修了者の選修・専攻別進路状況について
- 6 令和元年度実施公立学校教員採用候補者選考試験結果について
- 7 国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）の平成31年3月卒業者の就職状況等について

第18回 令和2年2月12日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学学術指導取扱規程（案）について

- 2 国立大学法人東京学芸大学共同研究取扱規程の一部改正（案）について
- 3 国立大学法人東京学芸大学受託研究取扱規程の一部改正（案）について
- 4 名誉教授候補者について
- 5 共同研究の受入れについて
- 6 共同研究の変更について

第19回 令和2年2月26日（水）

- 1 東京学芸大学学芸の森環境機構規程を廃止する規程（案）について
- 2 東京学芸大学高大接続による教員養成プログラムの一部改正（案）について
- 3 令和2年度「学芸フロンティア科目」の開設について

第20回 令和2年3月11日（水）

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和2年度の教員人事の方針（追加案）について
- 2 年度計画（令和2年度）（案）について
- 3 東京学芸大学学術情報委員会規程の一部改正（案）について
- 4 東京学芸大学紀要出版規程の一部改正（案）について
- 5 東京学芸大学入学料免除及び徴収猶予取扱規程の一部改正（案）及び東京学芸大学授業料等の免除及び徴収猶予に関する規程の一部改正（案）について
- 6 令和2年度からの外部資金における間接経費の取扱いの変更について
- 7 東京学芸大学における外部資金にかかる間接経費等取扱要項（案）について
- 8 外部資金（受託研究・受託事業・共同研究）にかかる消費税相当額の取扱いについて
- 9 令和2年度「教育研究経費」の予算配分（案）について

第21回 令和2年3月25日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学現職教員支援委員会規程の一部改正（案）について
- 2 東京学芸大学大学史資料室規程の一部改正（案）について
- 3 東京学芸大学ICTセンター規程の一部改正（案）について
- 4 東京学芸大学教育学部入学者選抜試験（特別選抜）実施要領の一部改正（案）について
- 5 東京学芸大学入学者選抜について－基本方針－の一部改正（案）について
- 6 令和3年度（2021年度）大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの英語・国語・数学の配点について

V - (4) 委員等一覧

①法人関係

令和元年10月18日時点

※「◎」は委員長等、「○」は副委員長等

委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	事務局
1 学長特別補佐 2 学長補佐		伊東哲 奥住秀之 君塚仁彦 澤隆史 南道子 吉田伊津美 倉持伸江 原健二 林安紀子 岩田康之	小嶋茂稔	坂口謙一 中野幸夫	小森伸一 吉川文 鈴木聡	
3 戦略評価推進本部	◎ 國分充 中島裕昭 佐々木幸寿 川手圭一	君塚仁彦 奥住秀之 林安紀子	小嶋茂稔	中野幸夫	小森伸一	学長室長
4 広報戦略推進本部	◎ 松田恵示 特命准教授1名 特命講師1名	倉持伸江 加藤直樹	臼倉美里	中野幸夫	正木賢一	広報企画課長
5 教員養成カリキュラム改革推進本部	◎ 中島裕昭 ○ 佐々木幸寿 ○ 川手圭一 金子一彦(附属運営部長)	岩田康之 渡辺貴裕	小嶋茂稔 木村守	鎌田正裕 坂口謙一	横山和彦	学務部長
6 教育実践研究推進本部	◎ 國分充 ◎ 松田恵示 狩野賢司(附属参事)	濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄	太田朋宏	研究支援課長 財務課長
7 国際戦略推進本部	◎ 長谷川正 ○ 中島裕昭	有澤知乃 見世千賀子 岩田康之 前原健二 下田誠 大伴潔(R1.6)	加賀美雅弘 木村守 樫真智子 (R1.10)	佐藤たまき	小森伸一	国際課長
8 社会連携推進本部	◎ 松田恵示	杉森伸吉 田中比呂志		吉原伸敏	○ 鉄矢悦朗	広報企画課長
9 男女共同参画推進本部	◎ 中島裕昭 狩野賢司(附属参事)	○ 金子真理子 倉持清美	赤間祐介 及川英二郎	堂園いくみ		泉真季子
10 PD推進本部	◎ 國分充 金子一彦(附属運営部長)	濱田豊彦 下田誠	大井田義彰 中村和弘	原田和雄 中野幸夫	太田朋宏	○ 事務局長 学務部長 総務部長
11 情報基盤整備推進本部	◎ 長谷川正	○ 濱田豊彦 森本康彦 細川太輔 加藤直樹	南浦涼介	樋山淳雄	正木賢一	総務課長(併)広報企画課長 情報基盤課長
12 教員人事会議	理事、副学長	濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄	太田朋宏	
13 アドミッションオフィス	◎ 川手圭一	○ 吉田伊津美 伊藤秀樹 西村圭一	中村純子 樫真智子	狩野賢司	宮里明人	入試課長 広報企画課長
14 教育研究評議会	◎ 学長 理事、副学長 金子一彦(附属運営部長)	濱田豊彦 大伴潔 矢嶋昭雄	大井田義彰 樫真智子 畑中佳樹	原田和雄 新田英雄 狩野賢司 國仙久雄	太田朋宏 及川研 横山和彦	
① 予算専門委員会	◎ 日向信和	○ 濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄	太田朋宏	財務・研究推進部長
15 学長選考会議	長谷川正 中島裕昭 日向信和 経営協議会学外委員4名	◎ 濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄	○ 太田朋宏	
16 教員資格認定試験実施委員会		増田謙太郎 細川太輔		◎ 中村光一	○ 石橋史生	
17 危機管理会議	◎ 学長 理事、副学長 金子一彦(附属運営部長)	濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄 新田英雄	太田朋宏	学務部長 総務部長 財務・研究推進部長
18 施設整備会議	◎ 長谷川正 金子一彦(附属運営部長)	濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄	太田朋宏	○ 事務局長 財務・研究推進部長
19 情報公開・個人情報保護会議	◎ 学長 ○ 長谷川正 川手圭一	濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄 新田英雄	太田朋宏	事務局長
20 地球温暖化対策会議	理事、副学長 金子一彦(附属運営部長)	濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄	太田朋宏	学務部長 総務部長 財務・研究推進部長 施設課長
21 発明審査会議	◎ 長谷川正 ○ 松田恵示					
22 安全衛生委員会	◎ 日向信和	濱田豊彦 鈴木正志 高橋智	日高智彦	原田和雄 樋山淳雄	尾関幸	志摩智徳 星名陽平

②大学関係

令和元年10月18日時点

	委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	事務局
1	部局長会	◎学長 理事、副学長 金子一彦(附属運営部長)	濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄 新田英雄	太田朋宏	学務部長 総務部長 財務・研究推進部長
2	教授会 ※講座主任のみ掲載		山田雅彦 松尾直博 澤隆史 南道子 矢嶋昭雄	黒石陽子 木村守 川崎誠司 久邇良子	宮地淳一 鎌田正裕 佐藤公法 樋山淳雄	中地雅之 宮里明人 高橋宏文 朝倉隆司	
3	全学教室主任会	川手圭一 中島裕昭	◎濱田豊彦 末松裕基 工藤浩二 福元真由美 橋本美保 澤隆史 南道子 前田稔 松尾直博 高橋智彦 森本康彦	◎大井田義彰 中村純子 阿部始子 井ノ口哲也 高良麻子 李修京	◎原田和雄 堂園いくみ 宮地淳一 國仙久雄 山田朗(R1.10) 望月高昭 (R1.10*) 樋山淳雄	◎太田朋宏 清水和高 相田隆司 石井健 佐藤善人 鈴木琴子 青山司 佐藤耕平	
4	大学院教育学研究科運営委員会	◎佐々木幸寿 中島裕昭 川手圭一	濱田豊彦 矢嶋昭雄 福本みちよ 赤羽寿夫 原健二 齋藤ひろみ 大澤克美 西村圭一 山内雅弘 花澤洋太 加藤泰弘 鈴木秀人 大谷忠 倉持清美 粕谷恭子 北澤武 吉田伊津美 渡邊正樹 藤野博 小林正幸 見世千賀子 加瀬進 福井里江	大井田義彰 松川誠一	原田和雄 中野幸夫	太田朋宏 小森伸一	
	①入試部会		◎藤野博 ◎矢嶋昭雄 小林正幸 見世千賀子	松川誠一 大澤千恵子	新免歳靖	正木賢一	
5	教員養成高度化プロジェクト実施委員会		藤野智子 赤羽寿夫 藤野博	○荒井正剛 北澤尚	望月高昭 中田正隆	◎高尾隆 鈴木直樹	学務課長
6	大学院連合学校教育学研究科委員会	國分充	関口貴裕 大澤克美 鈴木秀人		◎新田英雄		
7	大学院連合学校教育学研究科運営委員会	◎國分充	○大澤克美 ○鈴木秀人 関口貴裕 松井智子 古屋恵太 林安紀子 橋本創一 伊藤友彦 藤野博 馬場哲生 田中比呂志 渡邊正樹 和田正人 南道子	千田洋幸 野口裕二	新田英雄 真山茂樹 中田正隆	椎野伸一 欽矢悦朗 鈴木明哲	
8	学校教育学研究論集編集委員会		古屋恵太 高橋純 伊藤友彦 齋藤ひろみ 関口貴裕	◎久邇良子	○島田和典 (R1.12) 佐藤たまき	○奥村基生(副委員長はR2.2から) 高尾隆	
9	センター機構運営会議	◎中島裕昭 太田伸也 松田恵示 川手圭一	鈴木正志 濱田豊彦 原子栄一郎 馬場哲生	加賀美雅弘	真山茂樹 金沢育三	繁田進	

委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	事務局
10 附属学校運営会議	◎ 太田伸也 金子一彦(附属運営部長) 狩野賢司(附属参事) 古家真(附属参事) 林正太(附属参事) 大野弘(附属高校長) 細井宏一(附属学校副校長) 関田義博(附属学校統括副校長) 鈴木雄治(附属学校統括副校長)	君塚仁彦			清野泰行	事務局長
① 附属学校校長・副校長会	◎ 太田伸也 金子一彦(附属運営部長) 狩野賢司(附属参事) 古家真(附属参事) 林正太(附属参事) 大野弘(附属高校長) 荻野勉(附属国際中等校長) 附属学校副校長12名	君塚仁彦 杉森伸吉 奥住秀之 加藤泰弘	内田賢	松浦執 藤本光一郎	鈴木明哲 清野泰行	
② 附属学校スクールライフ委員会	◎ 金子一彦(附属運営部長) ○ 狩野賢司(附属参事) 古家真(附属参事) 林正太(附属参事) 大野弘(附属高校長) 荻野勉(附属国際中等校長)	君塚仁彦 杉森伸吉 奥住秀之 加藤泰弘	内田賢	松浦執 藤本光一郎	鈴木明哲 清野泰行	附属学校課長
11 高大接続による教員養成プログラム実施委員会	◎ 川手圭一 狩野賢司(附属参事) 附属学校教員4名	腰越滋	日高智彦	○ 植松晴子	鈴木聡	学務部長
12 教務委員会		大河原美以 君塚仁彦	青木久 伊藤かおり	◎ 鎌田正裕 南葉宗弘	○ 山田一美 山本訓久	学務課長
① 情報教育授業運営部会		小林巖 北澤武 森本康彦 加藤直樹	白勢彩子	◎ 南葉宗弘 ○ 今井慎一	鈴木琴子	
② 語学授業運営部会		戸田孝子	◎ 青木久 樫真智子 阿戸昌彦 若林恵 出口雅敏 范文玲 李修京 木村守	○ 日高慎	小林大作	
③ 諸資格取得指導部会		◎ 君塚仁彦 ○ 水崎誠 松井智子 前田稔 吉富友恭 大森直樹	范文玲 及川英二郎 橋村修 高良麻子 近藤弘幸	里嘉千茂 服部哲則 吉原伸敏	尾関幸 橋本栄一	
13 教育実習委員会	狩野賢司(附属参事) 古家真(附属参事) 林正太(附属参事) 特命教授1名	○ 山田雅彦 櫻井眞治 宮内卓也	稲見正浩	國仙久雄 真山茂樹	◎ 速水敬一郎	学務課長
① 教育実習実施部会	狩野賢司(附属参事) 古家真(附属参事) 林正太(附属参事) 特命教授1名 附属学校教員 12名	○ 櫻井眞治 大森直樹 上杉嘉見 小西円 平田昭雄 宮内卓也 大森美湖	千田洋幸 范文玲 浅野智彦	◎ 真山茂樹 相原琢磨 荒川悦雄	石崎秀和 笠原広一 鈴木直樹	学務課長
14 学生委員会		◎ 池田一成 田中敬文	阿部始子 赤間祐介	○ 小林晋平 山本卓宏	野田清隆 久保田浩史	学生課長
15 学部入試委員会		○ 高橋純 萬羽郁子 村山拓	出口雅敏 稲見正浩	島田和典 (R1.12) 山ノ内毅彦	◎ 遠藤徹 竹鼻ゆかり 速水敬一郎	入試課長
16 現職教員支援委員会	◎ 太田伸也 林正太(附属参事)	○ 田中比呂志 永田繁雄 小林正幸 和田正人	佐藤正光	生尾光 植松晴子	橋本栄一 鈴木聡	
① 現職教員支援実施部会	◎ 太田伸也	永田繁雄 遠座知恵 梶井芳明 小林巖 渡瀬典子 齋藤ひろみ 西村圭一 前田稔 和田正人	高山芳樹 赤間祐介 小西公大	里嘉千茂 望月高昭 日高慎	○ 石橋史生 笠原広一 奥村基生 荒川雅子 吉川文	教育企画課長

委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	事務局
17 学術情報委員会	◎ 川手圭一	福本みちよ (R1.8) 渡辺貴裕 (R1.9) 前田稔	小林春夫	新免歳靖	○ 古瀬政弘	総務部長
① 各学系紀要編集部会		◎ 福本みちよ (R1.8) ○ 渡辺貴裕 (R1.9)山田雅彦 松尾直博 澤隆史 南道子 矢嶋昭雄 前原健二 林安紀子	◎ 小林春夫 ○ 木村守 黒石陽子 川崎誠司 久邇良子	◎ 新免歳靖 ○ 樋山淳雄 宮地淳一 鎌田正裕 佐藤公法	○ 古瀬政弘 ○ 鈴木直樹 中地雅之 宮里明人 高橋宏文 朝倉隆司	
18 研究倫理委員会	◎ 長谷川正	小山英恵 大森美湖	苔米地伸	前田優	○ 吉川文	
19 情報セキュリティ会議	◎ 長谷川正 金子一彦(附属運営部長)	○ 濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄	太田朋宏	事務局長
20 環境安全委員会				◎ 前田優 ○ 佐藤公法 狩野賢司 原田和雄		研究支援課長 財務課長 施設課長
21 キャンパスライフ委員会		○ 梶井芳明 見世千賀子 伊東哲 鈴木正志	山口恵子 水津嘉克	小林晋平 佐藤たまき	◎ 朝野浩行 石井壽郎 仲宗根森敦	学務部長 総務部長
① 心理的支援のための専門委員		大河原美以 福井里江 鈴木正志 大森美湖				
② 相談員		許夏玲 下田誠 齋藤ひろみ	湯浅佳子 牛垣雄矢 高山芳樹 李修京	山ノ内毅彦 山田道夫	正木賢一 新海宏成	須貝英美子 相馬光人 染谷雅子
22 総合学生支援機構	◎ 川手圭一	○ 濱田豊彦 鈴木正志 池田一成	大井田義彰 加賀美雅弘	原田和雄	太田朋宏 朝野浩行	学務部長
23 学芸の森環境機構	◎ 日向信和 農業作業員1名	○ 林安紀子 小柳知代	高良麻子		森山進一郎	総務課長 財務課長 経理課長 施設課長
24 現職教員研修推進機構	◎ 太田伸也 狩野賢司(附属参事) 附属学校副校長1名 助教1名	○ 伊東哲 ○ 林安紀子 増田謙太郎 永田繁雄 松尾直博 粕谷恭子 前原健二 下田誠		金沢育三 吉原伸敏		教育企画課長
25 学生相談室	◎ 川手圭一 特命教授 6名	及川恵				
26 学生キャリア支援室	◎ 中島裕昭 特命教授 15名	腰越滋 池田一成 福元真由美 小山英恵 澤隆史 渡瀬典子 成田慎之介 北澤武 松尾直博 増田謙太郎 原健二 山内雅弘 倉持清美 福井里江 加瀬進	松川誠一 湯浅佳子 阿戸昌彦 日高智彦 青木久 小嶋茂稔 井ノ口哲也 宿谷晃弘 羽方康恵 苔米地伸 高良麻子 橋村修 小林春夫	西田尚央 Voegeli Wolfgang 國仙久雄 真山茂樹 中田正隆 山田朗(R1.10) 望月高昭 (R1.10) 服部哲則 南葉宗弘 中野幸夫	吉川文 清水和高 欽矢悦朗 石井健 鈴木直樹 鈴木琴子 神戸周 相田隆司 小森伸一	
27 障がい学生支援室	講師 1名	◎ 澤隆史 大森美湖 林安紀子 藤野博	菅美弥		奥村基生	学務課長 学生課長
28 大学院第一種奨学金返還免除候補者 選考協議会	学長 ◎ 川手圭一	濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄 新田英雄	太田朋宏	学生課長
29 利益相反会議	◎ 松田恵示	濱田豊彦	大井田義彰	原田和雄	太田朋宏	事務局長 財務・研究推進部長

V - (5) 令和元年度収入・支出予算額

(単位:千円)

区 分	令和元年度 当初予算	令和元年度 補正予算	令和2年度 当初予算	当初予算 増減	備 考
	(A)	(B)	(C)	(D=C-A)	
(収入の部)					
自己収入	3,698,143	3,693,691	3,652,742	△ 45,401	
学生納付金	3,490,363	3,473,570	3,456,205	△ 34,158	
授業料収入	3,056,709	3,039,916	3,020,694	△ 36,015	
授業料収入減(休学・除籍)	△ 89,490	△ 89,490	△ 89,490	0	
入学金収入	412,675	412,675	414,319	1,644	
検定料収入	110,469	110,469	110,682	213	
その他の収入	207,780	220,121	196,537	△ 11,243	
職員宿舍貸付料収入	58,425	58,425	56,014	△ 2,411	
寄宿料収入	15,275	15,275	16,570	1,295	
学校財産貸付料収入	20,364	20,364	23,565	3,201	
刊行物等受払代	1,349	1,349	1,307	△ 42	
講習料収入	57,519	57,519	49,594	△ 7,925	
不用物品売払代	697	697	633	△ 64	
大学入試センター試験実施経費収入	12,535	12,535	12,378	△ 157	
科学研究費補助金等間接経費収入	25,500	25,500	25,500	0	
受託研究・共同研究間接経費収入	1,000	1,000	1,000	0	
雑入	15,116	27,457	9,976	△ 5,140	
運営費交付金	8,517,955	8,547,759	8,057,721	△ 460,234	
収入計	12,216,098	12,241,450	11,710,463	△ 505,635	

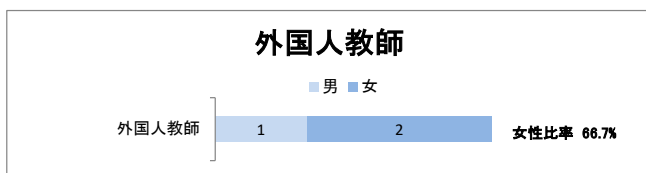
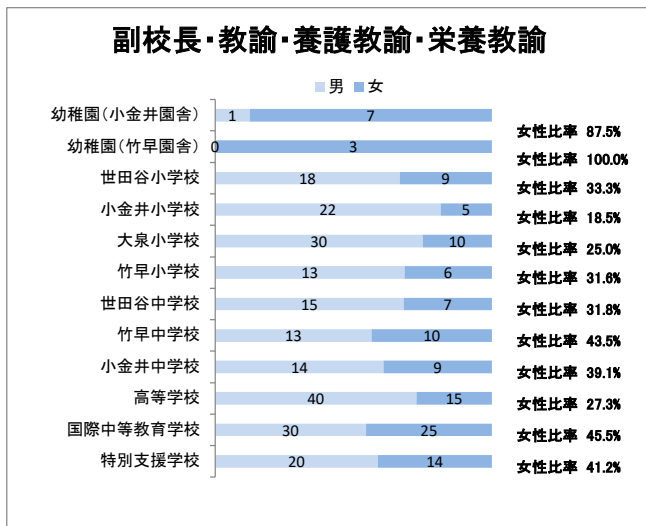
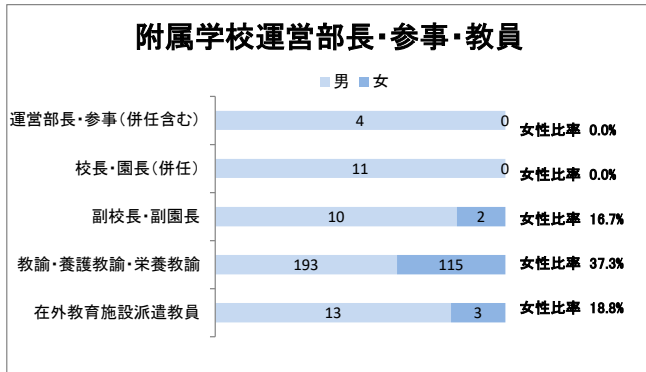
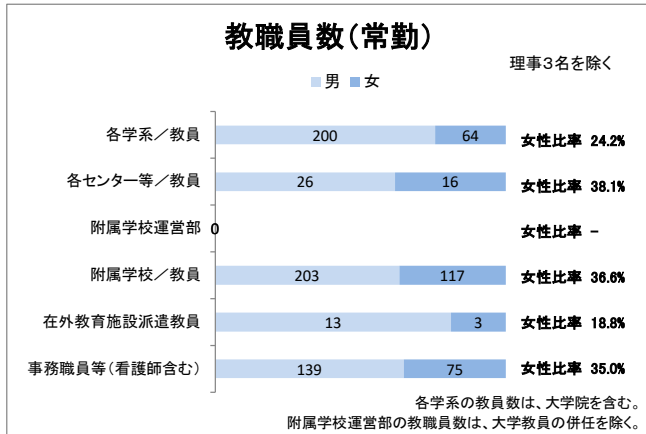
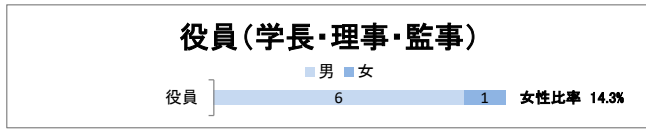
(単位:千円)

区 分	令和元年度 当初予算	令和元年度 補正予算	令和2年度 当初予算	当初予算 増減	備 考
	(A)	(B)	(C)	(D=C-A)	
(支出の部)					
大学分	8,565,468	8,580,371	7,974,625	△ 590,843	
人件費	6,705,144	6,705,144	6,393,566	△ 311,578	
役員人件費	101,612	101,612	101,179	△ 433	
教員人件費	3,416,962	3,416,962	3,304,962	△ 112,000	
職員人件費	1,634,439	1,634,439	1,624,345	△ 10,094	
退職手当	831,695	831,695	609,346	△ 222,349	
外国人教師給与	26,996	26,996	31,861	4,865	
外国人研究員給与	4,611	4,611	4,614	3	
非常勤講師給与	371,257	371,257	410,571	39,314	
非常勤職員給与	317,572	317,572	306,688	△ 10,884	
物件費	1,860,324	1,875,227	1,581,059	△ 279,265	
教育経費	820,208	829,150	633,896	△ 186,312	
うち授業料免除実施経費	(274,350)	(275,957)	(157,342)		
研究経費	165,437	170,574	169,252	3,815	
教育研究支援経費	176,633	176,633	184,736	8,103	
一般管理費	698,046	698,870	593,175	△ 104,871	
附属学校分	3,326,569	3,350,844	3,394,936	68,367	
教員人件費	2,935,721	2,935,721	2,972,214	36,493	
非常勤講師給与	85,405	85,405	90,805	5,400	
教育経費	305,443	329,718	331,917	26,474	
連合大学院分					
教育経費	92,061	87,061	92,061	0	
トップマネジメント経費	132,000	132,000	136,000	4,000	
教育研究設備整備費	30,000	31,174	42,841	12,841	
教育研究施設維持改善経費	20,000	20,000	20,000	0	
調整費	50,000	20,000	50,000	0	
支出計	12,216,098	12,221,450	11,710,463	△ 505,635	

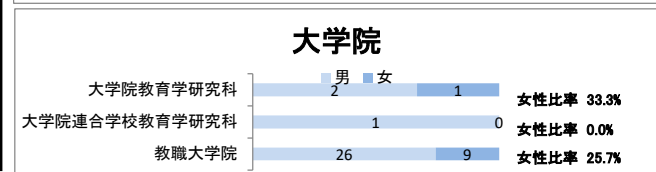
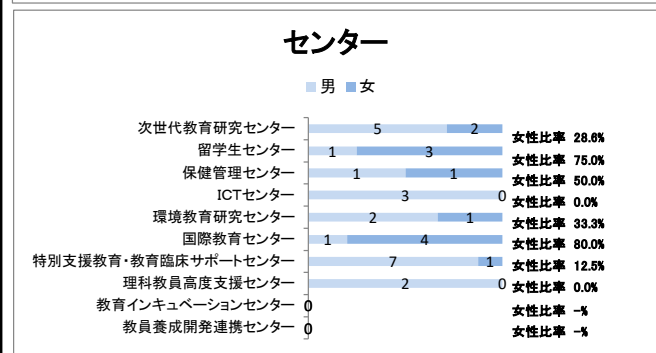
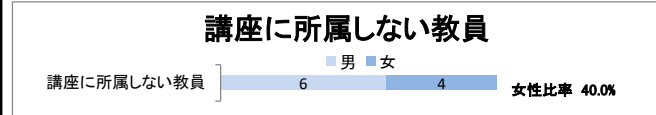
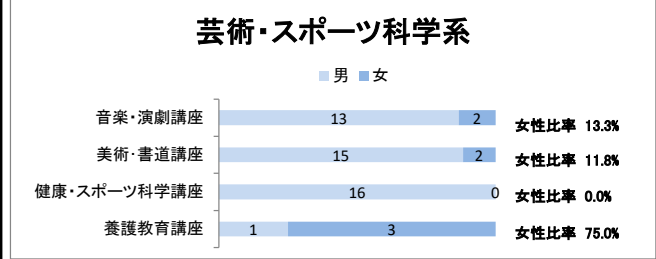
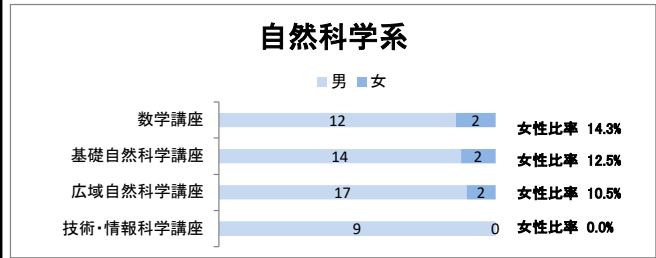
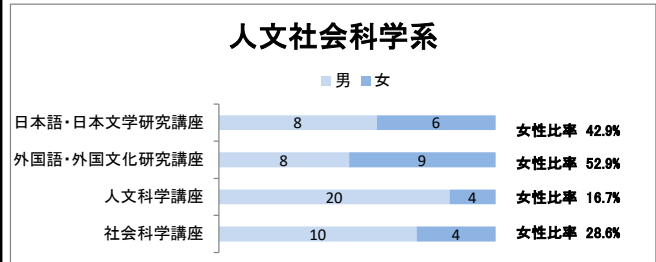
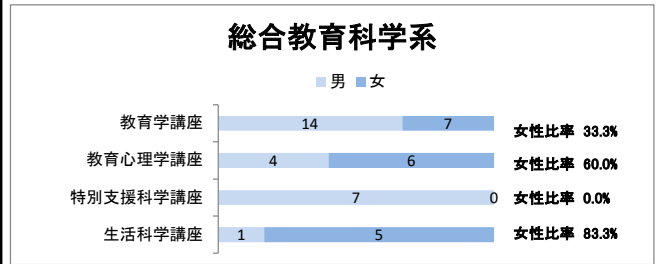
本収支予算額は、運営費交付金対象事業を対象としており、受託事業等対象事業、施設整備・設備整備費対象事業等は含まない。

V - (6) 男女共同参画の現状

① 役員・教職員の女性比率



② 講座・センター別女性比率



令和元年10月1日現在
大学教員には、役員を含めない。
教員数は専任教員のみで、併任者及び兼務者を除く。

③講座・センター別女性比率

<教育学部>(理事3名除く)

学系	講座	教授				准教授				講師・助教				計			
		計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)
総合教育科学系	教育学講座	7	5	2	28.6	11	7	4	36.4	3	2	1	33.3	21	14	7	33.3
	教育心理学講座	5	3	2	40.0	5	1	4	80.0	0	0	0	-	10	4	6	60.0
	特別支援科学講座	6	6	0	0.0	1	1	0	0.0	0	0	0	-	7	7	0	0.0
	生活科学講座	1	0	1	100.0	5	1	4	80.0	0	0	0	-	6	1	5	83.3
	計	19	14	5	26.3	22	10	12	54.5	3	2	1	33.3	44	26	18	40.9
人文社会科学系	日本語・日本文学研究講座	7	5	2	28.6	6	3	3	50.0	1	0	1	100.0	14	8	6	42.9
	外国語・外国文化研究講座	8	6	2	25.0	5	1	4	80.0	4	1	3	75.0	17	8	9	52.9
	人文科学講座	14	11	3	21.4	9	8	1	11.1	1	1	0	0.0	24	20	4	16.7
	社会科学講座	8	5	3	37.5	4	4	0	0.0	2	1	1	50.0	14	10	4	28.6
	計	37	27	10	27.0	24	16	8	33.3	8	3	5	62.5	69	46	23	33.3
自然科学系	数学講座	5	4	1	20.0	6	5	1	16.7	3	3	0	0.0	14	12	2	14.3
	基礎自然科学講座	5	5	0	0.0	10	9	1	10.0	1	0	1	100.0	16	14	2	12.5
	広域自然科学講座	9	9	0	0.0	7	5	2	28.6	3	3	0	0.0	19	17	2	10.5
	技術・情報科学講座	4	4	0	0.0	4	4	0	0.0	1	1	0	0.0	9	9	0	0.0
	計	23	22	1	4.3	27	23	4	14.8	8	7	1	12.5	58	52	6	10.3
芸術・スポーツ系	音楽・演劇講座	8	7	1	12.5	7	6	1	14.3	0	0	0	-	15	13	2	13.3
	美術・書道講座	13	11	2	15.4	4	4	0	0.0	0	0	0	-	17	15	2	11.8
	健康・スポーツ科学講座	6	6	0	0.0	9	9	0	0.0	1	1	0	0.0	16	16	0	0.0
	養護教育講座	2	1	1	50.0	0	0	0	-	2	0	2	100.0	4	1	3	75.0
	計	29	25	4	13.8	20	19	1	5.0	3	1	2	66.7	52	45	7	13.5
講座に所属しない教員		5	5	0	0.0	1	0	1	100.0	4	1	3	75.0	10	6	4	40.0
教育学部 計		113	93	20	17.7	94	68	26	27.7	26	14	12	46.2	233	175	58	24.9
センター	次世代教育研究センター	4	3	1	25.0	3	2	1	33.3	0	0	0	-	7	5	2	28.6
	留学生センター	2	1	1	50.0	2	0	2	100.0	0	0	0	-	4	1	3	75.0
	保健管理センター	1	1	0	0.0	1	0	1	100.0	0	0	0	-	2	1	1	50.0
	ICTセンター	2	2	0	0.0	1	1	0	0.0	0	0	0	-	3	3	0	0.0
	環境教育研究センター	2	2	0	0.0	1	0	1	100.0	0	0	0	-	3	2	1	33.3
	国際教育センター	2	1	1	50.0	3	0	3	100.0	0	0	0	-	5	1	4	80.0
	特別支援教育・教育臨床サポートセンター	8	7	1	12.5	0	0	0	-	0	0	0	-	8	7	1	12.5
	理科教員高度支援センター	0	0	0	-	2	2	0	0.0	0	0	0	-	2	2	0	0.0
	教育インキュベーションセンター	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
	教員養成開発連携センター	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
	計	21	17	4	19.0	13	5	8	61.5	0	0	0	-	34	22	12	35.3
大学院	大学院教育学研究科	1	1	0	0.0	2	1	1	50.0	0	0	0	-	3	2	1	33.3
	大学院連合学校教育学研究科	1	1	0	0.0	0	0	0	-	0	0	0	-	1	1	0	0.0
	教職大学院	21	16	5	23.8	11	8	3	27.3	3	2	1	33.3	35	26	9	25.7
	計	23	18	5	21.7	13	9	4	30.8	3	2	1	33.3	39	29	10	25.6
センター・大学院 計		44	35	9	20.5	26	14	12	46.2	3	2	1	33.3	73	51	22	30.1
総 計		157	128	29	18.5	120	82	38	31.7	29	16	13	44.8	306	226	80	26.1

④過去5年間の女性比率の状況

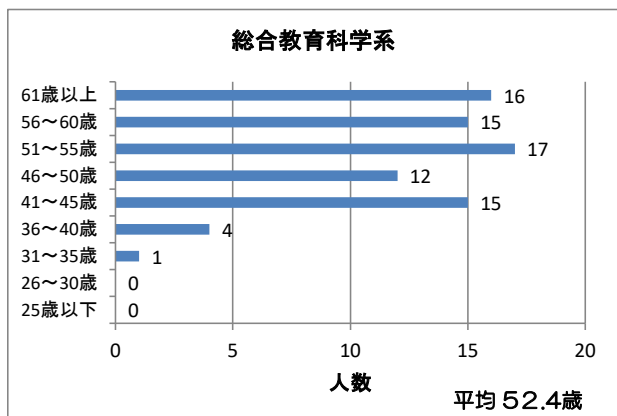
	平成27年10月1日現在				平成28年10月1日現在				平成29年10月1日現在				平成30年10月1日現在				令和元年10月1日現在			
	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)
大学教員(常勤) (理事除く)	330	249	81	24.5	330	246	84	25.5	329	245	84	25.5	316	237	79	25.0	306	226	80	26.1
事務職員等(常勤)	219	154	65	29.7	218	148	70	32.1	220	146	74	33.6	218	146	72	33.0	214	139	75	35.0
附属学校運営部・ 附属学校教員(常勤)	323	202	121	37.5	322	205	117	36.3	322	207	115	35.7	325	207	118	36.3	320	203	117	36.6
計	872	605	267	30.6	870	599	271	31.1	871	598	273	31.3	859	590	269	31.3	840	568	272	32.4

附属学校運営部・附属学校教員(常勤)には、在外教育施設派遣教員を除く。

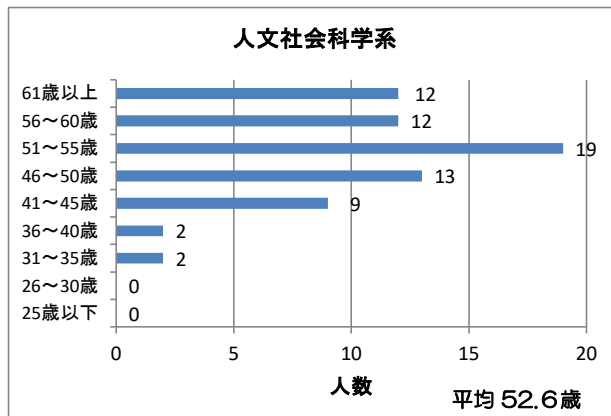
附属学校運営部には、大学教員の併任を除く。

V - (7) 教職員の年齢構成

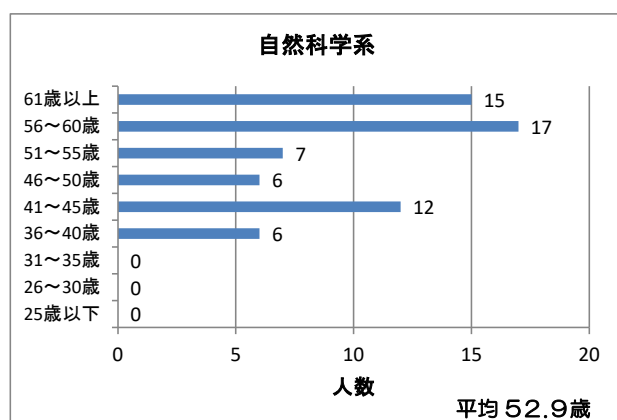
教職員人数は令和元年10月1日現在
年齢は令和2年3月31日現在



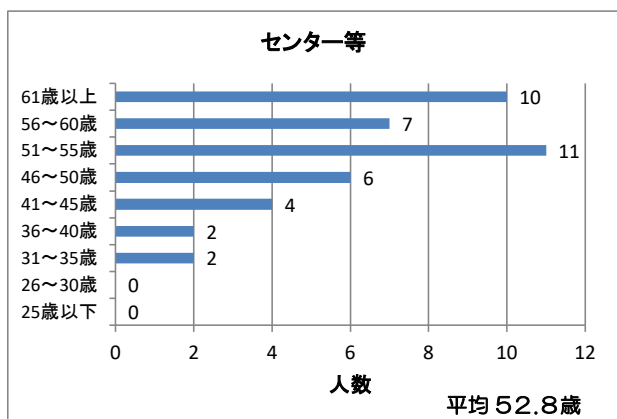
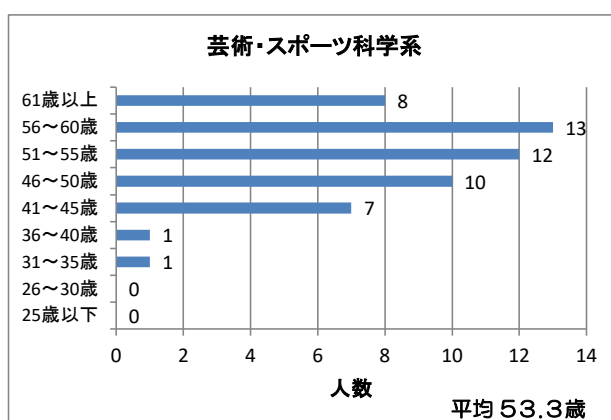
大学院連合学校教育学研究科及び教職大学院を含む。



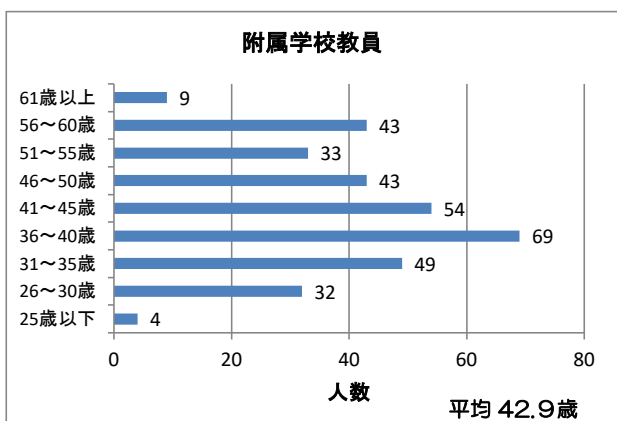
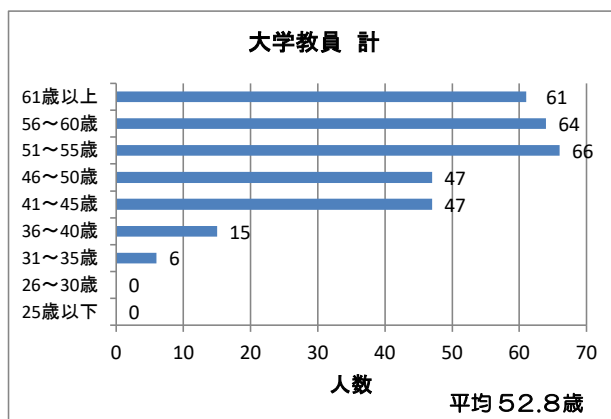
外国人教師を含む。



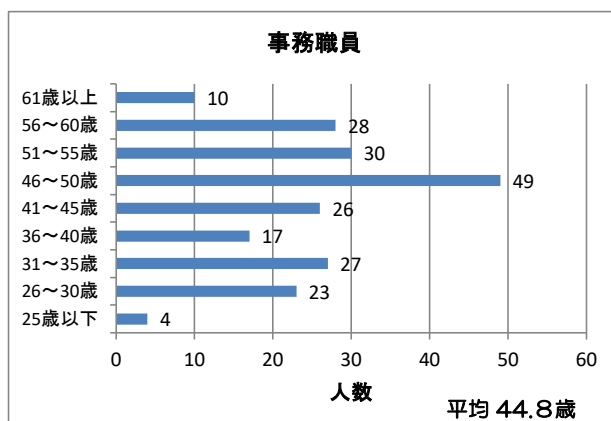
理科教員高度支援センター及び大学院教育学研究科を含む。



教育学部及び次世代教育研究推進機構、パッケージ型支援プロジェクト、障がい学生支援室を含む。



運営参事を含む。ただし、大学教員の併任を除く。在外教育施設派遣教員及び再雇用職員を含む。

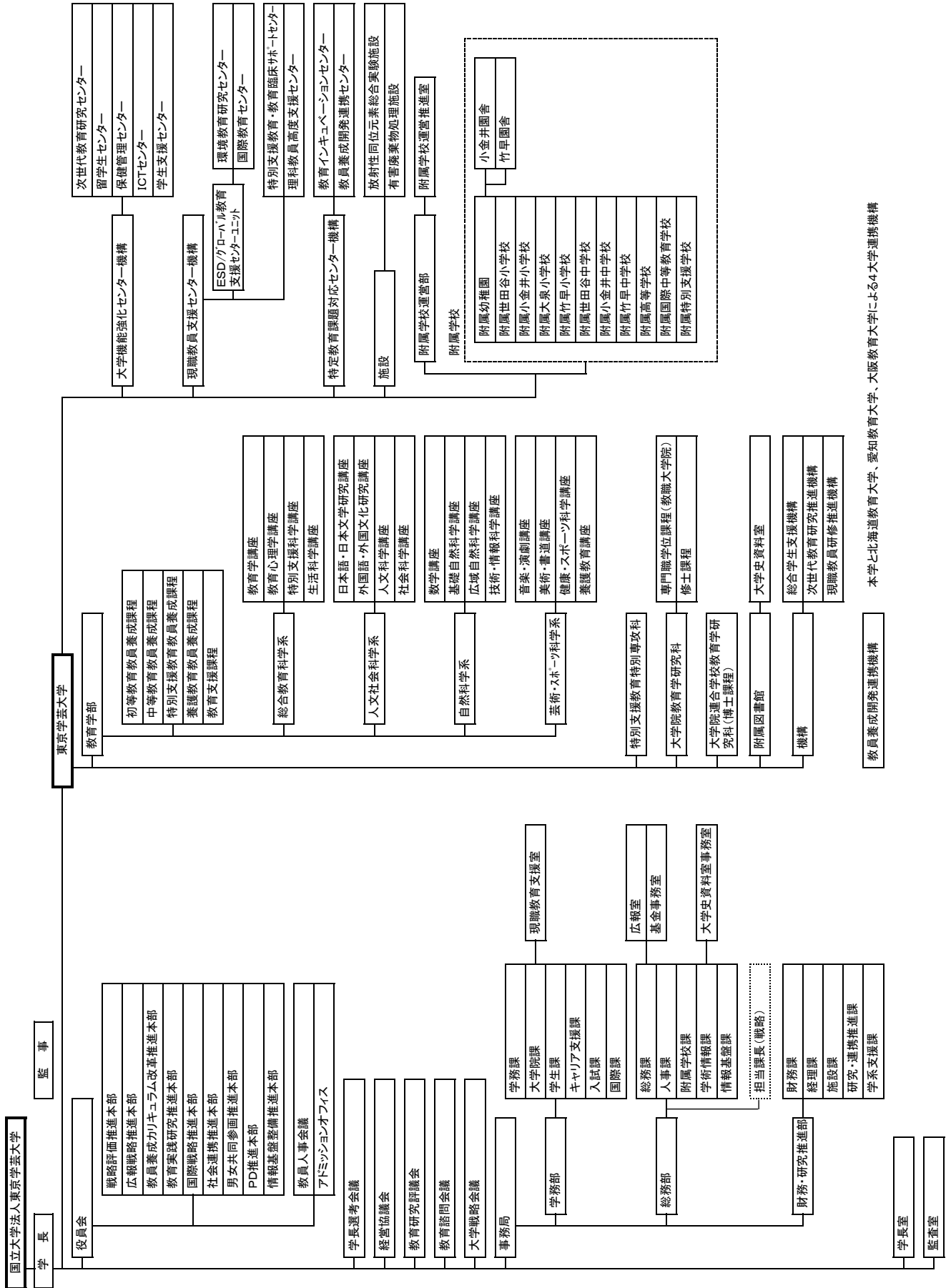


再雇用職員を含む。

付：關係資料

(1) 令和2年度機構図

機構図 (令和2年4月1日現在)



本学と北海道教育大学、愛知教育大学、大阪教育大学による4大学連携機構

(2) 役職員

令和2年5月1日現在

役員等

学長	國分充
理事・副学長(全体統括・総務担当)	中島裕昭
理事・副学長(教育・学生担当)	佐々木幸寿
理事・副学長(研究・社会連携担当)	松田恵示
理事(大学経営・産学協働担当)	山沢清人
理事(連携・特命事項担当)	竹原和泉
監事	菊井高昭
監事	古川和
副学長(国際・情報担当)	川手圭一
副学長(附属学校・現職研修担当)	狩野賢司
副学長(学部教育・学生支援担当)	濱田豊彦
副学長(研究・特命事項担当)	小嶋茂稔
副学長(財務・労務担当)・事務局長	小熊浩

学長特別補佐(教職大学院・現職教員研修担当)

教職大学院	伊東哲
-------	-----

学長補佐

総合教育科学系	奥住秀之
総合教育科学系	澤隆史
総合教育科学系	倉持伸江
総合教育科学系	萬羽郁子
人文社会科学系	木村守
人文社会科学系	菅美弥
自然科学系	坂口謙一
自然科学系	中野幸夫
芸術・スポーツ科学系	鈴木聡一
芸術・スポーツ科学系	小森伸一
芸術・スポーツ科学系	吉川文
教職大学院	齋藤嘉則
教職大学院	原健二
教職大学院	矢嶋昭雄
教職大学院	藤野智子
次世代教育研究センター	岩田康之

学系等

総合教育科学系長	君塚仁彦
人文社会科学系長	加賀美雅弘
自然科学系長	國仙久雄
芸術・スポーツ科学系長	及川研一
附属図書館長	川手圭一
大学院連合学校教育学研究所長	新田英雄

センター

次世代教育研究センター長	南道子
留学生センター長	岩田康之
保健管理センター所長	中島裕昭
ICTセンター長	木村守
学生支援センター長	濱田豊彦
環境教育研究センター長	椿真智子
国際教育センター長	竹鼻ゆかり
特別支援教育・教育臨床サポートセンター長	繁田進
理科教員高度支援センター長	松浦執
教育インキュベーションセンター長	松田恵示
教員養成開発連携センター長	松田恵示

学系選出評議員

総合教育科学系	藤野博
総合教育科学系	矢嶋昭雄
人文社会科学系	北澤尚
人文社会科学系	久瀬良子
自然科学系	竹内伸子
自然科学系	宮庸造
芸術・スポーツ科学系	石橋史生
芸術・スポーツ科学系	宮里明人

附属学校運営部

附属学校運営部長	金子一彦
附属学校運営参事	古家真
附属学校運営参事	林正大
附属学校運営参事	関田義博

附属学校

附属幼稚園長・小金井園舎長	朝野浩行
附属幼稚園竹早園舎長	鎌田正裕
附属幼稚園副園長(小金井園舎)	山田有希子
附属幼稚園副園長(竹早園舎)	彦坂秀樹
附属世田谷小学校長	大井田義彰
附属世田谷小学校副校長	越後佳宏
附属小金井小学校長	鈴木明哲
附属小金井小学校副校長	塚本博則
附属大泉小学校長	杉森伸吉
附属大泉小学校副校長	細井宏一
附属竹早小学校長	鎌田正裕
附属竹早小学校副校長	彦坂秀樹
附属世田谷中学校長	福本みちよ
附属世田谷中学校副校長	鈴木雄治
附属小金井中学校長	坂口謙一
附属小金井中学校副校長	村上潤
附属竹早中学校長	藤本光一郎
附属竹早中学校副校長	森野子
附属高等学校長	大野弘
附属高等学校副校長	後藤貴裕
附属国際中等教育学校長	荻野勉
附属国際中等教育学校副校長	雨宮真一
附属国際中等教育学校副校長	坂井英夫
附属特別支援学校長	内田賢
附属特別支援学校副校長	小金井俊夫

事務局

事務局長	小熊浩
学務部長	金子浩
学務課長	小室史郎
大学院課長	清水研司
学生課長	村山敏規
キャリア支援課長	佐藤博美
入試課長	田中修
国際課長	江幡忍
総務部長	清水宣彦
総務課長	渡邊賢晃
人事課長	根岸正征
附属学校課長	金子賢治
学術情報課長	高橋菜奈子
情報基盤課長	高橋菜奈子
戦略担当課長	佐藤節夫
財務・研究推進部長	高見沢志郎
財務課長	東慎滋
経理課長	境和重
施設課長	吉田哲弥
研究・連携推進課長	手塚穰治
学系支援課長	小峯康夫

学長室

学長室長	中澤重夫
------	------

監査室

監査室長	太田吉彦
------	------

(3) 第3期中期目標・中期計画工程及び令和2年度計画

(前文)大学の基本的な目標
 東京学芸大学は、教育を通しての社会変革を主導する大学として、知識基盤社会の進展・グローバル化の展開・教育的課題の多様化・地域社会の疲弊という現代社会の特徴に対して、協働して課題を解決する力・多様性を尊重する力・自己を振り返り、自己を表現する力・新しい社会を創造する力という四つの力を持った次世代の子どもを育成するための人材養成を使命とする。
 本学はこれまでも初等・中等教育における様々な教育実践や教科教育に関わる有為の教育者を養成してきた教育の総合大学であるが、第3期中期目標期間が日本の社会及び教育の大きな転換点であると認識し、次世代の子どもを育成を目指す次世代育成教育において、次の三つの役割を担い、日本の教育を主導する全国的拠点大学となるとともに、広く海外に日本の教育成果を発信する大学となることを目標とする。
 (1) 教育課題の多様化に対応する力や、知識基盤社会における継続的な教育環境の変化に対応する力を持つ新しい教員を養成するとともに、諸課題に直面している教育現場の教員に対して、次世代の子どもを育成する上で必要な能力を付与する研修を実施する。そのために第3期中期目標期間において、教育学部と大学院において必要なカリキュラム及び教育組織の整備を行うとともに、現職教員研修のための組織を立ち上げる。
 (2) 現在進行しつつある日本社会の変化と教育改革に伴う教育課題の多様化・複雑化には、学校教員と教育支援者が協働して対応に当たる必要があるという認識の下に、教育支援の専門的技術を持つ人材及びコーディネーターを養成するとともに、教育支援者と協働できる教員を養成する。併せて学校と教育支援者を結ぶコーディネート体制の構築に寄与し、地方自治体、教育委員会、NPO、民間企業等と連携した教育支援事業を展開する。
 (3) 次世代育成教育のための研究を集中的に展開するとともに、その研究成果を次世代育成教育モデルとして全国及び世界に発信する。そのために本学(T)が、北海道教育大学(H)・愛知教育大学(A)・大阪教育大学(O)と連携して進めるHATOプロジェクト及び日本教育大学協会を基盤とした全国的ネットワークを構築するとともに、OECD及び教員養成国際コンソーシアムと連携して、国際的な発信の基盤を作る。

◆ 中期目標期間及び教育研究上の基本組織
 1 中期目標の期間
 平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。
 2 教育研究上の基本組織
 本学は、この中期目標を達成するため、別表に記載する学部及び研究科を置く。

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標 (1)教育内容及び教育の成果等に関する目標 (学士課程)	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 (学士課程)				
① 第2期中期目標期間においては、教育組織を再編して教育支援課程を設置するとともに、カリキュラムの改訂を行って、現代的な教育課題に対応した教員養成カリキュラムを整備した。さらに、大学での学修に必要な知識・技術を学ぶ「入門セミナー」の開設を始め、学生の自主的で計画的な学習を促すための制度等を導入した。また、アクティブ・ラーニング活性化のための「ラーニングコミュニティ」の設置や、小学校英語に携わる専任教員の増員、総合的道德教育プログラム推進プロジェクトの立上げ等、現代の教育課題に対応するための基盤整備を行うとともに、環境学習活動やICT教育活動に率先して取り組んできた。 第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を担い、多様な教育課題に対応する力を持つ人材の養成をさらに強化するために、学校を始めとする教育環境の改革を担う教員・教育支援者の養成に向けての教育体制をさらに整備し、学士課程カリキュラムの充実を図る。	1 ①-1 次世代育成教育を担う力量あふれる教員・教育支援者の養成を強化するため、平成27年度に改訂した学士課程カリキュラムの検証を行いながら、高大接続改革実行プランに基づく大学入試改革を見据えて、学士課程カリキュラムの検討を行う。そして今後の日本の教育改革に必要な学校教育と教育支援の知識と技能を兼ね備えた人材を養成するためのカリキュラム構造を構築する。 2 ①-2 アクティブ・ラーニングを取り入れて、教科横断型の学習や体験型の学習を指導する力を持った教員を養成するために、大学においてもアクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目を全学的に開設するとともに、その具体的な指導のための実践的なプログラムと指導体制を整備する。 3 ①-3 小学校における英語の学習指導を円滑に行うことができる指導力を強化するため、小学校教員免許を取得する学生の英語でのコミュニケーション力を増すことを目的とした授業内容を充実させる。 4 ①-4 豊かな心を持った次世代の子どもを育成するための基礎的人間力を備えた教員を養成するため、道德教育の専任教員を配置し、全学的な教育体制を整備する。	①-1-1 計画実施済み ①-2-1 計画実施済み ①-3-1 計画実施済み ①-4-1 計画実施済み			
② 教育課題の多様化・複雑化に対応するために必要な、様々な人と協働してチームで実践的な問題解決に当たる「チームアプローチ力」を養うための教育体制を構築する。	5 ② チームアプローチを取り入れた授業科目を全学的に開設し、その具体的な指導のための実践的なプログラムを整備する。また、多様な場で体験的に学ぶ機会を提供するために、ボランティア活動やインターンシップ等の受入先との連携を強化するとともに、学生の参加を促すためのガイドラインを充実させる。	②-1 計画実施済み			

関係資料

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課	
<p>③ 第2期中期目標期間においては、教員就職率を高めるために、学生キャリア支援室を中心として、教員就職率向上への各種の取組を行い、学校教育系卒業生の60%以上(進学者を除く。)の教員就職率を達成してきている。また、平成26年度には、教育に対する社会の要請を受けとめ、教員養成の質の向上を図るために教育諮問会議を設置するとともに、教員就職率をさらに高めるために、教員就職対策検討プロジェクト等を設置した。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらの実績を踏まえ、より緻密な教員就職対策を実施し、教育委員会とも連携しながら次世代育成教育を担う教員を積極的に社会に送り出す。併せて平成27年度に設置した教育支援課程で養成する教育支援者を、地方自治体、NPO、民間企業等の教育支援に関わる職に送り出す。これらの目的のために、入学から在学中、さらには卒業後のフォローも含めて一貫したキャリア支援を充実させる。</p>	6	<p>③-1 第3期中期目標期間において、大学院進学者を除く学校教育系卒業生の教員就職率70%以上を確保する。そのために平成26年度に設置した教育諮問会議及び教員就職対策検討プロジェクト等の検討結果に基づき、教育に関心をもち、教員志向の強い者を入学させるための入試や広報の改革を行うとともに、教員採用試験の受験者を増やし、さらには、東京都が主催し、学生段階で教員を目指す人材の指導を行う「東京教師養成塾」等の入塾者を増やすことを検討する。加えて、教育現場での経験を有する者を講師とするキャリアガイダンスの機会を増やし、それをカリキュラムに必修科目として位置付けるなどして、学生の教員志向を維持し、教員採用試験の受験を志す者を増やすための履修指導体制を強化するとともに、継続的に卒業生の動向を調査し、学士課程の改善につなげる。</p>	③-1-1 計画実施済み			
	7	<p>③-2 第3期中期目標期間において、教育支援系では大学院進学者を除く卒業生の50%以上が、地方自治体、NPO、民間企業等の教育支援及び学校と教育支援者とのコーディネートに関わる職に従事することを旨とする。そのために平成27年度に設置された教育支援系の各教育組織において、毎年、教育現場において教育支援に関わる課題を調査するとともに、キャリアガイダンスの機会を多く学生に提供する。さらに、学生が多彩な教育支援現場を体験できるように、組織や仕組みを強化するとともに、継続的に卒業生の動向を調査し、学士課程の改善につなげる。</p>	③-2-1 計画実施済み			
(大学院修士課程)	(大学院修士課程)					
<p>① 第2期中期目標期間においては、教員養成カリキュラム改革推進本部において、継続的に修士課程のカリキュラムを検討・改善するとともに、学士課程と修士課程を結ぶ新教員養成コースでは、現代的教育課題に対応する高度な実践力を備えた学校教員を養成してきた。また、指導教員が教員志望の学生を教員就職に向けて適切に指導し、恒常的に進学者を除く50%以上の修士課程修了生が、教員に就職する体制を築いてきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、現代的教育課題に対する高度な専門的知識を有し、次世代育成教育を積極的に担うことができ、増加する教育課題に教育支援者と協働して対応する力を持った教員を養成する。また、新たな教育課題に対して学校を支援するコーディネート力を身につけた人材を養成する。このために修士課程の組織を再編するとともに、現代的教育課題への対応を重視した新カリキュラムを整備する。</p>	8	<p>①-1 次世代育成教育を担い、多様化・複雑化する教育課題に対応する高度な力を持った教員・教育支援者を養成するために、平成31年度までに修士課程の組織を再編するとともに、新カリキュラムを整備する。</p>	①-1-1 計画実施済み			
	9	<p>①-2 次世代の子どもを育成する高度な専門性とともに、新たな教育課題に対応するための高度な協働力とコーディネート力を持った教員・教育支援者を養成するために、新カリキュラムを構築して「東京学芸大学専修免許スタンダード」を設定する。また、専門職学位課程とも連携して、新カリキュラムの下で修士課程の教育者養成力を高める。このため平成28年度より新カリキュラムの検討を開始し、平成29年度から試行をする。そしてこれを踏まえて、平成31年度までに組織再編と合わせて新カリキュラムを実施する。</p>	①-2-1 計画実施済み			
	10	<p>①-3 次世代育成教育を担う新しい能力を持った教員の創出と増加を積極的に推進するために、修士課程の学生で小学校教員免許取得を希望する者を支援する仕組みを設けるとともに、国際バカロレア教員の養成のためのプログラムを設置する。併せて現職教員及び現職の教育支援者を修士課程に積極的に受け入れ、そのキャリアアップを図る仕組みを導入する。このための検討を平成28年度から始めるとともに、国際バカロレア機構に国際バカロレア教員養成のための認可申請を行う。これらのプログラムは、平成31年度までに組織再編及び新カリキュラムの実施と合わせて開始する。</p>	①-3-1 専門職学位課程において、引き続き小学校教員免許の取得を支援する仕組みの導入について準備を進める。	教育・学生担当	カリ改革推進本部、教育学研究科運営委員会	大学院課
	11	<p>①-4 次世代育成教育を担う新しい能力を持った教員を積極的に学校現場に送り出すために、学校教員養成系の専攻において、進学者を除く修了生の教員就職率を60%以上とする。併せて、組織再編後の教育支援者を養成する専攻においては、進学者を除く修了生の50%以上が教育支援に関わる職に就くことを目指す。また、継続的に修了生の動向を調査し、修士課程の改善につなげる。</p>	①-4-1 組織再編後の教育支援者を養成する専攻において、進学者を除く修了生の教育支援職への就職率50%以上確保を目指すための方策を検討し、可能なものから実施する。	教育・学生担当	学生キャリア支援室(修士課程各専攻)	キャリア支援課

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課	
(専門職学位課程)	(専門職学位課程)					
<p>① 第2期中期目標期間においては、専門職学位課程は教育現場との緊密な連携の下、学卒院生及び現職院生に対してアクティブ・ラーニングや、現代的教育課題に協働して対応することを学ばせるなど、次世代育成教育を先取りしながら、スクールリーダーを目指す教員の養成に高い成果をあげてきており、毎年教員就職率90%以上を確保してきた。さらに平成27年度には、定員を10名増やすとともに、「カリキュラムデザイン・授業研究コース」と「学校組織マネジメントコース」を設置し、院生に対してより高度な能力を身に付けさせるための組織整備を行った。併せて、教員定員も増やし、理論と実践の往還をこれまで以上に実質化する方策を実施してきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これを踏まえて、平成27年度に設置した新コースの機能を検証しつつ、教育現場との緊密な連携を継続しながら、次世代育成教育を担う先導的教員の養成をさらに充実させるとともに、より広範に専門職学位課程の教育を受ける者を増やす仕組みを導入する。</p>	12	①-1 平成27年度に設置したコースを継続的に検証・改善し、教育現場での豊富な活動を体験することによって、教育課題の多様化・複雑化に対応する実践的な力を持つとともに、知識基盤社会において継続的に学び続ける力を持った先導的教員を養成し、現職教員・進学者を除く修了生の教員就職率90%以上を確保する。また、継続的に修了生の動向を調査し、専門職学位課程の改善につなげる。	①-1-1 計画実施済み			
	13	①-2 平成31年度までに実施する修士課程の再編に合わせて、修士課程において現代的教育課題に対する高度な専門的知識を学んだ修了生が、1年間専門職学位課程で学ぶプログラムを設置し、教育現場との関わりを学ばせる。併せて学内及び学外に対する広報活動を検証しながら改善し、広く専門職学位課程を志望する者を募集する。	①-2-1 計画実施済み			
(大学院博士課程)	(大学院博士課程)					
<p>① 第2期中期目標期間においては、指導体制や方法を改善し、入学者の学位取得率の平均が60%、大学教員への就職率が60%と、ともに高い水準を維持し、連合大学のミッションに十分応えてきた。また、平成27年度には定員を10名増加させた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、引き続き、教員養成大学・学部と専門職学位課程を担当できる大学教員や教育関連専門職員を養成するため、現職教員及び修士課程・専門職学位課程を修了した入学者に対して、広域科学としての教科教育学に関する高いレベルの研究能力を育成する。</p>	14	①-1 教員養成系の大学や短期大学等において活躍できる、実践的教育力や優れた研究能力を持った人材を養成することにより、学位取得率平均60%以上を維持するとともに、大学教員、研究職及び教育関連専門職への就職率60%以上を維持する。	①-1-1 計画実施済み			
	15	①-2 教職経験のある学生の学位取得を促進し、第2期中期目標期間を上回る学位取得者数を確保する。	①-2-1 計画実施済み			
(2)教育の実施体制等に関する目標	(2)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置					
<p>① 第2期中期目標期間においては、教員養成カリキュラム改革推進本部を中心にして、教員養成カリキュラムの継続的な改革に取り組んできており、HATOプロジェクトにおいても様々な調査を行ってきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを踏まえ、学長のリーダーシップの下で積極的に次世代育成教育を担う人材を養成し、社会的ニーズに柔軟かつ迅速に対応できる大学教育を常に提供していくことを目標として、教学体制の改善を行い、最適な教学支援を行っていく体制を確立する。</p>	16	① HATOプロジェクトIR部門の取組等を踏まえ、学生の入学前の意向から、在学中、さらには卒業・修了後の諸データを収集・分析して、学生のニーズと動向を的確に把握する。そして、そのデータと社会のニーズの双方を見据えた効率的なカリキュラム運営を行う教学マネジメント体制を強化する。	①-1 計画実施済み			
	17	②-1 FD・SD推進本部を平成30年度までに改編し、FDの機能とSDの機能を統合したPD(Professional Development)の体制を整備する。そして、教育体制の改善に向けた教員と事務職員の職能向上及び協働した活動に恒常的に取り組む。	②-1-1 計画実施済み			
<p>② 第2期中期目標期間においては、FD・SD推進本部において、教員のFDのための様々な活動を行った。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これを踏まえて、教員の専門的資質をさらに高める取組を行う。</p>	18	②-2 教育実践現場での指導経験を有する教員を、学校教育系(教員養成系)教員の20%以上確保し、学生に教育実践現場での指導経験を伝えることができる体制を作る。	②-2-1 計画実施済み			
	19	③ 教育委員会等と連携して、現職教員の研修に関するニーズを調査・分析するとともに、第2期中期目標期間中に行った各種の現職教員研修の取組を検証し、これらに基づき、平成31年度までに現職教員研修のための組織を立ち上げる。	③-1 計画実施済み			
<p>③ 第2期中期目標期間においては、教育実践研究支援センター、理科教員高度支援センター等において、各種の現職教員研修を行ってきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを踏まえて、学び続ける教員を継続的に支援し、次世代育成教育の普及・発展を担う人材開発を強化するため、現職教員の研修を支援する体制を全学的に構築し、教員の多様なニーズと社会的なニーズの双方に応えるためのプログラムを開発する。</p>						

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
(3) 学生への支援に関する目標	(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、「教職に就く学生向け教職特待生」、「学芸むさしの奨学金」による本学独自の経済支援制度及び東日本大震災の被災学生への支援等によって、経済的困難を抱える学生を支援してきた。 第3期中期目標期間においては、これまで積み上げてきた学生の経済支援体制を充実させ、学生の学修意欲の向上に努める。	20 ① 教職特待生制度及び海外派遣学生への支援金などの学生支援を維持しつつ、支援件数を増加させ、より一層学生への経済的支援を充実させる。	①-1 計画実施済み			
② 第2期中期目標期間においては、学生支援センターを整備し、そこに学生相談室、障がい学生支援室、学生キャリア支援室、学芸カフェテリアを置くとともに、それぞれに専門スタッフを配置し、保健管理センター等と連携しながら学生の支援を行ってきた。また教育実習に向けて、配慮を要する学生に対しての「教育実習メンタルヘルス支援チーム」と「教育実習サポーター」という支援システムを作り、学生を支援してきた。さらに学芸カフェテリアにおいても、年間100以上の講座を開いて学生のキャリア支援と学修支援を行っている。 第3期中期目標期間においては、これらを継続するとともに、その支援の質をさらに高める。また教職員が、学生の支援のための基本的知識とスキルを獲得する仕組みを作る。	21 ②-1 平成27年度の組織再編によって設置した教育支援課程の学生のキャリア支援に対応するスタッフを学生キャリア支援室に置くとともに、各支援組織における専門スタッフのスキルアップを、専門研修への参加などにより高めていく。	②-1-1 計画実施済み			
	22 ②-2 各支援組織の専門スタッフによって学生支援に関する体系的なPD(Professional Development)を定期的実施し、教職員がそれに参加するための仕組みを、平成30年度までに作る。	②-2-1 計画実施済み			
(4) 入学者選抜に関する目標	(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、受験生募集や入学試験業務を効率化するため、複数選抜単位間における入試問題の共通化を実施した。また、教育に関して高い関心を持つ学生を確保するため、学力試験から面接への入試方法の変更や高大接続プログラム特別入試を実施するとともに、学校訪問や大学説明会を通して、学校教員や教育支援者の魅力を伝える広報活動を展開した。 第3期中期目標期間においては、入学者選抜方法を改革し、教育者として必要な学力を有し、次世代育成教育を担う学校教員や教育支援者として活躍できる人材となる入学生をこれまで以上に確保するため、アドミッション・オフィスの機能を持つ組織を設け、アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜を導入する。併せて、国際バカロレア資格を有する受験生を対象とした入試も含めて、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜に改める。	23 ①-1 次世代育成教育を担う教員・教育支援者となるべき人材として、教育者として必要な学力、コミュニケーション力、協働力、教育に対する意欲・適性を的確に評価し、選抜するための方法及び選抜単位の検討を、平成28年度より開始する。併せて、アドミッション・ポリシーの見直し、アドミッション・オフィスの機能を持つ組織の設置、国際バカロレア入試の開始等に関する具体的な検討も開始し、高大接続改革実行プランに基づく大学入試改革に合わせて選抜方法を改革する。	①-1-1 計画実施済み			
	24 ①-2 次世代育成教育を担う教員・教育支援者となるべき学生を入学させるため、学校教員及び教育支援者の魅力を高等学校等に発信する広報活動を積極的に行う。併せて、本学を受験する生徒の多い関東地方の高等学校等に学校訪問を行い、本学に対する認知度を向上させるとともに、教員や教育支援者を志望する高校生の実情を的確に把握する。	①-2-1 計画実施済み			
	25 ①-3 平成27年度から開始した高大接続による教員養成プログラムの検証を行い、4年間の大学在籍中及び卒業後2年間の追跡調査を実施し、今後の教員養成教育の改善に資するため、平成33年度までに各種データの集積・分析に基づく評価を行う。	①-3-1 高大接続による教員養成プログラムによる新入生及び在学生の調査を引き続き実施するとともに、卒業生への調査を実施し、データの分析等を行う。	学部教育・学生支援担当	高大接続による教育養成プログラム実施委員会	入試課、(附属学校課)、(学務課)、(研究支援課)
2 研究に関する目標	2 研究に関する目標を達成するための措置				
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標	(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、教育実践研究推進本部を設置し、機関として教育研究を推進していく体制を整備した。また、外部資金を積極的に獲得するよう奨励し、質の高い研究を維持してきた。その結果、本学は、科学研究費助成事業採択率が全国の大学の中でもきわめて高く、平成25年度、26年度はいずれも全国上位であった。 第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を主導していくため、新たな教育基盤の確立に寄与する基礎研究を積極的に行う。また、そのために不可欠な研究費の充実のため、科学研究費助成事業の申請数を向上させる。	26 ① 次世代育成教育に関する研究を行うとともに、特に外部資金の獲得を重視する。そのため、科学研究費助成事業の申請数と採択数を向上させる取組として、申請相談会の複数回開催、不採択者への研究継続支援、新人教員への申請方法説明会、男女共同参画推進本部による計画調書記載のメンター制度などを実施し、科学研究費助成事業の新規申請数を130件以上に増加させるとともに、第2期中期目標期間中の高い採択数を維持する。	①-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
<p>② 第2期中期目標期間に設置した教育実践研究推進本部において、附属学校教員と大学教員とが協働して研究を実施する「特別開発研究プロジェクト」を推進し、その成果を社会に発信してきた。また、大学教員全員が附属学校研究会に所属して共同研究を行う仕組みを作り、大学と附属学校が緊密な関係を持って研究を進める体制を作ってきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを踏まえて次世代育成教育の実現に向けて大学と附属学校との共同研究を一層進展させるとともに、その研究成果を社会に発信し、新しい教育の推進に努める。</p>	27	② 教育実践研究推進本部における研究プロジェクトの枠組みや実践規模を拡充し、附属学校等の教育現場をフィールドとした実践研究を推進する。併せて大学と附属学校とで協働して「附属学校と協働した教員養成系大学による、経済的に困難な家庭状況にある児童・生徒へのパッケージ型支援に関する調査研究プロジェクト」を進め、その研究成果を大学や附属学校の教育及び教育支援に反映させるとともに、全国に発信する。	②-1 計画実施済み		
	28	③-1 日本の教育システムをOECD及び教員養成国際コンソーシアム等を通じて世界に広めるため、教材研究・授業計画・授業実践・授業研究から構成される授業と授業研究を体系化し、「優れた授業作り」の映像教材を作成する。そして、この成果を国内の教員養成や教員研修でも活用し、教員の質の向上に貢献する。	③-1-1 計画実施済み		
	29	③-2 次世代に向けて新たに育成すべき児童・生徒のメタ認知能力・批判的思考力・協働的問題解決能力などを教育実践の中で伸ばすために、授業場面で教員がこれらの能力の様相を的確に把握できるような評価方法の研究開発を行う。	③-2-1 計画実施済み		
	30	③-3 協働的問題解決力やコミュニケーション力を伸ばさせる授業活動を行うために、附属学校と協働して、アクティブ・ラーニング及びICTを活用した授業実践の研究を行う。	③-3-1 計画実施済み		
	31	④-1 教員養成を行う全国の大学・学部に対して、HATOプロジェクトの研究成果を情報発信し、かつ、継続的に相互交流と相互支援を実施するために、HATOプロジェクト構成4大学に情報発信とフィードバックの拠点を整備し、交流する大学を拡げていく。また、教育支援者育成についても本学が拠点として機能するように図る。	④-1-1 計画実施済み		
<p>④ 教員養成及び教育支援者養成の質の向上を図り、学校教育に対する社会からの付託に応えるため、「大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築－教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト－」の成果をHATOプロジェクト構成4大学が連携して全国の教員養成系大学・学部が発信することによって、全国の学校教育の質の高度化や地域の特性に適合した教育の実践を支援する。</p>	32	④-2 教員養成を行う大学、全国の学校、教育委員会等からの要望に対応する現在の重要な教育課題及び新たに提起されてくる問題の解決を行うために、解決に寄与するカリキュラム・教材・指導法等の方策を具体化する。	④-2-1 計画実施済み		
	33	④-3 全国の学校教育の質の高度化や地域の特質へ適合した教育の実践を実現するために、HATOプロジェクト構成4大学を中心に教育委員会等現場と連携し、地域や現場のニーズに対応した課題解決に向けて、セミナーや講習会等を実施する。	④-3-1 計画実施済み		
<p>⑤ 第2期中期目標期間においては、教育委員会や民間企業等と連携しながら「国際算数・数学授業改善のための自己向上機能を備えた教員養成システム開発」、「日本型教員養成教育アクレディテーション・システムの開発研究」、「デジタル読解力のための教科書連携型デジタル教材の認証・評価と研修・養成の研究」、「国際的な地球環境学習のプロジェクト(GLOBEプログラム)」、「情報通信技術活用による教員養成機能の高度化と教育の情報化に対応できる教員の養成体制の構築」等の研究に取り組んできた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を推進するために、全国の教育現場と連携しながら、これまでの研究をさらに発展させ、より一層教員の質の向上を図るための研究を推進するとともに、その成果を社会に発信する。</p>	34	⑤ これまでの研究成果を踏まえながら、教員養成教育の質の向上やデジタル教材、ICT教育に関する研究をさらに進めるとともに、その研究成果を、教育委員会や民間企業と連携して、実際の授業や学校教育に利用できる形で発信する。また、環境教育の実践事例を共有するために、成果を全国に発信する。	⑤-1 計画実施済み		

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
<p>⑥ 第2期中期目標期間においては、東京学芸大学大学史資料室を設置し、これまで本学に蓄積されてきた資料の整理と管理を積極的に開始した。また、それに基づいた展示を行うとともに、その資料目録と資料に基づいた研究成果をウェブサイトや「大学史資料室報」で広く公開してきた。さらに平成27年度には旧師範学校資料に関するアーカイブズシステムの構築も開始している。</p> <p>第3期中期目標期間においては、教育の拠点大学として、これまでの成果を踏まえて旧師範学校資料を中心とした日本の教育史資料をさらに収集、整理、公開し、広く国内外に提供するとともに、それに基づいた教員養成及び教育実践の歴史的研究を進める。</p>	35 ⑥ 旧師範学校資料に関するアーカイブズシステムをより高度なものとし、主要な旧師範学校資料を広く含むものとするともに、関連する資料の整理・公開を進め、さらにそれらに基づいた研究及び研究成果を公開する。	⑥-1 計画実施済み			
<p>⑦ 第2期中期目標期間においては、学校や教育委員会とのつながりや、複数のウェブサイトによる情報発信等を通じて、研究成果のアウトリーチ活動の基盤を作るとともに、実施してきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、教育の拠点大学として、学校教育や教育支援に関する研究成果とその意義についての理解と認識を得るため、次世代育成教育のモデルを発信するなど、大学教員を中心として積極的なアウトリーチ活動を実施する。</p>	36 ⑦ 様々な教育現場等のニーズを把握するとともに、研究成果を発信するためのウェブサイトを整備し、アウトリーチ活動の基盤を強化する。そして研究会、公開講座、イベント等を行い、アウトリーチ活動を積極的に展開する。	⑦-1 計画実施済み			
(2) 研究実施体制等に関する目標					
<p>① 第2期中期目標期間においては、産学連携や受託研究などの個人研究のレベルから、本学の教育実践研究推進本部がマネジメントする大学と附属学校間の共同研究、さらにはHATOプロジェクトや東アジア教員養成国際コンソーシアム事業などの国内外との共同研究に至るまで、様々なレベルの研究ネットワークを構築してきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、このような本学の強みを生かした先導的な教育実践研究とその基盤となる基礎研究の水準をさらに向上させ、次世代育成教育の実現と現代社会で生じる多様な課題の解決に資する研究を推進するために、これまで構築してきたネットワークを活かしながら、効果的な研究マネジメントを行う。</p>	37 ①-1 国内外の大学・附属学校・地方自治体・教育委員会・NPO・民間企業等との間に構築してきたネットワークを戦略的に活用した研究マネジメントを可能にする体制を作り、OECDや教員養成国際コンソーシアムなどのネットワークとのつながりを強化するとともに、個々の教員との結び付きをより強固なものにする。	①-1-1 計画実施済み			
	38 ①-2 本学の強みを生かした先導的な教育実践研究とその基盤となる基礎研究の水準をさらに向上させ、現代社会で生じる多様な教育課題の解決に資する研究を戦略的に推進するために、現在九つある学内のセンターを平成31年度までに「養成」と「研修」の機能に再編し、それぞれの機能の基盤となる研究体制を整備する。	①-2-1 計画実施済み			
<p>② 第2期中期目標期間においては、男女共同参画推進本部において、女性教員の研究活動を支援するための研究補助員制度の運用を開始し、その成果として、本学女性教員の科学研究費助成事業採択率は全国でも上位となっている。また、このような活動全体に対して、平成26年度に初めて創設された「東京都女性活躍推進大賞」を受賞し、社会的に高い評価を得ている。また、平成22年度には、学芸の森保育園も学内に開設し、子育てをする教職員の便宜を図っている。</p> <p>第3期中期目標期間においては、教員と事務職員が一体となって研究を推進していくために、支援制度を拡大し、多様な支援策を実施する。</p>	39 ② 子育て、介護又は看護中の教員の研究活動を支援するために整備した研究補助員を、教員以外の事務的な補助業務を行う者にも対象を拡げ、教育研究支援全体の補助員として活動の範囲を拡大する。また、制度の適用を希望する教職員への補助員措置率を100%とし、この制度の活用を促進することにより、女性教職員の割合についても現在の30%程度を維持する。	②-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置				
<p>① 第2期中期目標期間においては、東京都及び大学周辺5都市(小金井市・国分寺市・小平市・三鷹市・武蔵野市)を始めとして、岩手県二戸市、神奈川県横浜市、滋賀県湖南市、高知県等のいくつかの自治体と連携して、理科教育、英語教育、ICT教育、道徳教育、国際バカロレア教育等の支援を行ってきた。また、日本教育大学協会や一般社団法人教育支援人材認証協会等と連携して、様々な教育活動を展開してきた。理科教員高度支援センターにおいては、現職教員を対象として「理科教育研修講座」を年間約30回実施し、300人以上が参加した。第3期中期目標期間においては、これらを継続するとともに、教育の拠点大学として連携する教育機関を増やし、次世代育成教育に必要な新しい教育力と、多様化・複雑化した教育課題に対応する力をつけるための現職教員研修を広範囲に行う。</p> <p>② 第2期中期目標期間においては、大学周辺の地方自治体と包括連携協定を結ぶとともに、FC東京や読売ジャイアンツの活動に地域と共に取り組んできた。また、地元組織と連携し、「青少年のための科学の祭典」や環境教育活動、地域のニーズに応えた公開講座などを実施しており、併せて図書館も地域に開放してきている。さらに、外部団体と協働して行ってきた地域のスポーツ活動の推進に向けて、総合グラウンド及び野球場などの整備充実を進めた。第3期中期目標期間においては、これらを継続するとともに、地域とより緊密な関係を築き、多様な活動を通して地域の活性化に貢献する。</p> <p>③ 第2期中期目標期間においては、NPO法人東京学芸大子ども未来研究所を中心に、積極的に民間企業と連携しながら、親子のコミュニケーションを促進するコンテンツの開発や、「笑いやユーモア」をテーマとした「SUMMER SMILE SCHOOL」を展開してきた。第3期中期目標期間においては、これらを継続するとともに、連携する企業を増やし、本学の教育研究成果の社会における活用を促進させる。</p>	40	①-1 教育委員会のニーズ及び教員の資質能力の向上・教育研究の一層の活性化に向けた課題を調査する。そして、教育委員会との協定締結を進めて連携を深め、学校現場のニーズに沿った現職教員研修を行う。	①-1-1 計画実施済み		
	41	①-2 理科教員高度支援センターにおいては、第2期中期目標期間と同規模の研修を実施する。また、現職教員を対象とした公開講座を積極的に開講する。	①-2-1 計画実施済み		
	42	②-1 地域住民、周辺自治体と連携を図るため、教職員と学生に地域での教育活動への参加を促し、地域住民等と定期的に交流する。そして個別に展開している取組を組織的にフォローする。さらに、教職員、学生による本学の教育研究成果を公開講座等を通じて地域に伝えるとともに、地域の人材が本学で活動できる仕組みを作る。	②-1-1 計画実施済み		
	43	②-2 FC東京及び小金井市と連携した「学芸大クラブ」の活動等を行い、東京オリンピック・パラリンピックのサポートを視野に入れつつ、地域におけるスポーツ及び文化活動を推進させる。	②-2-1 計画実施済み		
	44	③ 社会のニーズと大学のシーズを効果的にマッチングさせ、企業等と連携した共同研究等を積極的に行うとともに、NPO法人東京学芸大子ども未来研究所と協働した活動を進める。	③-1 計画実施済み		
4 その他の目標	4 その他の目標を達成するための措置				
(1) グローバル化に関する目標	(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、50校以上となった大学間交流協定締結校に対する交換留学を推進するとともに、東アジア教員養成国際コンソーシアムの拠点校として、学生の研究交流に取り組み、博士課程在学生の海外における研究発表を支援してきた。これに加えて平成27年度からは、海外の大学への留学やサマープログラムへの参加を促進するために、東京学芸大学基金から5年間毎年最大1,000万円の支援金を支出することとした。第3期中期目標期間においては、日本社会のグローバル化が一層進展するという認識の下に、これまで行ってきた海外への派遣留学をさらに発展させ、海外における生活体験や教育体験をする学生を増やす。それにより、グローバル化に基づく教育課題に対応する力を持った教員・教育支援者を養成する。	45	① 東京学芸大学基金及び様々な外部資金による支援に基づいて、海外における多様な教育を体験するための独自プログラムを創出し、学校教育系と教育支援系の双方の学生を、積極的に海外に派遣し、それをカリキュラム上に位置付ける。また、「東アジア国際大学院プログラム」に基づいた大学院生の交流を実施する。	①-1 計画実施済み		

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
<p>② 第2期中期目標期間においては、教員研修留学生や交換留学生等、様々な形で留学生を毎年300人～500人受け入れてきた。また、英語のみで行う日本の教育や日本文化・社会に関する授業科目も開設して、留学生に提供してきている。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを踏まえ、修士課程における国際バカロレア教員養成プログラムとも連携させながら、英語で行う授業等を増やし、日本の教育や日本文化・社会について学びやすい体制を作るとともに、日本の教育を世界に発信する基礎を築く。また、本学学生と留学生との交流の機会を増やす。</p>	46 ② 平成31年度までに修士課程に国際バカロレア教員養成プログラムを設置するのに伴い、大学院に英語による正規の授業科目を開設する。また、「東アジア国際大学院プログラム」の枠組みを使いながら、海外の学生に研究指導をする体制を作る。さらに学生キャリア支援室による学芸カフェテリアの外国語ランチカフェの拡大や、留学生の協力を得た授業の実施など、本学学生に学内において留学生との交流を体験させる機会を増やす。	②-1 計画実施済み			
<p>③ 第2期中期目標期間においては、「国際協力の実施方針」を定めて、教育関連事業における国際協力を実現しやすい環境を作るとともに、JICA等と連携しながらモンゴル及びアフリカの教育支援を行ってきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、日本社会のグローバル化に対応した教育支援を行うために、国内における外国人児童・生徒の教育支援を行うとともに、海外の日本人児童・生徒の教育支援を行う。また、国際的機関と連携した教育支援を、可能なものから実施する。併せてグローバル化に関わる教育支援活動に学生も参加させることにより、教育支援者及び教育支援コーディネーターの養成にも資することとする。</p>	47 ③-1 日本国内の外国人が居住する地方自治体において、外国人児童・生徒教育の状況と課題を調査し、必要な対策を検討するとともに、学士課程及び修士課程のカリキュラムに教育支援活動を組み込んで、学生が積極的に関わることができるようにする。併せて教育研究成果を教育支援のモデルとして発信する。	③-1-1 計画実施済み			
	48 ③-2 公益財団法人海外子女教育振興財団、海外の日本人会等と連携して、在外教育施設の日本人児童・生徒教育の状況と課題を調査し、必要な対策を検討するとともに、学士課程及び修士課程のカリキュラムに教育支援活動を組み込んで、学生が積極的に関わることができるようにする。併せて教育研究成果を教育支援のモデルとして発信する。	③-2-1 計画実施済み			
	49 ③-3 日本の教育システムをOECD及び教員養成国際コンソーシアム等を通じて広めるため、教材研究・授業計画・授業実践・授業研究から構成される授業と授業研究を体系化し、「優れた授業作り」の映像教材を作成する。また、JICA等の国際機関等との連携による教育支援について、「モンゴル国障害児のための教育改善プロジェクト」を実施するほか、他のプロジェクトについての検討を行い、可能なものから実施する。	③-3-1 計画実施済み			
(2) 附属学校に関する目標		(2) 附属学校に関する目標を達成するための措置			
<p>① 第2期中期目標期間においては、国際バカロレア中等教育プログラム校である附属国際中等教育学校が、国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマプログラム校に認定されるとともに、スーパーグローバルハイスクール及びスーパーサイエンスハイスクールに認定された。また、附属高等学校がスーパーサイエンスハイスクールに認定されたほか、附属竹早小学校と附属幼稚園竹早園舎が合同で、幼小一貫教育の研究を行った。このようにそれぞれの地区の附属学校において、特色ある教育と研究を行ってきている。また、地区の特色を反映して附属高等学校は東京工業大学と、附属国際中等教育学校は東京外国語大学と高大連携の協定を結んでいる。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを踏まえて、小金井地区、世田谷地区、大泉地区、竹早地区、東久留米地区の各地区における教育と研究の特色をより明確にして、次世代育成に関する教育研究を地区ごとの特色に合わせて先導的に行う体制を作り、地域の拠点校としての役割を果たす。</p>	50	① 各地区において実施する特色ある教育研究を、大学における教育と研究に反映させながら進展させ、拠点校・モデル校として、その成果を地域に還元する。小金井地区は、大学と同一キャンパスに位置することを活用して、大学と一体となった研究及び教育のフィールドとして積極的に活用する場とする。世田谷地区は先導的な試みを行い、新しい教育のあり方を研究する場とする。大泉地区は、国際中等教育学校を中心にして、日本のグローバル化に対応した教育を先導的に行う場とする。また、全国の国際バカロレア教育を推進する拠点とする。竹早地区は、幼・小・中の一貫教育に関する研究を行う場とし、多様な教育のあり方を研究する。東久留米地区は、特別支援教育の先導的な研究を大学と一体となって進める場とする。	①-1 計画実施済み		
<p>② 第2期中期目標期間においては、大学教員全員が附属学校研究会に所属して共同研究を行う仕組みを作り、大学と附属学校が緊密な関係を維持する体制を作ってきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、この体制を継続するとともに、教育研究や教育実習において、大学と附属学校がより密接な関係を持つことにより、附属学校の機能を高めるとともに、次世代育成教育を担う教員養成の質の向上を図る。</p>	51	②-1 次世代育成教育を実践する場として附属学校を位置づけ、大学と附属学校の共同研究に基づく、新しい指導法を附属学校に導入するとともに、それを身に付けるための質の高い教育実習を実施する。併せてそこで得られた新しい知見を、次世代育成教育の方法に組み込む研究や学部授業へのフィードバック等を、大学と附属学校が協働して行う。	②-1-1 計画実施済み		

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
	52 ②-2 大学教員が附属学校における教育、研究に参加する機会をより増やすとともに、附属学校における講義や出前授業などを実施することによって大学教員と附属学校教員が協働するための基盤を強化する。	②-2-1 計画実施済み			
③ 第2期中期目標期間においては、附属特別支援学校において支援機器等の教材を活用した指導方法充実事業等の先導的研究を進めるなど、各地区の附属学校において独自の研究を行い、全国に発信してきた。 第3期中期目標期間においては、こうした活動を継続するとともに、附属学校が大学と協働して新たな研究に取り組み、現代的教育課題の解決に向けて、研究成果を全国に発信する。	53 ③-1 大学と附属学校との連携に基づいて、実践的研究を継続・推進し、質の高い教育課程や教育方法を開発するとともに、経済的に困難な家庭状況にある児童・生徒への支援に対する課題解決モデルを構築するための研究を進める。さらに、アクティブ・ラーニング及びICTを活用した授業実践の研究も共同で行う。そして、これらの成果を附属学校と大学が連携し、全国に発信する。	③-1-1 計画実施済み			
	54 ③-2 HATOプロジェクトで作成した、現代的な教育課題をキーワードにした映像コンテンツなどを大学の授業で活用するとともに、公立学校の教員研修等に活用できるように発信する。	③-2-1 計画実施済み			
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標	II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置				
1 組織運営の改善に関する目標	1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、学長がリーダーシップを発揮できる体制を確立するため、これまで非常勤であった理事及び監事(各1名)の常勤化、学長が各センター長を直接指名することとしたセンター長選出方法の改正、学長が検討している戦略について外部有識者に諮問する教育諮問会議の設置等により、ガバナンス機能を強化した。また、HATOプロジェクトIR部門及び学務課・学生課等において組織運営の改善のために様々な調査を行ってきた。 第3期中期目標期間においては、学長のリーダーシップの下で次世代育成教育を実現していくため、IRに基づいた教育と研究を戦略的に推進するとともに、適正な業務運営を維持するため、教職員の意識統一と職能発達を促進するための体系的な仕組みを作り、ガバナンスをより一層強化する。	55 ① IRに基づいた教育と研究を戦略的に推進するため、従来のIR及びHATOプロジェクトIR部門の成果を統合した全学的なIR体制を整備し、IR機能を高める。また、適正な業務運営を維持するため、平成30年度までにFD・SD推進本部をPD推進本部に発展的に改編し、IRに基づいたPD(Professional Development)を体系的に実施することにより、教員と事務職員が協働しながら大学の運営に参加するための意識統一と職能発達を促進する。	①-1 計画実施済み			
② 第2期中期目標期間においては、学長のリーダーシップの下で、戦略的な人的資源配分を行うべく、教員人事委員会を設置した。平成27年度の学部組織再編では、教員養成課程へより多くの教員を配置するとともに、新たな教員定員削減方針を定め、削減を開始した。さらに、教員人事の一部凍結するとともに、大学の機能強化を進めるため、HATOプロジェクトを推進する教員養成開発連携センター及び専門職学位課程へ専任教員を新たに配置した。 第3期中期目標期間においては、本学の機能強化に向けて優秀な若手教員の採用を促進するとともに、女性の躍進を推進するため、女性の管理職への登用を進める。これらにより、人事給与システムの弾力化や教育研究の活性化を図る。	56 ② 本学の機能強化のために、学長のリーダーシップの下で、教員の適正配置を実現する。また、積極的に優秀な若手教員を採用するとともに、年俸制ポストの拡充を行う。併せて、組織の活性化、女性の躍進を推進するため、女性の管理職への積極的な登用を行い、管理職に占める女性の割合を10%以上とする。	②-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
<p>③ 第2期中期目標期間においては、学長のリーダーシップの下で、適正な予算執行を行うべく、教育研究経費等見直しWGを立ち上げ、経費の抜本的な見直しを行ったほか、若手教員への研究費重点配分制度を導入した。</p> <p>第3期中期目標期間においては、適正な予算配分について再検討した上で、学内予算における学長裁量経費比率を高めることにより、次世代育成教育等を推進するための原資を確保し、戦略的な資源配分を行う。</p>	57 ③ 教育研究評議会の下に置かれた予算専門委員会で、不断に教育研究費を見直す。また、学内予算における学長裁量経費比率を第2期中期目標期間の最終年度である平成27年度現在で2.5%のところ、第3期中期目標期間の最終年度である平成33年度までに3%に引き上げ、引上分を次世代育成教育等の推進に取り組むための事業に充てる。	③-1 学長裁量経費の内容等を再検証し、比率の更なる引き上げに向けて検討する。	事務局長		財務課
2 教育研究組織の見直しに関する目標		2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置			
<p>① 第2期中期目標期間においては、教育の総合大学としての機能をより一層高めるために、教育支援課程を設置するとともに、専門職学位課程、博士課程の再編と整備を実施した。</p> <p>第3期中期目標期間においては、次世代育成教育の実現に向けて、これまで実施した再編・整備の検証を行うとともに、修士課程の再編を中心にして組織の整備を行う。また、高大接続改革実行プランに基づく大学入試改革に合わせて、学士課程の教育体制の見直しを検討する。併せて、現職教員研修のための組織を設置するとともに、学内のセンターを再編し、次世代育成教育の研究と実現に向けた体制を作る。</p>	58 ①-1 学士課程においては、平成27年度の組織再編の検証を行うとともに、高大接続改革実行プランに基づく大学入試改革に合わせて、教員養成カリキュラムと教育支援者養成カリキュラムをより緊密に結び付け、積極的に次世代育成教育を担う教育者の養成を行うための教育体制を構築する。	①-1-1 計画実施済み			
	59 ①-2 次世代育成教育を担い、教育支援者と協働して教育課題に対応する高度な力を持った教員を養成するとともに、学校を支援する人材及び教育支援をコーディネートする高度な専門性を持った人材を養成するために修士課程の組織を、平成31年度までに再編する。このため平成28年度より組織再編及び新カリキュラムの検討を開始する。専門職学位課程及び博士課程においては、平成27年度に行った組織整備の検証を行う。	①-2-1 計画実施済み			
	60 ①-3 現職教員に次世代育成教育を担うための研修を行う体制を整備する。このため、平成28年度より検討を開始し、平成31年度までに現職教員研修のための組織を設置する。また、次世代育成教育の実現に向けた先導的な実践研究とその基盤となる基礎研究の水準を向上させ、現代社会で生じる多様な教育課題の解決に資する学術研究を戦略的に推進するとともに、地域と連携しつつ社会に研究成果を発信するために、現在九つある学内のセンターを平成31年度までに「養成」と「研修」の機能に再編し、それぞれの機能の基盤となる研究体制を整備する。	①-3-1 計画実施済み			
3 事務等の効率化・合理化に関する目標		3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置			
<p>① 第2期中期目標期間においては、事務情報化のグループウェア機能を含む全学的な「学芸ポータル(教職員用)」システムの導入、SDプログラムの充実、事務組織の再編等により、事務の効率化・合理化を図ってきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、大学を取り巻く環境が大きく変化し、大学経営等における事務職員の役割がますます大きくなることから、事務職員の資質・能力の向上を継続して図るとともに、教員と協働して大学運営に当たるための知識を獲得させる。また、大学を取り巻く諸課題に的確に対応するため、事務組織の機能・編制の見直しを行う。</p>	61 ① 大学経営及び教育学に関するPD(Professional Development)を実施するとともに、他大学等との人事交流を実施し、職員の資質・能力の向上と幅広い視野を身に付けさせる。また、ICT活用や再雇用職員のキャリアを活用して事務の効率化・合理化を図りながら、大学を取り巻く環境に対応した事務組織の機能・編制の見直しを行うことにより、諸課題に取り組む体制を整備する。	①-1 計画実施済み			
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標		Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置			
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標		1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置			
<p>① 第2期中期目標期間においては、外部資金による自己収入を増加させるため、科学研究費助成事業獲得のための相談会など様々な取組を実施したほか、基金事務室の立上げにより寄附金獲得のための組織を整備した。</p> <p>第3期中期目標期間においては、科学研究費助成事業獲得のための取組や寄附金獲得のための活動を充実させることにより、自己収入の増加につなげ、教育研究の充実を図る。</p>	62 ① 科学研究費助成事業については、相談会の複数開催、不採択者への研究継続支援、新任教員への説明会、男女共同参画推進本部のメンター制度を活用した申請書作成支援等を実施し、申請数と採択数を向上させる。寄附金については、平成27年度から実施している寄附金を財源とした学生の短期留学補助事業、教員を目指す教職特待生への補助事業の成果について分かりやすく伝えることにより、基金の必要性をアピールして寄附を募る。これらの取組により、自己収入の増加につなげる。	①-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
2 経費の抑制に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、他大学との物品の共同購入、入札による電力供給契約、学内旅費規則の見直し等を通じて、経費の削減に取り組んできた。 第3期中期目標期間においては、財務データに基づく財務分析を行い、一般管理費率を抑制するとともに、非常勤講師に係る経費を抑制するなど、経費削減を行う。	2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 63 ① 学内予算における一般管理費比率を、電気料金など公共料金の値上げが見込まれる状況においても、平成26年度の3.3%から0.2%程度抑制するとともに、非常勤講師に係る経費等を見直し、削減する。	①-1 令和元年度一般管理費の分析結果に基づき、引き続き一般管理費の削減に努める。	事務局長		財務課
3 資産の運用管理の改善に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、外部専門家の意見を取り入れながら土地の一部売却を行うとともに、定期預金による資金の運用を実施し、平成25年度から東京多摩地区5国立大学法人による資金の共同運用を開始した。 第3期中期目標期間においては、引き続き、資産の効率的・効果的な運用と適切な管理を行う。	3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 64 ① 第2期中期目標期間の資金運用方法についての検証を行い、学生の教育支援等の経費を充実するため、毎年度策定する資金の管理運用方針等に基づき、安全性の確保を最重要として確実性の高い管理運用を積極的に行う。また、本学の土地・建物について、利用料金の見直しを実施し、外部への貸付けを行うなど、資産の効率的・効果的な運用と適切な管理を行う。	①-1 計画実施済み			
IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 1 評価の充実に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、教員の教育及び教育に関する研究と大学運営への積極的な取組を促進するため、教育活動、研究活動、社会貢献活動、大学の運営活動の四つの観点で教員の総合的業績評価を行ってきた。また、アニュアル・レポートを毎年発行し、各部署における業績を明示するとともに、学長が改善の指示を出しやすい体制を作った。 第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を主導する全国的拠点大学として、教員の教育及び教育に関する研究と大学運営への積極的な取組を実現するため、これまでの体制を活用しつつ、教員の評価をきめ細かく行う体制を構築する。	IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 評価の充実に関する目標を達成するための措置 65 ① 従来の業績評価を踏まえながら、教員の教育現場での教育実践に関する観点等を含め、次世代育成教育の推進に適合する新しい評価基準を策定する。	①-1 計画実施済み			
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、広報企画室、メディアラボを設置して、ウェブサイト、メールマガジン、SNSを中心に教育・研究活動、現職教員に対する研修活動、社会貢献活動に関する情報や入試関連情報等を公開・発信した。また、入試関係では、ウェブサイトと併せて、教職員が学校訪問や大学入試関連イベントに参加し、アドミッション・ポリシーや入試の詳細について説明を行った。さらに、附属図書館においてもリポジトリを充実させ、研究成果を積極的に発信した。 第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を主導する全国的拠点大学及び広く海外に日本の教育成果を発信する大学となるべく、ターゲットを意識して積極的に情報を公開・発信する。	2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置 66 ① 広報戦略室、メディアラボ及び附属図書館を中心として、ウェブサイト、大学ポータル等を活用し、教育・研究活動、現職教員に対する研修活動、社会貢献活動、入試等の関連情報について、積極的に情報公開を行うとともに、受験生、学校、教育委員会、企業等、ターゲットを意識した情報発信を行う。併せて、外国語による情報発信を充実させる。さらに、HATOプロジェクトをはじめとする教育研究プロジェクトにおける次世代育成教育の研究成果を積極的に発信する。	①-1 計画実施済み			
V その他業務運営に関する重要目標 1 施設設備の整備・活用等に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、施設設備委員会を設置してキャンパスマスタープランを策定し、教育研究環境の保持と有効利用に努めてきた。また、全学情報化マスタープランに基づいて、情報環境の整備を行ってきた。 第3期中期目標期間においては、本学の教育・研究環境にふさわしい施設を整備し、豊かな緑に恵まれた自然環境を有するキャンパスを未来に継承していくとともに、教育研究環境の質的向上を図り、自然環境の保護・保全並びに環境負荷の低減に配慮した施設の老朽化対策及び有効活用を行う。さらに、飛躍的に進展しているICT環境に合わせて、教育研究のための情報環境を改善していく。	V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 67 ①-1 「文部科学省インフラ長寿命化計画」を踏まえ、平成28年度中に行動計画を、平成32年度までに個別施設計画を策定するとともに、本学キャンパスマスタープラン及び設備マスタープランに基づき、教育・研究環境の質的向上、老朽・環境対策の推進、既存施設の有効活用など、計画的な維持管理を行う。さらに、地球温暖化対策に基づき、LED照明や高効率な空調機などの省エネ機器の導入及び節電等により、平成32年度までに本学の温室効果ガス排出量を、東京都温室効果ガス排出総量削減義務による排出上限量(18,715トン)以下とする。また、学芸の森環境機構や地域住民と連携しながら、自然環境の保全を行い良好な緑地を維持する。	①-1-1 インフラの維持管理・更新等を推進するための中期的な取組が明示された「個別施設計画」に基づき、計画的な維持管理・整備を行うとともに、引き続きキャンパスマスタープラン及び設備マスタープランに基づき、老朽・環境対策を推進する。また、省エネ機器の導入や全学的な省エネ活動を推進して省エネ・節電に取り組むとともに、策定した既存樹木に関する保全計画を順次実施する。	事務局長	施設設備会議	施設課、(財務課)

中期目標	中期計画	年度計画(令和2年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
	68 ①-2 第2期中期目標期間において策定した、施設の利用実態調査を踏まえた施設の有効活用に関する「施設利用計画」に基づき、改修工事やスペースの再配置等による既存施設の有効活用を推進し、新たな全学共通スペース等の創出や、狭い施設の解消等を図る。	①-2-1 計画実施済み			
	69 ①-3 情報化の進展に対応した教育・研究環境を整備するため、全学情報化マスタープランに基づき、無線LANの拡充やクラウド化等を検討しつつ、情報処理センターシステムのリプレイスなどを行うことにより、教育のICT化の進展に対応し、教育研究の充実を図る。	①-3-1 計画実施済み			
2 安全管理に関する目標	2 安全管理に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、安全・安心な教育研究環境を確保するため、定期的な防災訓練の実施と放射線量の測定、災害時の携帯マニュアルの作成・配付、放射線教育、AEDや非常用コンセントの設置、防災備蓄倉庫の増設などを行ってきた。 第3期中期目標期間においては、学生、教職員の安全に関する意識や防災意識を高めるとともに、第2期中期目標期間に策定した事業継続計画の内容を充実させる。	70 ① 学生、教職員の安全に関する意識と防災意識を高めるため、大学・附属学校において安全教育を行うとともに、定期的に防災訓練を実施し、参加経験のない新規採用教職員の参加を義務付ける。また、事業継続計画の内容を充実させ、災害発生時における大学中枢機能の継続性確保につなげる。	①-1 計画実施済み			
② 第2期中期目標期間においては、個人情報漏えいや不正アクセスによる被害等を防止するため、学外からのアクセス制限、パスワードポリシーの強化、情報セキュリティ研修の実施、ウイルスチェックの実施、非公開情報を記録したUSBメモリ等に関してパスワードロック機能を備えたものを使用するよう定めるなどの対策を行ってきた。 第3期中期目標期間においては、全学情報化マスタープラン及び情報セキュリティポリシーに基づく学内情報基盤の整備を行い、情報セキュリティを確保するとともに、研修等を実施し、学生・教職員の意識を向上させる。	71 ② 情報セキュリティを確保するため、引き続き脆弱性対策や学外からのアクセス制限等を行い、情報漏えい・不正アクセス防止を強化するとともに、情報セキュリティに関する意識を向上させるため、オリエンテーションや入門セミナー、新規採用職員研修会等を始めとして、学生・教職員を対象とした研修等を年5回以上実施する。	②-1 計画実施済み			
3 法令遵守等に関する目標	3 法令遵守等に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、研究における不正行為及び研究費の不正使用を防止するため、不正行為への管理・責任体制について、不正防止計画を毎年更新するなど、定期的な検証、改善を行ってきた。 第3期中期目標期間においては、これに加えて本学の研究活動における信認及び科学技術・学術の健全な発展のため、研究倫理教育責任者の下、広く研究活動に関わる者を対象とした研究倫理教育を定期的実施し、研究における不正行為及び研究費不正使用の防止を徹底する。	72 ① 研究における不正行為及び研究費不正使用の防止を徹底するため、不正行為防止に関しては、教職員と大学院生を対象に、eラーニングを利用した研究倫理に関する研修を実施し、倫理意識の向上を図る。不正使用防止に関しては、コンプライアンスに関わる研修会の複数回開催や学内ネットワーク等を活用した情報伝達により、教職員・学生に注意点を伝達する。	①-1 計画実施済み			

(4) 大学の目的

● 学則第1条

東京学芸大学は、人権を尊重し、すべての人々が共生する社会の建設と世界平和の実現に寄与するため、豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力・実践力に富む有為の教育者を養成することを目的とする。

(5) ミッションの再定義

	東京学芸大学 教員養成分野
学部等の教育研究組織の名称	教育学部（1065名） 特別支援教育特別専攻科（30名） 教育学研究科（M：279名、P：30名） 連合学校教育学研究科（20名）
沿革	<p>明治6年（1873年） 東京第一師範学校の前身である東京府小学教則講習所を設置</p> <p>明治41年（1908年） 東京第二師範学校の前身である東京府豊島師範学校を設置</p> <p>大正9年（1920年） 東京青年師範学校の前身である東京府立農業教員養成所を設置</p> <p>昭和13年（1938年） 東京第三師範学校の前身である東京府大泉師範学校を設置</p> <p>昭和24年（1949年） 東京学芸大学学芸学部を設置</p> <p>昭和41年（1966年） 学芸学部を教育学部に改称 大学院教育学研究科（修士課程）を設置</p> <p>昭和48年（1973年） 特殊教育特別専攻科を設置</p> <p>昭和63年（1988年） 教育学部に新課程を設置</p> <p>平成8年（1996年） 大学院連合学校教育学研究科（博士課程）を設置</p> <p>平成9年（1997年） 大学院教育学研究科（修士課程）に夜間大学院（総合教育開発専攻）を設置（現在は昼夜開講制に移行）</p> <p>平成19年（2007年） 特殊教育特別専攻科を特別支援教育特別専攻科に改称</p> <p>平成20年（2008年） 大学院教育学研究科に教職大学院（教育実践創成専攻）を設置</p>

<p>設置目的等</p>	<p>東京学芸大学の創基は、明治6年に設置された東京府小学教則講習所に遡り、その後、初等学校教員の養成（師範教育）を目的とした東京府（青山）師範学校に引き継がれた。昭和18年に東京府の諸師範学校が国に移管され、東京第一師範学校・同女子部、東京第二師範学校・同女子部、東京第三師範学校、東京青年師範学校となった。</p> <p>昭和24年の新制国立大学の発足時には、これら旧制諸学校を統合し、東京学芸大学学芸学部として承継された。東京学芸大学は、以来一貫して「有為の教育者」の養成を目的とし、今日に至っている。</p> <p>戦後の児童生徒の急増を背景に課程・入学定員が拡充され、昭和41年に教育学部となった。昭和63年に、教員需要の長期的な減少と将来的な変動に対応するべく、教員養成という機能のみにとらわれない新たな教育学部の構築に向けた積極的な改革として、新課程を設置し、教員養成課程の入学定員を縮小した。また、平成22年には、教員需要の増加に伴い、教員養成課程の入学定員を拡大した。</p> <p>また、教育学研究科（修士課程）が昭和41年に設置され、平成9年には専ら夜間において教育を行うため教育学研究科（修士課程）に夜間大学院（総合教育開発専攻）が、平成20年には現代的な教育課題に即応できるスクールリーダー等を養成するため教育学研究科に教職大学院（教育実践創成専攻）が設置された。</p> <p>さらに、教科教育学の専門研究者等を養成するため大学院連合学校教育学研究科（博士課程）が平成8年に設置された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>○ 東京学芸大学は、有為の教育者を養成することを目的として、幼稚園から博士課程までの教育組織を有し、東京都を中心とした広域型の拠点的作用を果たす。すなわち、今日の教育を支える初等中等教育教員の養成を行う。そして初等中等教育諸学校に将来のスクールリーダーたるべき教員を輩出するとともに、教員養成及び学校教育の研究に関する拠点として、学校教員の質の向上に貢献する。</p> <p>これらの機能強化のため、実践的カリキュラムを強化するとともに、グローバル化・情報化・環境問題など今日の学校に求められる新たな教育課題に積極的に取り組み、全教科を俯瞰しつつ、得意分野をもつ小学校教員を養成する。また、授業力だけでなく、生徒指導・学級経営などの力をもつ中等学校教員、専門性の高い特別支援教育教員・養護教員と幼稚園教員を養成する。このため、学部を再編するとともに、教員養成の高度化を率先して図るべく教職大学院及び連合学校教育学研究科（博士課程）の充実を図り、修士課程の見直し、高度な実践力を備えたスクールリーダー・学校管理職、教科指導力の高い教員を養成するための教育組織及びカリキュラム改革を行う。改革の工程としては、平成27年度に学部、教職大学院及び連合学校教育学研究科（博士課程）の再編を目指し、第3期中期目標期間中に修士課程の再編を行う。</p> <p>そこで、大学運営においては特に以下の二点について取り組む。</p> <p>i 実践的指導力の育成・強化を図るため、教科教育学等の実践的教育研究に関する優れた能力を有する教員を確保するとともに、現在約18%の学校現場で指導経験のある大学教員を増やす仕組みを整備し、第2期中期目標期間における改革を行いつつ、第3期中期目標期間末には20%以上を確保する。</p> <p>ii これまでの東京都及び地元教育委員会等との会議体を発展させ、大学に教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長等が構成員となる常設の諮問会議を設置したうえで、学部や大学院のカリキュラムの検証、養成する人材像、現職教員の再教育の在り方などについて定期的に意見交換を行い、教育への社会の要請を受けとめ、その質の向上を図る。</p> <p>○ 学士課程教育では、東京学芸大学の特色を継承し、英語、国際、情報に加え環境などの今日の教育課題に対応した教育組織に再編する。さらに附属学校や公立の連携協力校等を積極的に活用した観察実習の新設や学校インターンシップの実質化などによる4年間にわたる学校</p>

教育現場と往還した実習カリキュラム体制を整備して実践的能力を育成する。また、特別支援教育科目の必修に加え、教科と教職を有機的に結びつけた科目の他、現代的教育課題に対応する教職科目を強化する体系的なカリキュラムを構築する。これらにより、教科指導力と生徒指導力並びに学級経営能力を備えた初等中等教育諸学校でリーダーとなりうる教員を養成し、全国の教員養成機能の中心的役割を担う。

なお、卒業者に占める教員就職率（臨時的任用を含む）について、現状は73%（進学者を除く）であるが、今後の全国の教員採用需要見通しを踏まえ、第2期中期目標期間に学生定員の見直しを含む改革を行いつつ、第3期中期目標期間中も70%以上を確保する。

さらに、人間社会科学課程、国際理解教育課程、環境総合科学課程、情報教育課程及び芸術スポーツ文化課程については、第2期中期目標期間末までに、規模の縮小とともに社会的要請を踏まえた抜本的な見直しを図り、学校現場と協働する教育支援人材を養成する。

- 教職大学院では、東京都教育委員会等との連携により、学部修了者を対象として、より実践的な指導力・展開力を備え、教員集団や保護者、地域、他機関等と協働して新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成を行う。また、現職教員や管理職候補者等を対象として、地域や学校における指導的役割を果たし得る確かな指導的理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダー及び管理職を養成する。このため実務家教員と研究者教員の協働による授業や学校での実習等と連環する授業科目を充実し、理論と実践を往還・架橋する教育を行う。

なお、修了者（現職教員を除く）の教員就職率は、現状は100%であり、第2期中期目標期間に学生定員増を含む改革を行いつつ、第3期中期目標期間中は、進学者等を除き、引き続き90%以上を確保する。

- 修士課程では、高度の専門性と実践力をもった学校教員の養成と、現職教員の再教育を主な目的とする。学校教員養成においては、我が国の学校教育において必要とする高度な教科指導力と実践的課題解決能力を併せ持つカリキュラムの充実と新たな研究指導体制を構築するとともに、異なる免許種の取得にも道を拓く修士課程の再編を行う。

なお、第3期中期目標期間に改革を行い、学校教員養成系の専攻では教員就職率は60%（進学者を除く）を確保する。

- 連合学校教育学研究科（博士課程）では、教員養成を担う大学教員の養成を目的に、広域科学としての教科教育学の教育と研究を推進し、学位取得と研究者養成に関する高い実績を維持する。また、教員養成系の大学・学部や教職課程を持つ大学・学部では、学校現場での指導経験を有する教員が求められるため、現職教員が入学しやすい体制を整備し、現職経験者に高い研究能力を修得させるシステムを構築する。

- 附属学校等と協働して学校における実践的課題解決に資する研究活動を行うとともに、東アジアをはじめとする海外の教員養成大学と連携し、グローバル化に対応した教員養成プログラムの開発研究を推進する。また、大規模教員養成大学との連携のもと、IR、研修・交流、先導的実践プログラム開発を進めるとともに、教員養成評価の研究を推進して、我が国の教員養成大学・学部の機能強化に寄与する。

- eラーニングを活用した、最大規模かつ全国の教員を対象とした免許状更新講習の実施、教育委員会等が行う現職教員研修のプログラム開発、公開講座や各種研修等の実施により、我が国の教員の資質能力向上に寄与するなど、教員の研究活動等を通じて積極的な社会貢献活動を行う。

(6) 行動規範

● 国立大学法人東京学芸大学行動規範

平成 22 年 3 月 24 日制定

私たち国立大学法人東京学芸大学の役員及び職員は、教員養成を担う大学の一員であることを深く自覚し、次の諸点を行動規範として、自らの行動を厳しく律します。

1. 私たちは、日本の諸法令や本学の諸規程を遵守し、良識に従って行動します。
2. 私たちは、職場や社会において、人権を尊重し、あらゆる差別やハラスメントを許さず、行動します。
3. 私たちは、国民から付託された資産や資金を適正かつ効率的に管理し、経費の不正使用がないようにします。
4. 私たちは、高い倫理観をもって教育研究活動及びそれを支える活動に従事し、教育研究活動上のあらゆる不正行為がないようにします。
5. 私たちは、児童生徒・学生・職員の個人情報適切に保護するとともに、情報の開示に積極的に努めます。
6. 私たちは、本学の児童生徒や学生の教育を受ける権利を保障し、指導責任を果たすように努めます。
7. 私たちは、入学者の選抜を公平・公正かつ厳正に行うと共に、危機管理意識を高めてあらゆる事柄に対処します。
8. 私たちは、さまざまな関係者の意見に真摯に耳を傾け、誠意をもってこれに対応できるように努めます。
9. 私たちは、地域社会や諸機関・諸団体と相互信頼に基づくパートナーシップを築き、積極的に社会貢献できるよう努めます。
10. 私たちは、職場の環境改善に努めるとともに、職場における良好な人間関係を築くように努めます。

(7) 点検評価規程

国立大学法人東京学芸大学点検評価規程

平成22年5月13日
規程第19号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 東京学芸大学学則(平成16年学則第2号)第2条に規定する大学が自ら行う点検及び評価(以下「自己点検評価」という。)、学校教育法(昭和22年法律第26号)第109条第2項及び第3項に規定する認証評価(以下「認証評価」という。)並びに国立大学法人法(平成15年法律第112号)第35条において準用する独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第32条及び第34条に規定する各事業年度及び中期目標に係る業務の実績に関する評価(以下「法人評価」という。)の実施等に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。

(実施体制)

第2条 自己点検評価を実施し、並びに認証評価及び法人評価を受けるために必要な業務は、役員会の求めに応じて、戦略評価推進本部が行う。

第2章 自己点検評価

(自己点検評価の実施)

第3条 自己点検評価は、次に掲げることについて、年度単位で実施するものとする。

- (1) 諸活動等の点検評価(教育活動、研究活動、社会貢献活動、国際交流活動及び大学運営(以下「諸活動等」という。))についての組織的な状況に関する点検及び評価をいう。
- (2) 教員の総合的業績評価(大学教員及び附属学校教員に係る諸活動等の個人業績について総合的に行う点検及び評価をいう。)

(諸活動等の点検評価)

第4条 諸活動等の点検評価は、戦略評価推進本部が点検評価を行う組織の単位、点検評価の項目、様式、手続きの詳細その他必要な事項を定め、実施する。

- 2 諸活動等の点検評価を行う組織を代表する者は、所定の期日までに自己点検結果を戦略評価推進本部長に提出する。
- 3 戦略評価推進本部は、前項の自己点検結果を整理し学内に公表するとともに、自己点検結果を分析し、学長に報告する。
- 4 学長は、前項の報告に基づき評価結果案を作成し、経営協議会又は教育研究評議会の議を経て、評価結果を決定する。
- 5 前項までの規定のほか、大学院連合学校教育学研究所及び各附属学校にあっては、それぞれの組織において諸活動等の点検評価を実施することができる。
- 6 大学院連合学校教育学研究所又は各附属学校を代表する者は、前項の諸活動等の点検評価を実施し、評価結果を決定したときは、学長に報告しなければならない。

(教員の総合的業績評価)

第5条 教員の総合的業績評価は、常勤の大学教員及び附属学校教員を対象として各学系(教育実践創成講座及びセンターについては、総合教育科学系に含む。ただし、理科教員高度支援センターについては、自然科学系に含む。)又は各附属学校が、実施する。

- 2 前項の教員の総合的業績評価の実施については、役員会が定める指針及び基準等によるほか、必要な事項は、役員会又は各学系若しくは各附属学校において別に定める。

(自己点検評価結果の公表)

第6条 自己点検評価の評価結果は、ウェブサイトの利用その他広く周知を図ることができる方法により学内外に公表するものとする。ただし、教員の総合的業績評価による教員個別の評価

結果は、本人、学長及び学長が必要と認めた者以外に対して公表しない。

(自己点検評価結果の活用)

第7条 学長は、自己点検評価の評価結果に基づき、優れた取り組み及び改善を要する事項に対して所要の措置を講ずるものとする。

(外部評価)

第8条 学長が必要と認めるときは、自己点検評価の結果に基づき、外部評価(自己点検評価の一環として行う学外者による評価及び検証をいう。)を行うことができる。

- 2 外部評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 認証評価及び法人評価

(認証評価及び法人評価への対応)

第9条 認証評価及び法人評価を受けるにあたっては、評価機関等の示す実施要領等に基づき、戦略評価推進本部が、本学の対応について、その詳細を定めるものとする。

- 2 戦略評価推進本部は、学内の組織に対して、認証評価及び法人評価への対応のために必要な点検及び評価の実施、資料・データの提出等を求めることができる。

(評価結果の公表)

第10条 認証評価及び法人評価の評価結果等は、ウェブサイトの利用その他広く周知を図ることができる方法により学内外に公表するものとする。

(評価結果の活用)

第11条 学長は、認証評価及び法人評価の評価結果に基づき、改善が必要なものについては、その改善に努めなければならない。

第4章 改善措置等

(改善措置の提言)

第12条 戦略評価推進本部は、自己点検評価、認証評価及び法人評価の評価結果に基づき、学長に対し、改善を要する事項等に関する改善措置等の提言を行うことができる。

(監事の監査)

第13条 監事は、自己点検評価、認証評価及び法人評価の評価結果に基づき策定された改善措置の有効性について、監査する。

(本部員等の義務)

第14条 自己点検評価の実施にかかわる戦略評価推進本部員その他の者は、自己点検評価の対象となる者の基本的人権に配慮するとともに、守秘義務を遵守しなければならない。

(評価資料及びデータ)

第15条 自己点検評価、認証評価及び法人評価に当たり収集した資料及びデータは、戦略評価推進本部が適切な方法で管理する。

- 2 前項の資料及びデータについては、役員会の議を経て、大学運営のための基礎資料として活用することができる。

(規程の改廃)

第16条 この規程の改廃は、役員会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成22年5月13日から施行し、平成22年4月1日から適用する。(以下省略)

令和2年度 戦略評価推進本部

本部長	中島 裕昭	理事・副学長（全体統括・総務担当）
本部員	佐々木幸寿	理事・副学長（教育・学生担当）
本部員	濱田 豊彦	副学長（学校教育・学生支援担当）
本部員	小嶋 茂稔	副学長（研究・特命事項担当）
本部員	奥住 秀之	学長補佐
本部員	坂口 謙一	学長補佐
本部員	中野 幸夫	学長補佐
本部員	小森 伸一	学長補佐
本部員	佐藤 節夫	戦略担当課長
本部員	中澤 重夫	学長室長
事務	後藤 智和	学長室員
事務	星名 陽平	学長室員
事務	松本明日香	学長室員
事務	大野 啓子	学長室員

アニュアル・レポート2020

令和2年8月 発行

編集 国立大学法人 東京学芸大学
戦略評価推進本部

発行 国立大学法人 東京学芸大学
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町4-1-1
電話（042）329-7111（代表）

